



## **Cisco UCS Director アドミニストレーション ガイド、リリース 5.0**

初版：2014 年 07 月 31 日

### **シスコシステムズ合同会社**

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2013-2014 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## 目次

### はじめに xv

対象読者 xv

表記法 xv

マニュアルに関するフィードバック xvii

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート xvii

### このリリースの新規情報および変更情報 1

このリリースの新規情報および変更情報 1

### 概要 3

Cisco UCS Director について 3

機能と利点 4

物理的および仮想的な管理機能 6

モデルベースのオーケストレーション 7

最初のログイン 8

システム設定の推奨順序 8

### ユーザとグループの管理 11

ユーザ ロールの管理 11

ユーザ ロールの追加 12

ユーザ タイプの管理 13

デフォルトのユーザ権限 13

すべてのポリシー管理者 14

請求管理者 16

コンピューティング管理者 18

グループ管理者 20

IS 管理者 22

ネットワーク管理者 24

オペレータ 26

サービス エンド ユーザ	29
ストレージ管理者	31
ユーザの役割および権限	33
グループの管理	38
グループまたは顧客組織の作成	38
パスワード ポリシー	39
パスワード ポリシーの作成	39
グループ予算ポリシー	40
グループ予算ポリシーの表示および編集	41
リソース制限値	41
リソース制限の表示	42
リソース制限の編集	42
管理プロファイルの設定	44
管理者プロファイルの作成	44
管理者パスワードの変更	45
ユーザの追加	45
現在のオンライン ユーザの表示	47
ユーザ アクセス プロファイルの管理	47
マルチロール アクセス プロファイル	47
ユーザ アクセス プロファイルの作成	48
ユーザ アクセス プロファイルの編集	49
ユーザ アクセス プロファイルの削除	49
プロファイルへのログイン	49
プロファイルの削除	50
デフォルト プロファイルの変更	50
認証および LDAP 統合	50
認証の環境設定	51
LDAP 統合	52
LDAP 統合の規則と制限事項	52
LDAP 統合の管理	53
LDAP サーバの設定	54
LDAP サーバのサマリー情報の表示	56

LDAP サーバの接続のテスト	57
LDAP 検索ベースDN エントリの追加	57
LDAP 同期システム タスクの実行	58
LDAP サーバの詳細の変更	58
LDAP サーバ情報の削除	59
シングル サインオン	60
シングル サインオンの有効化	60
グループおよび顧客組織のブランディング	60
ログイン ページのブランディング	62
カスタム ドメイン ロゴの設定	62
システム管理設定の管理	65
送信メール サーバの設定	65
電子メール テンプレートの使用	66
電子メール テンプレートの追加	67
電子メール テンプレートのプレビュー	68
デフォルトの電子メール テンプレートの設定	69
システム パラメータの設定（任意）	69
システム パラメータの設定	69
インフラストラクチャ システム パラメータの設定（任意）	71
ライセンスの更新	71
ライセンス使用率の確認	72
ライセンス使用率履歴の表示	72
リソース使用率データの表示	73
アプリケーション カテゴリの編集	73
ポータルのカスタマイズ	74
ログイン ページと背景イメージのカスタマイズ	74
アプリケーション ロゴのカスタマイズ	75
ファビコンのカスタマイズ	75
アプリケーション ヘッダーのカスタマイズ	76
日付表示のカスタマイズ	77
カラー テーマのカスタマイズ	77
ログアウト時のリダイレクト先のカスタマイズ	78

レポートのカスタマイズ	78
高度な制御	79
詳細な制御の有効化	79
ユーザ メニュー	80
ユーザ メニューの設定	81
ユーザ権限の設定	81
システム タスクの管理	81
ノードプールの作成	82
システム タスク ポリシーの作成	82
システム ポリシー タスクへのノードプールの割り当て	83
サービス ノードの作成	84
システム タスクへのシステム ポリシーの割り当て	85
システム タスクの実行	86
システム タスクの無効化	86
アイコンの管理	86
アイコンの追加	87
アイコンの編集	88
アイコンの削除	88
アイコンのプレビュー	89
サポート情報	89
サポート情報の表示	89
システム情報の表示	89
ログの表示	90
ログのダウンロード	90
デバッグ ログの開始	90
統合設定の管理	91
構成管理データベースの統合	91
CMBD 統合の設定	91
計測データのエクスポート	92
計測データのエクスポートの設定	93
変更レコード	93
変更レコードの表示	93

システムログ	93
システム ログの設定	93
ストレージおよび OVF のアップロード	94
複数言語のサポート	95
<b>物理インフラストラクチャの管理</b>	<b>97</b>
物理インフラ ストラクチャの管理について	97
サイトの追加	97
Pod の追加	98
物理的なアカウントの追加	100
マルチドメイン マネージャ アカウントの追加	102
ネットワーク要素の追加	103
DHCP ロギングのイネーブル化	105
接続のテスト	105
管理対象ネットワーク機器の接続テスト	105
物理アカウントへの接続のテスト	105
デバイス検出の有効化	106
<b>仮想インフラストラクチャの管理</b>	<b>109</b>
VMware の管理について	109
クラウドの作成	109
Cisco PowerShell エージェント インストーラのダウンロード	111
PowerShell エージェントの作成	111
クラウドの検出および接続の確認	112
接続のテスト	112
vCenter プラグインの表示	113
<b>ポリシーの管理</b>	<b>115</b>
ポリシー	115
コンピューティング ポリシー	116
コンピューティング ポリシーの作成	116
データ コレクション ポリシー	119
仮想アカウントのデータ コレクション ポリシーの設定	120
仮想アカウントのデータ コレクション ポリシーの関連付け	121
グループの共有ポリシーについて	121

グループ共有ポリシーの作成	121
ストレージ ポリシー	122
複数ディスク VM のストレージ ポリシー	122
ストレージ ポリシーの追加と設定	123
仮想ストレージ カタログ	125
仮想ストレージ カタログの設定	125
ネットワーク ポリシー	127
スタティック IP プール ポリシーの追加	127
ネットワーク ポリシーの追加	128
ネットワークング プロビジョニング ポリシー	130
ネットワーク プロビジョニング ポリシーの設定	130
VLAN プール ポリシー	132
VLAN プール ポリシーの設定	133
システム ポリシー	133
システム ポリシーの設定	133
OS ライセンス	137
OS ライセンスの追加	137
エンド ユーザ セルフサービス ポリシーについて	137
エンド ユーザ ポリシーの作成	138
仮想データセンターの管理	141
仮想データセンターの管理について	141
VDC アクション	142
仮想データセンターの追加	142
仮想データセンターの表示	145
仮想データセンターの編集	145
仮想データセンターの削除	148
仮想データセンターの複製	148
仮想データセンターのアプリケーション カテゴリの管理	151
仮想データセンター サービス プロファイル	151
仮想データセンター サービス プロファイルの追加	151
カタログの管理	155
カタログ管理について	155



カタログの公開	156
高度なカタログ パブリッシングについて	162
詳細カタログの公開	162
カタログの表示	164
カタログの編集	164
フォルダ内のカタログの並べ替え	170
カタログの複製	170
カタログの削除	171
展開するホストへのアクセス	171
カタログ フォルダの並べ替え	171
<b>セルフサービス プロビジョニングの使用方法</b>	<b>173</b>
セルフ サービス プロビジョニングについて	173
サービス リクエストについて	173
[標準] カatalog タイプを使用したサービス リクエストの作成	174
カタログ タイプを使用したサービス リクエストの作成 - 詳細	178
サービス リクエスト ワークフローと詳細	179
サービス リクエスト ワークフロー	179
サービス リクエスト詳細	179
サービス リクエストのワークフロー ステータスの表示	181
サービス リクエストのログ詳細の表示	182
サービス リクエストのスケジュール設定について	182
サービス リクエストのスケジュール設定	183
サービス リクエストの再送信について	183
サービス リクエストの再送信	183
その他のサービス リクエスト機能	184
サービス リクエストのキャンセル	184
サービス リクエストのロールバック	184
特定グループのサービス リクエストの表示	185
グループのサービス リクエスト履歴の検索	185
グループのサービス リクエスト履歴のエクスポート	186
アーカイブ済みのサービス リクエストの回復	186
サービス リクエストの承認プロセス	186

サービス リクエストの承認	187
サービス リクエストの拒否	187
サービス リクエスト承認の履歴の表示	188
サービス リクエストの承認履歴の検索	188
サービス リクエスト承認の履歴のエクスポート	188
サービス リクエストの予算作成	189
今月の利用可能な予算の表示	189
予算エントリの表示	189
予算エントリの追加	189
予算エントリの編集	190
予算エントリの削除	191
複数ディスクの VM プロビジョニング	193
複数ディスクの VM プロビジョニングについて	193
複数ディスクの VM プロビジョニングのワークフロー	194
複数ディスクを含むテンプレートについて	194
ディスク カテゴリの割り当て	194
ストレージ ポリシーの定義	195
ストレージ ポリシーの作成	195
カタログの作成	198
カタログの追加	198
VM ディスクの作成	204
チャージバック モジュールの使用方法	207
チャージバック機能について	207
予算ポリシー	208
予算ポリシーの設定	208
コスト モデル	209
コスト モデルの作成	209
VDC を編集してコスト モデルを含める	212
VDC へのコスト モデルの追加	212
VDC を編集してコスト モデルに含める	214
パッケージ ベースのコスト モデル	215
パッケージ ベースのコスト モデルの作成	216

ストレージ階層コスト モデル	217
階層へのコストの割り当て	218
階層へのデータストアの割り当てについて	218
階層へデータストアの割り当て	218
チャージバック レポート	219
今月のサマリーの表示	220
前月のサマリーの表示	220
月間リソース アカウンティング情報の表示	221
VM レベルのリソース アカウンティングの詳細の表示	221
VM レベルのチャージバックの詳細の表示	221
月間リソース アカウンティングの詳細のエクスポート	222
VM レベルのリソース アカウンティングの詳細のエクスポート	222
VM レベルのチャージバックの詳細のエクスポート	222
変更レコードについて	223
変更レコードへのアクセス	223
チャージバックの計算	223
システムのモニタリングとレポート作成	227
ダッシュボード	227
ダッシュボードの有効化	228
レポート ウィジェットの追加	228
ウィジェットデータの更新	228
サマリー	229
仮想マシン、クラウド、およびシステムのサマリー情報	229
サマリー レポート ウィジェットのカスタマイズ	229
インベントリ管理	230
システム インベントリの詳細情報へのアクセス	230
リソース プール	230
リソースの詳細情報へのアクセス	230
クラスタ	231
クラスタへのアクセス	231
イメージ	231
イメージへのアクセス	231

ホスト ノード	232
ホスト ノードへのアクセス	232
仮想マシン (VM)	232
VM へのアクセス	232
グループ レベル VM へのアクセス	233
トポロジ	233
トポロジ タイプへのアクセス	233
アセスメント	234
評価へのアクセス	234
レポート	234
レポートへのアクセス	235
ライフサイクルの管理	237
VM の電源設定の管理	237
VM のサイズ変更	238
VM スナップショットの管理	239
VM スナップショットの作成	240
スナップショットへの復帰	241
ゴールデン スナップショットのマーキング	241
スナップショットの削除	242
すべてのスナップショットの削除	242
仮想マシンのリース時間の設定	243
VM アクションの管理	243
VM の詳細の表示	244
スタック ビューの使用方法	245
VM の削除	245
VM ディスクの作成	246
VM ディスクの削除	247
vNIC の追加	248
vNIC の置換	249
vNIC の削除	250
VM クライアントの起動	251
VM の VNC コンソールの有効化	252

VM の VNC コンソール ウィンドウへのアクセス	252
VM の割り当て	253
VM クレデンシャル	255
VM クレデンシャルの表示	255
VM のインベントリ収集のリクエストの使用方法	255
VNC 接続のテスト	256
VM の複製	256
VM の VDC への移動	261
VM の再同期	262
CloudSense 分析の管理	263
CloudSense Analytics について	263
レポートの生成	264
アセスメントの生成	264
付録	267
ESX サーバでの VNC コンソールの設定	267





## はじめに

ここでは、次の項について説明します。

- [対象読者, xv ページ](#)
- [表記法, xv ページ](#)
- [マニュアルに関するフィードバック, xvii ページ](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート, xvii ページ](#)

## 対象読者

このマニュアルは、主に、Cisco UCS Director を使用し、次の 1 つ以上の分野の責任者で、それらの分野に関する専門知識を持つデータセンター管理者を対象としています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ
- 仮想化および仮想マシン

## 表記法

テキストのタイプ	用途
GUI 要素	<p>タブの見出し、領域名、フィールドのラベルのようなGUI要素は、[GUI 要素] のように示しています。</p> <p>ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルのようなメインタイトルは、[メイン タイトル] のように示しています。</p>

テキストのタイプ	用途
マニュアルのタイトル	マニュアルのタイトルは、イタリック体 ( <i>italic</i> ) で示しています。
TUI 要素	テキストベースのユーザ インターフェイスでは、システムによって表示されるテキストは、courier フォントで示しています。
システム出力	システムが表示するターミナルセッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
CLI コマンド	CLI コマンドのキーワードは、ボールド体 ( <b>bold</b> ) で示しています。 CLI コマンド内の変数は、イタリック体 ( <i>italic</i> ) で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x   y   z}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x   y   z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[ ]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。



**注意**

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

**ワンポイントアドバイス**

「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

**警告****安全上の重要事項**

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。警告の各国語版については、各警告文の末尾に提示されている番号をもとに、この機器に付属している各国語で記述された安全上の警告を参照してください。

これらの注意事項を保存しておいてください。

## マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバックフォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

## マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、毎月更新される『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。





## 第 1 章

# このリリースの新規情報および変更情報

この章の内容は、次のとおりです。

- [このリリースの新規情報および変更情報, 1 ページ](#)

## このリリースの新規情報および変更情報

次の表は、この最新リリースに関するマニュアルでの主な変更点の概要を示したものです。この表は、このマニュアルに加えられた変更やこのリリースの新しい機能をすべて網羅するものではありません。

表 1 : **Cisco UCS Director**、リリース 5.0 の新機能および動作変更

機能	説明	参照先
複数の LDAP サーバの設定をサポート	Cisco UCS Director では、Active Directory に加え、OpenLDAP もサポートされるようになりました。	<a href="#">認証の環境設定, (51 ページ)</a>
新しいユーザ ロール作成をサポート	Cisco UCS Director では、複数のユーザ ロールを作成し、それぞれのメニュー設定を定義できるようになりました。	<a href="#">ユーザ ロールの追加, (12 ページ)</a>
ユーザ グループのグループ共有ポリシーを定義する	このポリシーを使用して、リソースの読み取り専用または読み取り/書き込み権限を定義できます。	<a href="#">グループの共有ポリシーについて, (121 ページ)</a>
リソースのユーザ権限を定義する	グループ内のユーザが表示および共有できるリソースを指定できます。	<a href="#">ユーザアクセスプロファイルの作成, (48 ページ)</a>

機能	説明	参照先
通知用の電子メールテンプレートの追加をサポート	Cisco UCS Director インターフェイスを使用して電子メール テンプレートを作成し、通知用のデフォルトのテンプレートとして設定できます。	<a href="#">電子メールテンプレートの使用</a> , (66 ページ)
エンド ユーザ セルフサービス ポリシーの作成をサポート	エンド ユーザのセルフサービス ポリシーを作成して、ユーザが VDC で実行できるタスクを管理できます。	<a href="#">エンドユーザセルフサービスポリシーについて</a> , (137 ページ)
カタログのグループ化をサポート	フォルダ内の類似するカタログをグループ化できるようになりました。これらのフォルダは並べ替えることもできます。	<a href="#">カタログ管理について</a> , (155 ページ)



## 第 2 章

### 概要

---

この章は、次の内容で構成されています。

- [Cisco UCS Director について, 3 ページ](#)
- [最初のログイン, 8 ページ](#)
- [システム設定の推奨順序, 8 ページ](#)

## Cisco UCS Director について

Cisco UCS Director（旧称 Cisco Cloupia Unified Infrastructure Controller）は、次の標準的なテンプレートを使用する 64 ビットのアプライアンスです。

- Open Virtualization Format（OVF）for VMware vSphere
- Virtual Hard Disk（VHD）for Microsoft Hyper-V

Cisco UCS Director は、Cisco UCS および Cisco Nexus プラットフォームに基づく業界をリードする統合インフラストラクチャソリューションに、セキュリティで高度に保護された統合管理機能を提供します。

Cisco UCS Director は、Cisco UCS を通じて、コンピューティング階層とネットワーク階層の統合を拡張し、データセンターの管理者に包括的な可視性と管理機能を提供します。この製品は、Cisco UCS および Cisco Nexus プラットフォームをベースにした、NetApp FlexPod および ExpressPod、EMC Isilon、EMC VSPEX、EMC VPLEX、および VCE Vblock システムをサポートします。

Cisco UCS Director は物理的、仮想的、ベアメタル型の環境にわたって、リソースプールのプロビジョニングを自動化します。この製品は、正常性、ステータス、リソース使用率に関して、ネイティブな自動化されたモニタリング機能を提供します。Cisco UCS Director を使用して次を実行できます。

- すべてのサーバおよびアプリケーションを対象に、サービスプロファイルとテンプレートを作成、複製、および導入すること

- 全データセンターを対象として、仮想マシン（VM）の使用率を示すヒートマップを表示するなど、統合インフラストラクチャで組織の使用率、傾向、容量を継続的にモニタすること
- 作業者ごとにばらつきのない方法で ExpressPod および FlexPod インフラストラクチャの導入や容量の増設を行うこと
- Cisco UCS ドメインとそのコンポーネントを対象として、管理、モニタリング、報告を行うこと
- 物理的なインフラストラクチャ サービスを含むように、仮想サービス カタログを拡張すること
- 仮想化された作業負荷と仮想化されていない作業負荷の両方に対応するために、セキュリティで保護されたマルチテナント環境を管理すること

## 機能と利点

Cisco UCS Director の機能と利点を以下に示します。

機能	利点
中央管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 管理者に物理、仮想、ベアメタル環境全体のシステムをモニタリング、プロビジョニング、管理する単一インターフェイスを提供</li> <li>• 統合型ダッシュボード、レポート、ヒートマップを提供し、トラブルシューティングとパフォーマンスのボトルネックを削減</li> </ul>
セルフサービス カタログ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• エンドユーザが IT の規定したポリシーやガバナンスに沿って、新しいインフラストラクチャ インスタンスの発注および導入が可能</li> </ul>
適応型のプロビジョニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リアルタイムで利用可能な機能、内部ポリシー、アプリケーション ワークロード要件を使用して、リソースの可用性を最適化</li> </ul>
動的な容量管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 継続的なモニタリングにより、リアルタイムでインフラストラクチャ使用率を示し、キャパシティ プランニングと管理を改善</li> <li>• 使用率の低いリソースや使用率の高いリソースを特定</li> </ul>
複数のハイパーバイザのサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• VMware ESX、ESXi、Microsoft Hyper-V、Red Hat の各ハイパーバイザをサポート</li> </ul>

機能	利点
コンピューティングの管理	<ul style="list-style-type: none"><li>• 物理、仮想、ベアメタルの各サーバおよびブレードをモニタリング、管理、プロビジョニング</li><li>• エンドユーザがスナップショットを介して仮想マシンのライフサイクル管理とビジネス継続性を実現可能</li><li>• 管理者にサーバ使用率のトレンド分析を提供</li></ul>
ネットワーク管理	<ul style="list-style-type: none"><li>• 物理スイッチ、仮想スイッチ、動的ネットワーク トポロジをポリシーベースでプロビジョニング</li><li>• 管理者が VLAN、仮想ネットワーク インターフェイス カード (vNIC)、ポートグループ、ポートプロファイル、IPおよび動的ホスト制御プロトコル (DHCP) 割り当て、アクセス コントロール リスト (ACL) を、複数のネットワーク デバイスにわたって設定可能</li></ul>
ストレージの管理	<ul style="list-style-type: none"><li>• ファイラ、仮想ファイラ (vFiler)、論理ユニット番号 (LUN)、ボリュームをポリシーベースでプロビジョニングおよび管理可能</li><li>• 統合ダッシュボードにより、管理者が組織的な使用状況、トレンド、キャパシティ分析の詳細を包括的に可視性可能</li></ul>
Cisco CloudGenie	<ul style="list-style-type: none"><li>• Apple の iPad と iPhone、および Android デバイスによるモバイル管理を提供</li><li>• モバイルセルフサービス プロビジョニング、仮想マシン管理、および管理ダッシュボードの表示をサポート</li></ul>

## 物理的および仮想的な管理機能

<b>物理サーバの管理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 設定と変更の検出および収集</li> <li>• 物理サーバのモニタリングと管理</li> <li>• ポリシーベースでのサーバプロビジョニングの実行</li> <li>• ブレードの電力管理</li> <li>• サーバライフサイクルの管理</li> <li>• サーバの使用傾向と容量分析の実行</li> <li>• Preboot eXecution Environment (PXE) ブート管理機能を使用したベアメタルプロビジョニングの実行</li> </ul>	<b>仮想コンピューティング管理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 仮想コンピューティング環境の検出、収集、モニタリング</li> <li>• ポリシーベースでのプロビジョニングと動的リソース割り当ての実行</li> <li>• ホストサーバの負荷と電力の管理</li> <li>• VM ライフサイクルとスナップショットの管理</li> <li>• VM の容量とスプロール、ホストの使用率を評価するための分析の実行</li> </ul>
<b>物理ストレージの管理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ストレージファイラの検出、収集、モニタリング</li> <li>• ポリシーベースでの vFiler プロビジョニングの実行</li> <li>• ボリュームのプロビジョニングとマッピング</li> <li>• 論理ユニット番号 (LUN) と iGroup インスタンスの作成とマッピング</li> <li>• SAN ゾーン管理の実行</li> <li>• Network-Attached Storage (NAS) および SAN ベースのストレージのモニタリングと管理</li> <li>• ストレージ実装のベストプラクティスと推奨事項</li> </ul>	<b>仮想ストレージの管理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• vFiler のストレージおよびストレージプールの検出、収集、モニタリング</li> <li>• シックおよびシンクライアントを対象としたポリシーベースでのストレージプロビジョニングの実行</li> <li>• 新しいデータストアの作成と仮想デバイスコンテキスト (VDC) へのマッピング</li> <li>• VM へのディスクの追加とサイズ調整</li> <li>• 組織でのストレージ使用率のモニタリングと管理</li> <li>• 仮想ストレージの傾向と容量分析の実行</li> </ul>



物理ネットワークの管理	仮想ネットワークの管理
<ul style="list-style-type: none"> <li>物理ネットワーク要素の検出、収集、モニタリング</li> <li>複数のスイッチ間のプロビジョニング VLAN</li> <li>ネットワーク デバイスに対するアクセス コントロール リスト (ACL) の設定</li> <li>ストレージ ネットワークの設定</li> <li>動的ネットワーク トポロジの実装</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>VM へのネットワークの追加</li> <li>IP および DHCP 割り当てによるポリシー ベースでのプロビジョニングの実行</li> <li>VLAN およびプライベート VLAN に対する仮想ネットワーク インターフェイス カード (vNIC) の設定と接続</li> <li>VM のためのポート グループとポート プロファイルの作成</li> <li>組織での仮想ネットワークの使用率のモニタリング</li> </ul>

## モデルベースのオーケストレーション

Cisco UCS Director は、400 以上のタスクや、すぐに使用できるワークフローなどが含まれているタスク ライブラリを備えています。モデルベースのオーケストレーションとワークフロー デザイナを使用すると、インフラストラクチャの管理や運用タスクをカスタマイズしたり、自動化したりできます。また、個々の必要性に対応して、システムの拡張とカスタマイズを進められます。

次の表は、タスク ライブラリの 1 日目から 3 日目のメンテナンスおよび更新アクティビティを示しています。

1 日目	2 日目	3 日目
<ul style="list-style-type: none"> <li>テナントの追加</li> <li>申請者の移行または追加</li> <li>エンタープライズ システムとの統合</li> <li>セルフサービス ポータルの使用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パフォーマンスのモニタリング</li> <li>ミーティングおよび請求の開始</li> <li>テナントの変更の管理</li> <li>セルフサービス Infrastructure as a Service (IaaS)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハードウェアの追加とアップグレード</li> <li>用途変更</li> </ul>

## 最初のログイン

ホスト名と IP アドレスのいずれかと次のクレデンシャルを使用して、Cisco UCS Director にログインします。

- ユーザ名 : admin
- パスワード : admin



(注) 最初の管理アカウントを作成した後、起動時の管理アカウントを削除するか、少なくともデフォルトのパスワードを変更することをお勧めします。セルフサービス ポータルにアクセスするには、有効な電子メール アドレスが必要です。

## システム設定の推奨順序

次の表は、システム設定の推奨順序を示します。

項目	章	説明
初期設定	2、 3、4	ライセンスの適用、管理者プロファイルの設定、グループの作成、およびユーザの作成の方法について説明します。言語サポートへのアクセス、ポータルカスタマイズの適用、およびシステム設定の方法を習得します。
物理インフラストラクチャ		任意でのポッドと物理アカウントの追加、ネットワーク要素の追加、接続のテスト、およびアカウント検出の検証の方法について説明します。  (注) 必要に応じて、物理インストラクチャよりも前に仮想インフラストラクチャを作成できます。
仮想インフラストラクチャ	5	クラウドの作成、クラウド検出および接続の検証、接続のテスト、および vCenter プラグインの表示の方法について説明します。
ポリシー	6	コンピューティング ポリシー、ストレージ ポリシー、ネットワーク ポリシー、およびシステム ポリシーを作成して管理する方法について説明します。Microsoft Windows カタログの OS ライセンスを追加する方法を習得します。
仮想データセンター	7	グループ、ポリシー、コストモデルの特定の環境を管理するために VDC を設定する方法、さらに、VDC レベルでのリソース制限の設定および管理の方法について説明します。

項目	章	説明
カタログ	8	カタログ項目の設定方法、カタログへのアクセス権限をグループに追加する方法、およびカタログ項目の公開方法について説明します。
Self-Service プロビジョニング	9	プロビジョニング サービス リクエストの作成および管理方法について説明します。
Multi-Disk プロビジョニング	10	1つまたは複数のデータストアでVMディスクプロビジョニングを設定する方法を説明します。また、テンプレートで追加ディスクごとに個別のディスク ポリシーを設定する手順についても説明します。
チャージバック	11	チャージバック サマリー レポート、詳細レポート、およびリソースアカウンティングレポートを作成する方法について説明します。コストモデルが定義され、部門や組織内のポリシーに割り当てられる仕組みも示します。
クラウド管理	12	クラウドを完全に可視化し、リソース使用率をモニタし、クラウドスタック（クラウド、クラスタ、ホストサーバ、および仮想マシン）を管理する方法について説明します。
ライフサイクル	13	プロビジョニング後のライフサイクル管理アクション（VMの電源管理、VMのサイズ変更、VMスナップショット管理などのVMアクション）を実行する方法を説明します。
CloudSense	14	Cisco UCS Director で生成可能な、基礎となる物理インフラストラクチャと仮想インフラストラクチャに関する分析レポートについて説明します。
マクロ	15	マクロ機能を使用し、アプリケーションから提供される変数を使用してVM名とVMホスト名をカスタマイズする方法を説明します。





## 第 3 章

# ユーザとグループの管理

---

この章は、次の内容で構成されています。

- [ユーザ ロールの管理, 11 ページ](#)
- [ユーザ ロールの追加, 12 ページ](#)
- [ユーザ タイプの管理, 13 ページ](#)
- [デフォルトのユーザ権限, 13 ページ](#)
- [グループの管理, 38 ページ](#)
- [管理プロファイルの設定, 44 ページ](#)
- [ユーザ アクセス プロファイルの管理, 47 ページ](#)
- [グループおよび顧客組織のブランディング, 60 ページ](#)
- [ログイン ページのブランディング, 62 ページ](#)

## ユーザ ロールの管理

Cisco UCS Director は次のユーザ ロールをサポートしています。

- すべてのポリシー管理者
- 請求管理者
- コンピューティング管理者
- グループ管理者：ユーザを追加する権限を持つエンド ユーザ。このユーザはセルフサービス ポータルを使用できます。
- IS 管理者
- MSP 管理者
- ネットワーク管理者

- オペレータ
- サービス エンド ユーザ：このユーザはセルフサービス ポータルの表示および使用のみが可能です。
- ストレージ管理者
- システム管理者

これらのユーザロールはシステムで定義されており、デフォルトで使用できます。あるロールがデフォルトで使用できるかどうかは、[ユーザ ロール] ページの [デフォルトのロール] 列に [はい] とマークされているかどうかで判別できます。

システムの管理者は、ユーザ ロールについて次のタスクを実行できます。

- システム内で新しいユーザ ロールを作成し、そのロールのユーザを作成します。  
新しいユーザ ロールを作成する場合は、ユーザ ロールを管理者にするかエンド ユーザにするかを指定できます。ユーザ ロールの作成の詳細については、[ユーザ ロールの追加](#)、(12 ページ) を参照してください。特定のロールに対するユーザの作成の詳細については、[ユーザの追加](#)、(45 ページ) を参照してください。
- デフォルトのロールを含む既存のユーザロールを変更し、そのロールに関連付けられたユーザのメニュー設定と読み取り/書き込み権限を変更します。  
ロールのメニュー設定と権限を変更する手順は、ユーザロールを追加する手順と同じです。

## ユーザ ロールの追加

Cisco UCS Director に任意の数のユーザ ロールを作成し、そのロールのユーザのメニュー設定を定義できます。

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [ユーザ ロール] タブをクリックします。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [ユーザロールの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ユーザロール] フィールド	ユーザ ロールの名前。
[ロール タイプ] ドロップダウン リスト	追加するロールのタイプを選択します。この属性の種類は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 総務</li> <li>• エンド ユーザ</li> </ul>

名称	説明
[説明] フィールド	追加するロールの説明。

**ステップ 5** [次へ] をクリックします。

**ステップ 6** [メニューの設定] ペインで、このロールに定義されたユーザに表示されるメニュー オプションを選択します。

**ステップ 7** [次へ] をクリックします。

**ステップ 8** [ユーザ権限] ペインで、このロールで作成されたユーザの各種のタスクについて、読み取りまたは書き込み権限を選択します。

**ステップ 9** [送信] をクリックします。

### 次の作業

このタイプのロールを持つユーザを作成します。

## ユーザタイプの管理

システム管理者には、ユーザの追加、ユーザとユーザ権限の表示、さまざまなシステム コンポーネントに対する個別ユーザの読み取り/書き込み権限の変更など、Cisco UCS Director を管理するためのすべての権限が与えられています。

ほとんどのユーザは、ログイン時に管理ポータルを表示して使用します。

## デフォルトのユーザ権限

各管理ユーザは、Cisco UCS Director にアクセスするための権限セットを持っています。ユーザ権限のタイプは次のとおりです。

- **読み取り**：読み取り権限を持つ管理ユーザは、ファイルの読み取りのみを行うことができます。
- **書き込み**：書き込み権限を持つ管理ユーザは、ファイルの読み取り、書き込み、および変更を行うことができます。この権限では、ファイルの変更、削除、または名前変更が許可されます。
- **読み取り/書き込み**：読み取り/書き込み権限を持つ管理ユーザは、ファイルの読み取り、および書き込みを行うことができます。

## すべてのポリシー管理者

次の表は、全ポリシー管理者が実行できるアクションのリストを示します。

一般業務	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング	はい	いいえ
VM ラベル	いいえ	はい
vDC への VM 割り当て	いいえ	はい
仮想ストレージ	はい	いいえ
仮想ネットワーク	はい	いいえ
物理コンピューティング	はい	はい
物理ストレージ	はい	はい
物理ネットワーク	はい	はい
グループのサービス リクエスト	いいえ	いいえ
承認者のサービス リクエスト	いいえ	いいえ
予算	はい	いいえ
リソース アカウンティング	はい	いいえ
チャージバック	はい	いいえ
システム管理者	はい	いいえ
ユーザとグループ	はい	いいえ
仮想アカウント	はい	いいえ
カタログ	はい	いいえ
vDC	はい	いいえ



一般業務	権限	
コンピューティング ポリシー	いいえ	はい
ストレージ ポリシー	いいえ	はい
ネットワーク ポリシー	いいえ	はい
導入ポリシー	いいえ	はい
SLA ポリシー	いいえ	はい
リソース制限レポート	いいえ	はい
グループ ユーザ	はい	いいえ
CloudSense レポート	はい	いいえ
CloudSense アセスメント レポート	はい	いいえ
オーケストレーション	はい	いいえ
検出	はい	いいえ
MSP	いいえ	はい
自動化モジュールを開く	いいえ	いいえ
グループ ユーザ	いいえ	いいえ
CS 共有レポート	いいえ	いいえ
CS 共有評価	いいえ	いいえ
リモート VM アクセス	いいえ	いいえ
モバイル アクセス設定	いいえ	いいえ
エンド ユーザのチャージバック	いいえ	いいえ
リソース アカウンティングの書き込み	いいえ	いいえ
チャージバックの書き込み	いいえ	はい

一般業務	権限	
UCSD クラスタ	いいえ	いいえ

## 請求管理者

次の表は、請求管理者が実行できるアクションのリストを示します。

オペレーション	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング		
VM ラベル		
vDC への VM 割り当て		
仮想ストレージ		
仮想ネットワーク		
物理コンピューティング		
物理ストレージ		
物理ネットワーク		
グループのサービス リクエスト	はい	
承認者のサービス リクエスト		
予算	はい	はい
リソース アカウンティング	はい	
チャージバック	はい	
システム管理者		
ユーザとグループ		

オペレーション	権限	
仮想アカウント		
カタログ		
vDC		
コンピューティング ポリシー		
ストレージ ポリシー		
ネットワーク ポリシー		
導入ポリシー		
SLA ポリシー		
リソース制限レポート	はい	
グループ ユーザ		
CloudSense レポート	はい	はい
CloudSense アセスメント レポート		
オーケストレーション		
検出	はい	
MSP	はい	はい
自動化モジュールを開く		
グループ ユーザ		
CS 共有レポート		
CS 共有評価		
リモート VM アクセス		
モバイル アクセス設定		

オペレーション	権限	
エンドユーザのチャージバック		
リソース アカウンティングの書き込み		はい
チャージバックの書き込み		はい
UCSD クラスタ		

## コンピューティング管理者

次の表は、コンピューティング管理者が実行できるアクションのリストを示します。

オペレーション	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング	はい	いいえ
VM ラベル	いいえ	はい
vDC への VM 割り当て	いいえ	いいえ
仮想ストレージ	はい	いいえ
仮想ネットワーク	はい	いいえ
物理コンピューティング	はい	はい
物理ストレージ	はい	いいえ
物理ネットワーク	はい	いいえ
グループのサービスリクエスト	はい	いいえ
承認者のサービスリクエスト	はい	はい
予算	はい	いいえ

オペレーション	権限	
リソース アカウン ティング	はい	いいえ
チャージバック	はい	いいえ
システム管理者	はい	いいえ
ユーザとグループ	はい	いいえ
仮想アカウント	はい	いいえ
カタログ	はい	いいえ
vDC	はい	いいえ
コンピューティング ポリシー	はい	はい
ストレージ ポリ シー	はい	いいえ
ネットワーク ポリ シー	はい	いいえ
導入ポリシー	はい	いいえ
SLA ポリシー	はい	いいえ
リソース制限レポー ト	はい	いいえ
グループ ユーザ	はい	いいえ
CloudSense レポート	はい	いいえ
CloudSense アセスメ ント レポート	はい	いいえ
オーケストレーショ ン	はい	いいえ
検出	はい	いいえ
MSP	はい	はい

オペレーション	権限	
自動化モジュールを開く	いいえ	いいえ
グループ ユーザ	いいえ	いいえ
CS 共有レポート	いいえ	いいえ
CS 共有評価	いいえ	いいえ
リモート VM アクセス	いいえ	いいえ
モバイル アクセス 設定	いいえ	いいえ
エンドユーザのチャージバック	いいえ	いいえ
リソース アカウンティングの書き込み	いいえ	いいえ
チャージバックの書き込み	いいえ	いいえ
UCSD クラスタ	いいえ	いいえ

## グループ管理者

タスク	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング		はい
VM ラベル		はい
vDC への VM 割り当て		
仮想ストレージ		
仮想ネットワーク		
物理コンピューティング		

タスク	権限	
物理ストレージ	はい	はい
物理ネットワーク		
グループのサービス リクエスト	はい	はい
承認者のサービス リクエスト	はい	はい
予算		
リソース アカウンティング		
チャージバック		
システム管理者		
ユーザとグループ		
仮想アカウント		
カタログ	はい	
vDC	はい	
コンピューティング ポリシー	はい	はい
ストレージ ポリシー		
ネットワーク ポリシー		
導入ポリシー		
SLA ポリシー		
リソース制限レポート		
グループ ユーザ		
CloudSense レポート	はい	

タスク	権限	
CloudSense アセスメント レポート		
オーケストレーション		
検出		
MSP		
自動化モジュールを開く		
グループ ユーザ		
CS 共有レポート	はい	はい
CS 共有評価	はい	はい
リモート VM アクセス		
モバイル アクセス設定		
エンド ユーザのチャージ バック	はい	
リソース アカウンティン グの書き込み		
チャージバックの書き込み		
UCSD クラスタ		

## IS 管理者

タスク	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング	はい	いいえ
VM ラベル	いいえ	はい
vDC への VM 割り当て	いいえ	はい



タスク	権限	
仮想ストレージ	はい	いいえ
仮想ネットワーク	はい	いいえ
物理コンピューティング	はい	いいえ
物理ストレージ	はい	いいえ
物理ネットワーク	はい	いいえ
グループのサービスリクエスト	はい	いいえ
承認者のサービスリクエスト	いいえ	いいえ
予算	はい	いいえ
リソースアカウンティング	はい	いいえ
チャージバック	はい	いいえ
システム管理者	はい	いいえ
ユーザとグループ	はい	いいえ
仮想アカウント	はい	いいえ
カタログ	はい	はい
vDC	はい	はい
コンピューティング ポリシー	はい	いいえ
ストレージ ポリシー	いいえ	いいえ
ネットワーク ポリシー	はい	いいえ
導入ポリシー	はい	はい
SLA ポリシー	はい	はい
リソース制限レポート	はい	いいえ

タスク	権限	
グループ ユーザ	はい	いいえ
CloudSense レポート	はい	いいえ
CloudSense アセスメントレポート	はい	いいえ
オーケストレーション	いいえ	はい
検出	いいえ	はい
MSP	いいえ	はい
自動化モジュールを開く	いいえ	いいえ
グループ ユーザ	いいえ	いいえ
CS 共有レポート	いいえ	いいえ
CS 共有評価	いいえ	いいえ
リモート VM アクセス	いいえ	いいえ
モバイル アクセス設定	いいえ	いいえ
エンド ユーザのチャージバック	いいえ	いいえ
リソースアカウンティングの書き込み	いいえ	いいえ
チャージバックの書き込み	いいえ	いいえ
UCSD クラスタ	いいえ	いいえ

## ネットワーク管理者

タスク	権限	
仮想コンピューティング	はい	いいえ
VM ラベル	いいえ	はい

タスク	権限	
vDC への VM 割り当て	いいえ	いいえ
仮想ストレージ	はい	いいえ
仮想ネットワーク	はい	いいえ
物理コンピューティング	はい	いいえ
物理ストレージ	はい	いいえ
物理ネットワーク	はい	はい
グループのサービス リクエスト	いいえ	いいえ
承認者のサービス リクエスト	いいえ	いいえ
予算	はい	はい
リソース アカウンティング	はい	はい
チャージバック	はい	はい
システム管理者	いいえ	いいえ
ユーザとグループ	はい	いいえ
仮想アカウント	はい	いいえ
カタログ	はい	いいえ
vDC	はい	いいえ
コンピューティング ポリシー	はい	いいえ
ストレージ ポリシー	はい	いいえ
ネットワーク ポリシー	はい	はい
導入ポリシー	はい	いいえ
SLA ポリシー	はい	いいえ

タスク	権限	
リソース制限レポート	はい	いいえ
グループ ユーザ	はい	いいえ
CloudSense レポート	はい	いいえ
CloudSense アセスメント レポート	はい	いいえ
オーケストレーション	はい	はい
検出	はい	はい
MSP	はい	はい
自動化モジュールを開く	いいえ	いいえ
グループ ユーザ	いいえ	いいえ
CS 共有レポート	いいえ	いいえ
CS 共有評価	いいえ	いいえ
リモート VM アクセス	いいえ	いいえ
モバイル アクセス設定	いいえ	いいえ
エンド ユーザのチャージ バック	いいえ	いいえ
リソース アカウンティン グの書き込み	いいえ	いいえ
チャージバックの書き込み	いいえ	いいえ
UCSD クラスタ	いいえ	いいえ

## オペレータ

タスク	権限	
	読み取り	書き込み

タスク	権限	
仮想コンピューティング	はい	いいえ
VM ラベル	いいえ	はい
vDC への VM 割り当て	いいえ	はい
仮想ストレージ	はい	いいえ
仮想ネットワーク	はい	いいえ
物理コンピューティング	はい	いいえ
物理ストレージ	はい	いいえ
物理ネットワーク	はい	いいえ
グループのサービス リクエスト	いいえ	いいえ
承認者のサービス リクエスト	いいえ	いいえ
予算	はい	いいえ
リソース アカウンティング	はい	いいえ
チャージバック	はい	いいえ
システム管理者	はい	いいえ
ユーザとグループ	はい	いいえ
仮想アカウント	はい	いいえ
カタログ	はい	いいえ
vDC	はい	いいえ
コンピューティング ポリシー	はい	いいえ
ストレージ ポリシー	はい	いいえ
ネットワーク ポリシー	はい	いいえ

タスク	権限	
導入ポリシー	はい	いいえ
SLA ポリシー	はい	いいえ
リソース制限レポート	はい	いいえ
グループ ユーザ	はい	いいえ
CloudSense レポート	はい	いいえ
CloudSense アセスメント レポート	はい	いいえ
オーケストレーション	いいえ	いいえ
検出	いいえ	いいえ
MSP	いいえ	いいえ
自動化モジュールを開く	いいえ	いいえ
グループ ユーザ	いいえ	いいえ
CS 共有レポート	いいえ	いいえ
CS 共有評価	いいえ	いいえ
リモート VM アクセス	いいえ	いいえ
モバイル アクセス設定	いいえ	いいえ
エンド ユーザのチャージ バック	いいえ	いいえ
リソース アカウンティン グの書き込み	いいえ	いいえ
チャージバックの書き込み	いいえ	いいえ
UCSD クラスタ	いいえ	いいえ

## サービス エンド ユーザ

タスク	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング		
VM ラベル		
vDC への VM 割り当て		
仮想ストレージ		
仮想ネットワーク		
物理コンピューティング		
物理ストレージ		
物理ネットワーク		
グループのサービス リクエスト	読み取り	
承認者のサービス リクエスト	読み取り	書き込み
予算		
リソース アカウンティング		
チャージバック		
システム管理者		
ユーザとグループ		
仮想アカウント		
カタログ		
vDC		

タスク	権限	
コンピューティング ポリシー		
ストレージ ポリシー		
ネットワーク ポリシー		
導入ポリシー		
SLA ポリシー		
リソース制限レポート		
グループ ユーザ		
CloudSense レポート		
CloudSense アセスメントレポート		
オーケストレーション		
検出		
MSP		
自動化モジュールを開く		
グループ ユーザ		
CS 共有レポート		
CS 共有評価		
リモート VM アクセス		
モバイル アクセス設定		
エンドユーザのチャージバック	読み取り	
リソース アカウンティングの書き込み		
チャージバックの書き込み		



タスク	権限	
UCSD クラスタ		

## ストレージ管理者

タスク	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング	はい	
VM ラベル		はい
vDC への VM 割り当て		
仮想ストレージ	はい	
仮想ネットワーク	はい	
物理コンピューティング	はい	
物理ストレージ	はい	
物理ネットワーク	はい	
グループのサービス リクエスト	はい	
承認者のサービス リクエスト	はい	はい
予算	はい	
リソース アカウンティング	はい	
チャージバック	はい	
システム管理者	はい	
ユーザとグループ	はい	
仮想アカウント	はい	

タスク	権限	
カタログ	はい	
vDC	はい	
コンピューティング ポリシー	はい	
ストレージ ポリシー	はい	
ネットワーク ポリシー	はい	
導入ポリシー	はい	
SLA ポリシー	はい	
リソース制限レポート	はい	
グループ ユーザ	はい	
CloudSense レポート	はい	
CloudSense アセスメント レポート	はい	
オーケストレーション	はい	
検出	はい	はい
MSP	はい	はい
自動化モジュールを開く		
グループ ユーザ		
CS 共有レポート		
CS 共有評価		
リモート VM アクセス		
モバイル アクセス設定		
エンド ユーザのチャージバック	はい	はい

タスク	権限	
リソース アカウンティングの書き込み		
チャージバックの書き込み		
UCSD クラスタ		

## ユーザの役割および権限

次の表に、各管理ユーザ タイプに対応する権限のリストを示します。

権限	すべてのポリシー管理者	請求管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
仮想コンピューティング	読み取り		読み取り		読み取り	書き込み	書き込み	読み取り		読み取り
VM ラベル	書き込み				書き込み	書き込み	書き込み	書き込み		書き込み
vDC への VM 割り当て	書き込み				書き込み			書き込み		
仮想ストレージ	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
仮想ネットワーク	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
物理コンピューティング	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り

権限	すべてのポリシー管理者	請求管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
物理ストレージ	読み取り/書き込み		読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
物理ネットワーク	読み取り/書き込み		読み取り		読み取り		読み取り/書き込み	読み取り/書き込み		読み取り
グループのサービスリクエスト			読み取り	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み		読み取り
承認者のサービスリクエスト		読み取り	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み		読み取り		読み取り/書き込み
予算	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り
リソースアカウントリング	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り
チャージバック	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り
システム管理者	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
ユーザとグループ	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り

権限	すべてのポリシー管理者	請求管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
仮想アカウント	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
カタログ	読み取り		読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り
vDC	読み取り		読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り		読み取り
コンピューティングポリシー	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
ストレージポリシー	読み取り/書き込み		読み取り				読み取り	読み取り		読み取り
ネットワークポリシー	読み取り/書き込み		読み取り		読み取り			読み取り		読み取り
導入ポリシー	読み取り/書き込み		読み取り		読み取り/書き込み		読み取り	読み取り		読み取り
SLA ポリシー	読み取り/書き込み		読み取り		読み取り/書き込み		読み取り	読み取り		読み取り
リソース制限レポート	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り
グループユーザ	読み取り		読み取り	書き込み	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り

権限	すべてのポリシー管理者	請求管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
CloudSense レポート	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り	読み取り	読み取り
CloudSense アセスメント レポート	読み取り		読み取り							
オーケストレーション	読み取り		読み取り		読み取り/書き込み		読み取り/書き込み			
検出	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り/書き込み		読み取り/書き込み			読み取り/書き込み
MSP	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み			読み取り/書き込み
自動化モジュールを開く						書き込み				
グループユーザ						読み取り				
CS 共有レポート				読み取り/書き込み		読み取り				
CS 共有評価				読み取り/書き込み						

権限	すべてのポリシー管理者	請求管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
リモート VM アクセス										
モバイルアクセス設定										
エンドユーザのチャージバック			読み取り	読み取り		読み取り			読み取り	
リソースアカウントの書き込み		書き込み								
チャージバックの書き込み	書き込み	書き込み								
UCSD クラスタ										

# グループの管理

## グループまたは顧客組織の作成

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
- ステップ 2** [ユーザ グループ] タブをクリックします。
- ステップ 3** [追加] をクリックします。
- ステップ 4** [グループの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[名前] フィールド	グループまたは顧客組織の名前。
[説明] フィールド	グループまたは顧客組織の説明（必要な場合）。
[コード] フィールド	グループの短い名前またはコード名。この名前は、VM とホスト名テンプレートで使用されます。
[コストセンター] フィールド	（任意）コストセンターの名前または番号（必要な場合）。この名前または番号は、グループが関連付けられているコストセンターを表します。この名前は、VMware システム ポリシー VM の命名規則で使用できます。  命名規則にコストセンターを使用する方法の詳細については、 <a href="#">ポリシーの管理</a> 、（115 ページ）を参照してください。
[連絡先の電子メール] フィールド	この電子メールアドレスは、必要に応じてサービスリクエストとリクエスト承認のステータスをグループ所有者に通知するために使用されます。
[名] フィールド	連絡先の名。
[姓] フィールド	連絡先の姓。
[電話] フィールド	連絡先の電話番号。
[住所] フィールド	連絡先の住所。



フィールド名	説明
[Group Share Policy (グループ共有ポリシー)] ドロップダウン リスト	このグループ内のユーザのグループ共有ポリシーを選択します。 このドロップダウンリストにデータが取り込まれるのは、グループ共有ポリシーを作成した場合だけです。このポリシーの作成の詳細については、 <a href="#">グループ共有ポリシーの作成</a> 、(121 ページ) を参照してください。
[ユーザへのリソース割り当てを許可] チェックボックス	オンにすると、ユーザにこのグループのリソースが割り当てられ、それらのリソースを所有できます。またこれらのユーザは、グループに属するリソースを表示できます。ただし、ユーザ間でリソースを共有することはできません。

**ステップ 5** [追加] をクリックします。

### 次の作業

さらにグループを追加する場合は、この手順を繰り返します。

## パスワードポリシー

パスワードポリシーはすべてのユーザに適用され、すべてのユーザタイプに関して、ユーザを追加するか、パスワードを変更する際に適用されます。このポリシーによって、次のパスワード制限が適用されます。

- パスワードの長さ
- パスワードをユーザ名と同じにすることができるかどうか
- 現在のパスワードを新しいパスワードとして再設定できるかどうか
- パスワードで使用できない正規表現

## パスワードポリシーの作成

### 手順

**ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。

**ステップ 2** [パスワードポリシー] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[パスワードの最小長] ドロップダウン リスト	パスワードの最小文字数を選択します。

名称	説明
[パスワードの最大長] ドロップダウン リスト	パスワードの最大文字数を選択します。
[文字クラスの最小数] ドロップダウン リスト	大文字、小文字、数字、特殊文字などの文字クラスの最小数を選択します。
[パスワードでのログイン名の使用を許可しない] チェックボックス	ログイン ID と同じパスワードの使用を禁止するには、このチェックボックスをチェックします。
[前のパスワードを許可しない] チェックボックス	以前のパスワードの使用を禁止し、新しいパスワードが古いパスワードと同一にならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[正規表現と一致するパスワードを許可しない] フィールド	パスワードでの使用を禁止する正規表現（1 行に 1 つずつ）。たとえば <code>*abc.*</code> は、指定するパスワードには文字列「abc」が含まれていてはならないことを指定します。

**ステップ 3** [送信] をクリックします。

## グループ予算ポリシー

チャージバック機能を使用して、リソースが計上されます。グループまたは顧客の組織ごとのリソース使用に対して、エンティティを予算ポリシーに関連付けます。

グループまたは顧客の組織を予算の監視機能付きで設定して、グループまたは顧客の組織が、プロビジョニングされた予算内で収まるようにすることも、予算を超過できるように設定することもできます。

## グループ予算ポリシーの表示および編集

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2** [ユーザグループ] タブを選択します。
- ステップ 3** リストからグループを選択します。
- ステップ 4** [予算ポリシー] をクリックします。
- ステップ 5** [予算ポリシー] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[予算の監視の有効化] チェックボックス	グループによる予算の使用状況をモニタするには、このチェックボックスをオンにします。このグループのすべての予算エントリを無視するには、このチェックボックスをオフにします。
[予算超過を許可] チェックボックス	グループメンバーに対しプロビジョニング済み予算の超過を許可する場合は、オンにします。予算をすべて消化した場合に、新しい予算が追加されるまで、すべてのリクエストを却下するには、このチェックボックスをオフにします。

- ステップ 6** [保存] をクリックします。

## リソース制限値

リソース使用率を管理するために、グループまたは顧客組織のリソース制限値を設定できます。次の制限値を指定できます。



(注) オペレーティング システム リソースと物理リソースの制限に関する設定は、パブリック クラウドではサポートされません。

- 仮想リソース
- オペレーティング システム リソース
- 物理リソース

## リソース制限の表示

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[組織]>[サマリー] の順に選択します。
- ステップ 2** 表示するグループをクリックします。
- ステップ 3** [リソース制限]を選択して、選択したグループのリソースの現在の制限、使用状況、保留中のSRの使用、およびステータスを表示します。
- 

## リソース制限の編集

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2** [ユーザグループ] タブを選択します。
- ステップ 3** グループを選択し、[リソース制限の編集] をクリックします。[リソース制限] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** [リソース制限] ダイアログボックスで、[リソースの制限の有効化] チェックボックスをオンにして、以下のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
グループ (表示のみ)	グループ名
[リソースの制限の有効化] チェックボックス	リソース制限を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。リソース制限を無効にする場合は、このチェックボックスをオフにします。チェックボックスをオンにすると、グループに対するリソース制限を設定するためのオプションが示され、ゼロ以外のリソース制限がすべて適用されます。
[アクティブなVMの最大数]	アクティブな VM の最大数。
[VMの最大合計数]	VM の合計数。
[プロビジョニング済みVCPUの制限]	プロビジョニング済み vCPU の最大数。
[プロビジョニング済みメモリの制限 (GB) ]	プロビジョニング済みメモリの制限 (GB) 。

フィールド名	説明
[プロビジョニング済みCPUの制限(GHz)]	プロビジョニングされた CPU 制限 (GHz)
[プロビジョニング済みディスクの制限(GB)]	プロビジョニング済みディスクの制限 (GB)。
[予約済みCPUの制限(GHz)]	予約済み CPU の制限 (GHz)。
[予約済みメモリの制限(GB)]	予約済みメモリの制限 (GB)。
[スナップショットの制限(GB)]	最大のスナップショット制限 (GB)。
[非アクティブなVMのCPUとメモリのカウント] チェックボックス	グループの非アクティブな VM CPU またはメモリ データをリソース制限の計算に含める場合は、このチェックボックスをオンにします。非アクティブな VM CPU またはメモリ データをリソース計算から除外するには、このチェックボックスをオフにします。
OS リソース制限 (注) OS のリソース制限および物理リソースの制限の設定は、パブリック クラウドではサポートされません。	
[CentOS]	CentOS (Community Enterprise Operating System) サーバの最大数。
Windows Server 2008	Windows 2008 サーバの最大数。
Windows 7	Windows 7 マシンの最大数。
Windows XP	Windows XP マシンの最大数。
Red Hat	Red Hat マシンの最大数。
Ubuntu	Ubuntu マシンの最大数。
[FreeBSD]	FreeBSD マシンの最大数。
[その他のLinux]	その他の Linux OS の最大数。
その他	その他の OS の最大数。
[物理リソース制限]	
[物理サーバの最大数]	サーバの最大数。
[物理サーバの最大メモリ(GB)]	サーバの最大メモリ容量。

フィールド名	説明
[物理サーバの最大CPU数]	サーバ CPU の最大数。
[vFilerの最大数]	vFiler の最大数。
[物理ストレージの最大容量(GB)]	ストレージの最大容量。

**ステップ 5** [保存] をクリックします。

## 管理プロファイルの設定

### 管理者プロファイルの作成

#### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2** [ログインユーザ] タブを選択します
- ステップ 3** [追加] をクリックします。
- ステップ 4** [ユーザの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[ユーザタイプ] のドロップダウン リスト	ユーザタイプに[システム管理]を選択します。システム管理者には、すべての権限が与えられています。
ログイン名	ログイン名。デフォルトは[管理者]です。
パスワード	管理者アカウントのパスワード。
パスワードの確認	確認のために管理者アカウントのパスワードを再入力します。
ユーザの連絡先メール	管理者の電子メール アドレス。
名	管理者の名。
姓	管理者の姓。

フィールド名	説明
電話	管理者の電話番号。
住所	管理者の住所。

**ステップ 5** [追加] をクリックします。

## 管理者パスワードの変更

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2** [ログイン名] の列で、[管理者] を選択します。
- ステップ 3** [パスワードの変更] をクリックします。
- ステップ 4** [パスワードの変更] ダイアログボックスで、管理ユーザの新しいパスワードを入力し、確認します。
- ステップ 5** [保存] をクリックします。

## ユーザの追加

### はじめる前に

グループにユーザを追加する前に、そのグループが作成されていることを確認してください。

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2** [ログイン ユーザ] タブをクリックします。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [ユーザの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[ユーザ ロール] ドロップダウン リスト	<p>ユーザのロールのタイプを選択します。</p> <p>(注) このドロップダウン リストには、Cisco UCS Director で使用できるすべてのユーザ ロールが表示されます。デフォルトで使用できるユーザ ロールに加えて、ユーザ ロールを作成して追加できます。ユーザ ロールの作成の詳細については、<a href="#">ユーザ ロールの追加</a>、(12 ページ) を参照してください。</p>
[ログイン名] フィールド	ログイン名。
[パスワード] フィールド	<p>パスワード。</p> <p>(注) ユーザに対して Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 認証を設定している場合は、ローカル サーバではなく LDAP サーバでのみパスワードが検証されます。</p>
[パスワードの確認] フィールド	パスワードの確認のためにもう一度入力します。
[ユーザの連絡先電子メール] フィールド	<p>電子メール アドレス。</p> <p>(注) 電子メール アドレスは、サービス リクエストのステータスと承認についてグループ所有者に通知するために必要です。</p>
[名] フィールド	名。
[姓] フィールド	姓。
[電話] フィールド	ユーザの電話番号。
[住所] フィールド	ユーザの住所。

**ステップ 5** [追加] をクリックします。



### 次の作業

ユーザをメインウィンドウから選択し、[プロファイルの管理]をクリックすると、任意でそのユーザに複数のロールを割り当てることができます。

## 現在のオンラインユーザの表示

### 手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
- ステップ2 オンラインユーザのリストを表示するには、[現在のオンラインユーザ]タブを選択します。ユーザ名、IPアドレス、セッションの開始時刻、最終データアクセス、およびクライアントを確認できます。

## ユーザ アクセス プロファイルの管理

### マルチロール アクセス プロファイル

1人のユーザを複数のロールに割り当てることができます。これは、1つのユーザアクセスプロファイルとしてシステム内で反映されます。たとえば、あるユーザが、グループ管理者、および全ポリシーの管理者としてCisco UCS Directorにログインしようとした場合、両方のタイプのアクセスが適切であれば、いずれのログインも可能です。

アクセスプロファイルは、ユーザごとに表示できるリソースも定義します。デフォルトでは、1人のユーザが作成されたときに1つのアクセスプロファイルが作成されます。デフォルトでは、ユーザは自分のリソース、およびグループのリソースを参照できます。ユーザはプロファイルを作成して、自分のリソースを参照することも、グループで共有しているリソースのみを参照することもできます。



- (注) プロファイルの1つを、デフォルトのユーザアクセスプロファイルとして設定できます。



- (注) [プロファイルの管理]機能を使用して、ユーザアクセスプロファイルに対して追加、ログイン、編集、または削除を行うことができます。

## ユーザ アクセス プロファイルの作成

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2** [ログインユーザ] タブを選択します
- ステップ 3** リストからユーザを選択します。
- ステップ 4** [プロファイルの管理] をクリックします。
- ステップ 5** [プロファイルの管理] ウィンドウで、[追加] (+) をクリックします。
- ステップ 6** [アクセスプロファイルへのエントリの追加] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[名前] フィールド	プロファイル名。
[説明] フィールド	プロファイルの説明です。
[タイプ] ドロップダウン リスト	ユーザ ロールのタイプを選択します。
[Show Own Resources (所有するリソースを表示) ] チェックボックス	ユーザが自分に割り当てられたすべてのリソースを表示できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[Show Resources From All Other Groups the user has access (ユーザがアクセスできる他のすべてのグループからのリソースを表示) ] チェックボックス	ユーザがアクセスできるか、ユーザがその一部であるすべての他のグループからのリソースを表示できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[グループ] ドロップダウン リスト	ユーザのグループを選択します。
[デフォルトプロファイル] チェックボックス	デフォルトのユーザ アクセス プロファイルである場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでない場合は、このチェックボックスをオフにします。

- ステップ 7** [送信] をクリックします。

### 次の作業

必要に応じて、追加のユーザ プロファイルを作成します。

## ユーザアクセス プロファイルの編集

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2 [ログインユーザ] タブを選択します。
- ステップ 3 リストからユーザを選択します。
- ステップ 4 [プロファイルの管理] をクリックします。
- ステップ 5 [プロファイルの管理] ウィンドウで、リストからユーザを選択します。
- ステップ 6 [編集] をクリックします。
- ステップ 7 [Edit Access Profiles Entry (アクセス プロファイル エントリの編集)] ダイアログボックスで、必要に応じて、[名前]、[説明]、[タイプ]、[グループ]、または[デフォルトプロファイル] フィールドを編集します。
- ステップ 8 [送信] をクリックします。

## ユーザアクセス プロファイルの削除

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2 [ログインユーザ] タブを選択します。
- ステップ 3 リストからユーザを選択します。
- ステップ 4 [プロファイルの管理] をクリックします。
- ステップ 5 [プロファイルの管理] ウィンドウで、リストからユーザを選択します。
- ステップ 6 [プロファイルの管理] ダイアログボックスで、[削除] をクリックします。

## プロファイルへのログイン

### 手順

- ステップ 1 [Cisco UCS Director login (Cisco UCS Director ログイン)] ダイアログボックスの[ユーザ名] フィールドに、ユーザ名を「ユーザ名: アクセス プロファイル名」の形式で入力します。

(注) 例 : Alex:  
GrpAdmin

**ステップ 2** [パスワード] フィールドにパスワードを入力します。

**ステップ 3** [ログイン] をクリックします。

## プロフィールの削除

デフォルトプロフィールは、システムで作成した最初のプロファイルです。デフォルトプロフィールを別のプロフィールに変更できます。新しいデフォルトプロフィールを使用し、ユーザ名とパスワードを入力してログインします。

### デフォルト プロファイルの変更

#### 手順

**ステップ 1** ウィンドウ右上 ([logout (ログアウト)] の左側) で、ユーザ名をクリックします。

**ステップ 2** [ユーザ情報] ウィンドウの [アクセスプロファイル] タブを選択します。

**ステップ 3** ユーザ プロファイルを選択し、[デフォルトプロフィールとして設定] をクリックします。

(注) プロファイルを追加または編集するときにも、プロフィールをデフォルトとして設定できます。

## 認証および LDAP 統合

ローカル認証に対してフォールバックがある設定、フォールバックがない設定、および LDAP に対してフォールバックがある設定が可能です。また、フォールバックを行わない VeriSign ID 保護 (VID) 認証を設定できます。

名称	説明
ローカル認証	認証は、ローカルのみ (Cisco UCS Director) で実行され、LDAP サーバ経由では実行されません。
[ローカルが最初、LDAPにフォールバック]	認証は最初にローカル サーバ (Cisco UCS Director) で実行されます。ユーザがローカルサーバにない場合、LDAP サーバが確認されます。

名称	説明
[LDAPが最初、ローカルにフォールバック]	認証は最初に LDAP サーバで実行されます。ユーザが LDAP サーバにない場合、ローカルサーバ（Cisco UCS Director）が確認されます。
[VeriSign ID保護]	VIP 認証サービス（2 要素認証）が有効化されます。

## 認証の環境設定

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2** [認証の環境設定] タブを選択します。
- ステップ 3** [認証の環境設定] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[認証の環境設定] ドロップダウン リスト	<p>認証の環境設定を選択します。</p> <p>次のいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ローカル認証 このオプションを選択した場合は、ステップ 4 に進みます。</li> <li>[ローカルが最初、LDAPにフォールバック]</li> <li>[LDAPが最初、ローカルにフォールバック] この LDAP 関連オプションのいずれかを選択するときには、LDAPサーバを設定する必要があります。詳細については、<a href="#">LDAPサーバの設定、（54 ページ）</a> を参照してください。</li> <li>VeriSign ID保護 このオプションを選択した場合は、ステップ 5 に進みます。</li> </ul>

- ステップ 4** ローカル認証の場合、[保存] をクリックします。  
この認証の環境設定では、LDAP ユーザは Cisco UCS Director にログインできません。

- ステップ 5** [VeriSign ID保護] を選択した場合は、次の手順を実行します。
- a) VIP 証明書をアップロードするには、[参照] をクリックします。  
証明書を見つけて選択し、[アップロード] をクリックします。
  - b) [パスワード] を入力します。

- ステップ 6** [保存] をクリックします。

## LDAP 統合

LDAP 統合を使用して、LDAP サーバのグループおよびユーザを Cisco UCS Director と同期することができます。LDAP 認証により、同期されたユーザを LDAP サーバで認証することができます。LDAP ユーザおよびグループは、自動または手動で同期できます。LDAP 同期はシステムタスクとしても実行できます。LDAP ディレクトリに新しい組織単位 (OU) を追加し、手動または自動で同期プロセスを実行している場合は、最近追加された LDAP ユーザおよびグループが Cisco UCS Director に表示されます。



- (注) グループ、またはドメイン ユーザのグループに属していないユーザは、[グループに属していないユーザ] として LDAP に表示されます。これらのユーザは、Cisco UCS Director のドメイン ユーザのグループの下に追加されます。

ローカルに存在している、または Cisco UCS Director で外部から同期されているユーザおよびグループは選択できません。

## LDAP 統合の規則と制限事項

### グループの同期規則

- 選択した LDAP グループが Cisco UCS Director にすでに存在しており、ソースのタイプが [ローカル] の場合、そのグループは同期中に無視されます。
- 選択した LDAP グループが Cisco UCS Director にすでに存在しており、グループ ソースのタイプが [外部] の場合、そのグループの説明および電子メール属性が Cisco UCS Director で更新されます。
- 高度な検索オプションを使用すると、手動検索の選択において最大 1,000 人のユーザが（可用性に応じて）表示されます。このオプションは、[LDAP の手動同期リクエスト] をクリックして使用できます。

### ユーザの同期規則

- 選択した LDAP ユーザが Cisco UCS Director にすでに存在しており、ソースのタイプが [ローカル] の場合、そのユーザは同期中に無視されます。

- 選択した LDAP ユーザが Cisco UCS Director にすでに存在しており、ソースのタイプが [外部] の場合、そのユーザの名前、説明、電子メール、および他の属性が更新されて使用できるようになります。
- ユーザアカウントが2つの異なる LDAP ディレクトリで作成されている場合は、最初に同期された LDAP ディレクトリのユーザ詳細が表示されます。他の LDAP ディレクトリのユーザ詳細は表示されません。
- LDAP ディレクトリが同期されたら、LDAP 外部ユーザはユーザ名に加えて完全なドメイン名を指定して、Cisco UCS Director にログインする必要があります。たとえば `vxdomain.cisco.com\username` のように指定します。

#### ユーザ同期の制限事項

- あるユーザが複数のグループメンバーシップを持っていますが、そのユーザは Cisco UCS Director では単一のグループメンバーシップを持つことになります。



(注) LDAP 同期プロセスの後には、ユーザが正しいグループに割り当てられていることを確認してください。

## LDAP 統合の管理

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理] > [ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2** [LDAP 統合] タブをクリックして、LDAP サーバの同期のステータスを表示します。
- ステップ 3** (任意) LDAP 統合を管理するため、サーバを選択し、必要に応じて次のボタンをクリックします。

名称	説明
[ベースDNの検索] ボタン	<p>検索するドメインの識別名を選択できます。LDAP 同期処理が完了すると、選択した組織のすべてのユーザとグループが Cisco UCS Director に取り込まれます。このアクションは、自動同期プロセスであるとも見なされます。</p> <p>(注) LDAP サーバ同期をシステム タスクとして開始できます。詳細については、<a href="#">LDAP 同期システム タスクの実行</a>、(58 ページ) を参照してください。</p>

名称	説明
[LDAPの手動同期のリクエスト]	表示されるダイアログボックスでは、LDAPユーザおよびグループを取得するための基本検索条件または拡張検索条件を指定できます。

**ステップ 4** (任意) [LDAP の手動サーバ同期の要求] を選択した場合は、次のフィールドに入力します。

名称	説明
[基本検索] チェックボックス	組織単位ごとの基本検索を可能にします。
[詳細検索] チェックボックス	詳細検索を可能にします。

**ステップ 5** 基本検索の場合は、[選択] をクリックして検索ベースを指定します。

**ステップ 6** 検索ベース DN を選択し、[選択] をクリックします。ステップ 9 に進みます。

**ステップ 7** 詳細検索の場合は、[詳細なフィルタ オプション] ペインで、[ユーザ フィルタ] と [グループ フィルタ] の属性名を追加または編集します。

**ステップ 8** [次へ] をクリックします。

**ステップ 9** [ユーザとグループの選択] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[LDAP グループ] フィールド	ユーザを同期する必要がある LDAP グループ。
[LDAP ユーザ] フィールド	同期する必要がある LDAP ユーザ。

**ステップ 10** [送信] をクリックして、LDAP サーバを同期します。

## LDAP サーバの設定

Cisco UCS Directorでは複数の LDAP サーバとアカウントを設定できます。

LDAP サーバアカウントが追加されると直ちにこのアカウントのシステム タスクが自動的に作成され、データ同期を即時に開始します。

### はじめる前に

認証設定を次のいずれかに設定しておく必要があります。

- [ローカルが最初、LDAPにフォールバック]
- [ローカルが最初、ローカルにフォールバック]



## 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2** [LDAP統合] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] をクリックします。
- ステップ 4** [LDAPサーバ設定] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[アカウント名] フィールド	アカウント名。 この名前は一意である必要があります。
[サーバタイプ] フィールド	LDAP サーバのタイプ。この属性の種類は次のとおりです。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• OpenLDAP</li> <li>• MSAD - Microsoft Active Directory</li> </ul>
[サーバ] フィールド	LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名。
[SSLの有効化] チェックボックス	LDAP サーバに対するセキュアな接続を有効にします。
[ポート] フィールド	ポート番号  SSL では 636 に、非セキュア モードでは 389 に自動的に設定されます。
[認証用の証明書] フィールド	認証用のサーバ証明書をアップロードします。  証明書を特定して選択するには、[参照] をクリックします。サーバ証明書をアップロードするには、[アップロード] をクリックします。  (注) このフィールドは、[SSL の有効化] チェックボックスをオンにした場合のみ使用できます。
[ドメイン名] フィールド	ドメイン名。  LDAP ディレクトリのタイプとして [OpenLDAP] を選択した場合は、このドメイン名が、ユーザ名で指定されたドメインと一致している必要があります。

名称	説明
[ユーザ名] フィールド	ユーザ名。  LDAP ディレクトリのタイプとして [OpenLDAP] を選択した場合は、ユーザ名を次の形式で指定してください。  uid=users,ou=People,dc=ucsd,dc=com  ここに指定する ou は、ディレクトリ階層でその他のすべてのユーザが配置される場所です。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。
[既存のユーザとグループの修正] チェックボックス	既存のユーザとグループを変更できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** [次へ] をクリックします。

**ステップ 6** [LDAP 検索ベース] ペインで [選択] をクリックし、LDAP 検索ベースのエントリを指定して、[選択] をクリックします。  
このリストには、Cisco UCS Director で利用できるすべての組織単位（OU）が表示されます。

**ステップ 7** [送信] をクリックします。

### 次の作業

LDAP に認証の環境設定を設定していない場合は、認証の環境設定を変更するように指示されます。認証の環境設定の変更に関する詳細については、[認証の環境設定](#)、(51 ページ) を参照してください。

## LDAP サーバのサマリー情報の表示

### 手順

**ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。

**ステップ 2** [LDAP 統合] タブを選択します。

**ステップ 3** 表から LDAP アカウント名を選択します。

**ステップ 4** [表示] をクリックします。

[**View LDAP Account Information (LDAP アカウント情報の表示)**] ダイアログボックスに、LDAP アカウントのサマリー情報が表示されます。

**ステップ 5** [閉じる] をクリックします。

---

## LDAP サーバの接続のテスト

### 手順

---

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
  - ステップ 2** [LDAP統合] タブを選択します。
  - ステップ 3** テーブルから LDAP のアカウント名を選択します。
  - ステップ 4** [テスト接続] をクリックします。
  - ステップ 5** [Test LDAP Connectivity (LDAP 接続のテスト)] ダイアログボックスで、[閉じる] をクリックします。
- 

## LDAP 検索ベースDN エントリの追加

### 手順

---

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
  - ステップ 2** [LDAP統合] タブを選択します。
  - ステップ 3** テーブルから LDAP のアカウント名を選択します。
  - ステップ 4** [ベースDNの検索] をクリックします。
  - ステップ 5** [LDAP 検索ベース] ダイアログ ボックスで、[選択] をクリックして検索エントリを選択します。
  - ステップ 6** [選択] をクリックします。
  - ステップ 7** [送信] をクリックします。
  - ステップ 8** [OK] をクリックします。
-

## LDAP 同期システム タスクの実行

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [システムタスク] を選択します。
- ステップ 3** [フィルタ] フィールドに LDAP と入力します。
- ステップ 4** [システムのタスク] 表から [LDAPSyncTask] を選択します。
- ステップ 5** [今すぐ実行] をクリックします。
- ステップ 6** (任意) [タスクの管理] をクリックして、同期処理を有効または無効にします。
- 

### 次の作業

同期プロセスの結果が Cisco UCS Director に表示されます。[LDAP 統合] ペインで LDAP アカウントを選択し、[結果] をクリックすると、同期プロセスの概要が表示されます。

## LDAP サーバの詳細の変更

構成済み LDAP サーバで変更できる詳細は以下のみです。

- ポート番号および SSL 設定
- ユーザ名およびパスワード
- 検索ベース DN の選択

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2** [LDAP 統合] タブをクリックして LDAP アカウントを選択します。
- ステップ 3** [変更] をクリックします。
- ステップ 4** [LDAP サーバ設定の変更] ペインで、次のフィールドを編集します。

名前	説明
[SSLの有効化] チェックボックス	LDAP サーバに対するセキュアな接続を有効にします。
[ポート] フィールド	ポート番号。  SSL では 636 に、非セキュア モードでは 389 に自動的に設定されます。

名前	説明
[ユーザ名] フィールド	ユーザ名。  LDAPディレクトリのタイプとして [OpenLDAP] を選択した場合は、ユーザ名を次の形式で指定してください。  uid=users,ou=People,dc=ucsd,dc=com  ここに指定する ou は、ディレクトリ階層でその他のすべてのユーザが配置される場所です。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。
[既存のユーザとグループの修正] チェックボックス	既存のユーザとグループを変更できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** [次へ] をクリックします。

**ステップ 6** [LDAP 検索ベース] ペインで [選択] をクリックし、LDAP 検索ベースのエントリを指定して、[選択] をクリックします。

**ステップ 7** [送信] をクリックします。

## LDAP サーバ情報の削除

LDAP サーバのアカウントを削除すると、検索基準、BaseDN および対象の LDAP サーバに関するシステム エントリのみが削除されます。LDAP サーバに割り当てられているユーザおよびグループは削除されません。

### 手順

**ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。

**ステップ 2** [LDAP統合] タブを選択します。

**ステップ 3** テーブルから LDAP のアカウント名を選択します。

**ステップ 4** [削除] をクリックします。

**ステップ 5** 確認のダイアログボックスで [削除] をクリックします。

**ステップ 6** [OK] をクリックします。

それにより、Cisco UCS Director の LDAP アカウントの削除が開始されます。LDAP アカウント内のユーザとグループの数によっては、この削除プロセスは完了するまで数分かかる場合があります。その間、LDAP アカウントは Cisco UCS Director で表示されたままになります。[更新] をクリックして、アカウントの削除を確定します。

## シングルサインオン

Cisco UCS Director はワン ログインを使用してシングルサインオンを提供します。シングルサインオンは、ユーザがアプリケーションにアクセスするために、パスワードを複数回入力することを不要にします。シングルサインオンが有効な場合、ユーザはポータルにログインして Cisco UCS Director にアクセスできます。



(注) シングルサインオンは、ワン ログイン証明書を登録した後、Cisco UCS Director で使用可能になります。

### シングルサインオンの有効化

#### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2 [シングルサインオン] タブを選択します。
- ステップ 3 [シングルサインオン] ペインで、[シングルサインオンの有効化] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4 [アップロードするファイルの選択] フィールドで、ワン ログイン証明書ファイルを参照し、選択します。
- ステップ 5 [アップロード] をクリックします。
- ステップ 6 アップロードが完了したら、[送信] をクリックします。

## グループおよび顧客組織のブランディング

#### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2 [ユーザグループ] タブを選択します。
- ステップ 3 ブランディングするグループを選択します。
- ステップ 4 [ブランディング] をクリックします。
- ステップ 5 [グループブランディング] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[ロゴイメージ] チェックボックス	ロゴイメージをアップロードするには、このチェックボックスをオンにします。 ステップ 6 に進みます。
[アプリケーションラベル] チェックボックス	アプリケーション ヘッダーに表示するアプリケーションラベルをカスタマイズするには、このチェックボックスをオンにします。 ステップ 8 に進みます。
[ログアウト時のURL転送] チェックボックス	ログアウト時に特定の URL に転送するには、このチェックボックスをオンにします。 ステップ 9 に進みます。
[カスタムリンク] チェックボックス	カスタムリンクをブランディングするには、このチェックボックスをオンにします。 ステップ 10 に進みます。

**ステップ 6** [アップロードするファイルの選択] フィールドで、ロゴイメージファイルを参照して選択します。

(注) ロゴイメージの形式が JPG、PNG、または GIF であることを確認します。最適なイメージサイズは幅 200 ピクセル、高さは 100 ピクセルです。ダウンロード時間を短縮するため、イメージサイズを小さくしておくことをお勧めします。

**ステップ 7** [アップロード] をクリックします。

**ステップ 8** (任意) アプリケーション ラベルとして、[ラベル1] および [ラベル2] フィールドに少なくとも 1 つのアプリケーションのラベルを入力します。

**ステップ 9** (任意) [URL] フィールドに、ログアウト時にユーザを転送する URL を入力します。

**ステップ 10** (任意) 少なくとも最初の 2 つのフィールドに値を入力してください。

名称	説明
[カスタムリンク1のラベル] フィールド	カスタム リンク 1 のラベル。
[カスタムリンク1のURL] フィールド	カスタム リンク 1 の URL。
[カスタムリンク2のラベル] フィールド	カスタム リンク 2 のラベル。
[カスタムリンク2のURL] フィールド	カスタム リンク 2 の URL。

**ステップ 11** [送信] をクリックします。

## ログイン ページのブランディング

ログイン ページは、ドメイン名に関連付けられているロゴを示すように設定できます。エンド ユーザがそのドメインからログインすると、ログイン ページでそのカスタム ロゴが表示されます。ロゴの最適なイメージのサイズは幅 890 ピクセル、高さ 470 ピクセルで、余白に 255 ピクセルが割り当てられています。シスコは、より高速なダウンロードを実現するために、イメージサイズを小さくすることを推奨しています。



(注) グループまたは顧客組織のログイン ページは、最初にブランディングで設定される（有効にされる）必要があります。

## カスタム ドメイン ロゴの設定

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2 [ログインページブランディング] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加] をクリックします。
- ステップ 4 [ドメインブランディング] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ドメイン名] フィールド	ブランディングするドメイン名。
[アップロードするファイルの選択] フィールド	アップロードするロゴ ファイル。  (注) ロゴの最適なイメージサイズは、幅 890 ピクセル、高さ 470 ピクセル、余白 255 ピクセルです。ダウンロード時間を短縮するため、イメージサイズを小さくしておくことをお勧めします。
[カスタムドメインロゴ] チェックボックス	指定されたドメイン名からのログイン ページブランディングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。



**ステップ 5** [送信] をクリックします。

---





## 第 4 章

# システム管理設定の管理

---

この章は、次の内容で構成されています。

- [送信メール サーバの設定, 65 ページ](#)
- [電子メール テンプレートの使用, 66 ページ](#)
- [システム パラメータの設定 \(任意\) , 69 ページ](#)
- [ライセンスの更新, 71 ページ](#)
- [ライセンス使用率の確認, 72 ページ](#)
- [ライセンス使用率履歴の表示, 72 ページ](#)
- [リソース使用率データの表示, 73 ページ](#)
- [アプリケーション カテゴリの編集, 73 ページ](#)
- [ポータルのカスタマイズ, 74 ページ](#)
- [レポートのカスタマイズ, 78 ページ](#)
- [高度な制御, 79 ページ](#)
- [ユーザ メニュー, 80 ページ](#)
- [ユーザ権限の設定, 81 ページ](#)
- [システム タスクの管理, 81 ページ](#)
- [アイコンの管理, 86 ページ](#)
- [サポート情報, 89 ページ](#)

## 送信メール サーバの設定

Cisco UCS Director から送信されるすべての電子メールで、SMTP サーバが必要です。

## 手順

**ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。

**ステップ 2** [電子メール設定] タブを選択します。

**ステップ 3** [電子メール設定] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[送信電子メールサーバ (SMTP) ] フィールド	送信 SMTP サーバのアドレス。
[送信SMTPポート] フィールド	送信 SMTP サーバ ポートの番号。
[送信SMTPユーザ] フィールド	ユーザ ID。
[送信SMTPパスワード] フィールド	ユーザのパスワード。
[アドレス] フィールド	ユーザの電子メール アドレス。
[CloupiaサーバIPアドレス] フィールド	Cisco UCS Director 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはDNS名。このフィールドは、ユーザのワークフロー処理に対して、電子メールで正しいリンクを作成するために使用します。 [テストメールの送信] チェックボックス：現行の電子メール設定をテストするには、このチェックボックスをオンにします。

**ステップ 4** [保存] をクリックします。

## 電子メール テンプレートの使用

Cisco UCS Director には通知メカニズムがあり、VM のプロビジョニングなど、特定のイベントが発生した場合に管理者に送信される電子メールを設定できます。また、すべてのタスクについて承認が必要な場合には、1 人の管理者、またはグループの管理者へ電子メール通知を送信できます。



(注) 電子メールの通知に対して複数の受信者を指定できます。カンマを区切り文字として使用して、複数の電子メール アドレスを区切ります。

Cisco UCS Director には、異なるシナリオに対応する、HTML 形式の電子メール テンプレートのセットがあります。電子メールテンプレートをを使用して実行できるタスクには、たとえば次のものがあります。

- 新しい電子メール テンプレートの追加
- 既存の電子メール テンプレートの編集 — 電子メール テンプレートについて、メッセージの詳細、または書式設定およびプレゼンテーション フィールドを編集できます。テンプレート内の Java 関連の情報は変更しないでください。
- 電子メール テンプレートのプレビュー — 電子メールのコンテンツをプレビュー表示して、電子メール テンプレートをさらに変更するかどうかを判断できます。
- 電子メール テンプレートをデフォルトに設定 — デフォルトの電子メール テンプレートに基づいて電子メール通知が送信されるように設定できます。
- 電子メール テンプレートの削除 — 追加したテンプレートを削除できます。ただし、次のいずれかの条件にあてはまる場合は、テンプレートを削除することはできません。
  - テンプレートを追加してデフォルトのテンプレートに設定した。
  - システムによって提供されたテンプレートである。

## 電子メール テンプレートの追加

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [電子メール テンプレート] タブをクリックします。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [テンプレートの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[電子メール テンプレート名] フィールド	電子メール テンプレートの名前。
[テンプレートの説明] フィールド	電子メール テンプレートの説明。
[テンプレートのタイプ] ドロップダウン リスト	追加する電子メールテンプレートのタイプを選択します。このドロップダウン リストには、システムで生成されたテンプレートが表示されます。
[スクリプト] フィールド	電子メールのコンテンツ、フォントのサイズと色、通知トリガーなど、電子メールテンプレートを定義する HTML コード。

名前	説明
[デフォルトにリセット] チェックボックス	<p>このチェックボックスをオンにすると、システムが提供する電子メールテンプレートで使用されているHTMLコードが、[スクリプト]フィールドに入力されます。</p> <p>HTMLコードが入力された後で、コードに対する変更を維持するには、このチェックボックスをオフにする必要があります。</p>

**ステップ 5** [送信] をクリックします。

#### 次の作業

さらに変更を加えるかどうかを判断するには、電子メールテンプレートをプレビューで表示します。

## 電子メール テンプレートのプレビュー

Cisco UCS Director で新しい電子メール テンプレートを作成すると、電子メール コンテンツのプレビューを表示して、さらに変更が必要かどうかを判断できます。

#### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [電子メール テンプレート] タブをクリックします。
- ステップ 3** テーブルから電子メール テンプレートを選択します。
- ステップ 4** [テンプレートのプレビュー] をクリックします。
- ステップ 5** [レポートの起動] ダイアログ ボックスで [送信] をクリックします。  
(注) 電子メール テンプレートのプレビュー モードでは、静的な情報だけが表示されます。顧客名などの動的な情報やリソースは表示されません。

#### 次の作業

必要に応じて、電子メール テンプレートに戻ってさらに変更を加えることができます。

## デフォルトの電子メール テンプレートの設定

通常は、システム テンプレートがデフォルトの電子メール テンプレートに設定されています。特定のシナリオで複数のテンプレートを追加した場合は、いずれかのテンプレートをデフォルトのテンプレートとして選択できます。デフォルトとして設定したテンプレートは通知に使用されます。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2 [電子メール テンプレート] タブをクリックします。
- ステップ 3 テーブルから電子メール テンプレートを選択します。
- ステップ 4 [デフォルトの電子メール テンプレートとして設定] をクリックします。

## システム パラメータの設定（任意）

### システム パラメータの設定

システム パラメータを編集する必要があるのは、デフォルト値を変更する必要がある場合だけです。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2 [システムパラメータ] タブを選択します。
- ステップ 3 [システム] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[削除したVMのデータを保持する日数] フィールド	ユーザが定義した、システムでVMデータを保持する日数。
[イベントを保持する日数] フィールド	ユーザが定義した、システムですべてのイベントを保持する日数。  (注) 指定された期間よりも古いイベントは削除されます。

名称	説明
[傾向データを保持する日数] フィールド	<p>ユーザが定義した、システムでインベントリの傾向データまたは履歴データ（CPU、ストレージ、メモリ使用状況など）を保持する日数。</p> <p>(注) このデータはレポートに使用されます。</p>
[計測データを保持する日数] ドロップダウン リスト	<p>ユーザが定義した、システムでVM計測レコードを保持する日数。</p> <p>(注) このデータは、VMとリソースに固有です。</p>
[URLからのVMロックコントロールのダウンロード] フィールド	<p>指定された URL からの VM ロック コントロール。</p> <p>(注) このファイルはXML形式である必要があります。</p>
[通貨] ドロップダウン リスト	<p>使用する通貨の種類を選択します。</p> <p>使用可能な通貨は、[US]、[EURO]、[GBP]、[KRW]、[CAD]、[CHF]、[CLP]、[NR]、[JPY]、[AUD]、[NZD]、[SGD]、[HKD]、[MYR]、[MXN]、[BRL]、[AED]、[DKK]、[SEK]、[KWD]、[CYN]、[RUB]、[ZAR]、および[その他]です。</p>
[通貨] フィールド	<p>通貨の名前（1つのみ）を入力します。</p> <p>(注) このフィールドは、通貨として[その他]が選択されている場合に表示されます。</p>
[通貨の精度（小数点以下の桁数）] ドロップダウン リスト	<p>通貨の小数点以下の精度を選択します。使用可能な小数点以下の精度は0から5です。</p>
[Funds Availability Check Interval (mins)（資金残高確認間隔（分））] ドロップダウン リスト	<p>資金の残高を確認する間隔を選択します。</p>

**ステップ 4** [保存] をクリックします。



## インフラストラクチャ システム パラメータの設定（任意）

仮想および物理システムインフラストラクチャリソースのポーリングに関するパラメータを設定できます。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2 [インフラストラクチャシステムパラメータ] タブを選択します。
- ステップ 3 エントリ ボックスに、システムインフラストラクチャのトレンドデータを保持する日数を入力します。デフォルトは 30 日です。
- ステップ 4 [保存] をクリックします。

## ライセンスの更新

製品認証キー（PAK）を使用して、ライセンスを更新することができます。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ライセンス] の順に選択します。
- ステップ 2 [ライセンスキー] タブを選択します。
- ステップ 3 [ライセンスの更新] オプションをクリックします。  
[Update PAK（PAK の更新）] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4 [参照] をクリックして PAK ライセンス ファイルにナビゲートし、ファイルを選択します。
- ステップ 5 PAK ライセンス ファイルをアップロードするには、[アップロード] をクリックします。  
(注) ライセンス ファイルをアップロードしない場合は、チェックボックスをオンにして、ライセンス テキストをライセンス テキスト フィールドにコピーアンドペーストします。
- ステップ 6 [送信] をクリックします。  
ライセンスが更新されます。

## ライセンス使用率の確認

[ライセンス使用率] ページに、使用中のライセンス、および各ライセンスの詳細（ライセンスの期限、使用可能な数、ステータス、コメントなど）が表示されます。ライセンスの監査もこのページから実行できます。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ライセンス] の順に選択します。
  - ステップ 2 [ライセンス使用率] タブを選択します。
  - ステップ 3 Cisco UCS Director アプライアンスを選択します。
  - ステップ 4 （任意）ライセンス監査を実行するには、[ライセンス監査の実行] をクリックします。
  - ステップ 5 [ライセンス監査の実行] ダイアログボックスで、[送信] をクリックします。このプロセスは、実行に数分かかります。
- 

## ライセンス使用率履歴の表示

ネットワークリソースの利用状況を把握するため、ライセンス取得済みネットワークコントローラ、ストレージコントローラ、サーバ、サーバおよびデスクトップ VM、およびスモールポッドとミディアムポッドの数を時間の経過に伴い追跡できます。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ライセンス] の順に選択します。
  - ステップ 2 [ライセンス使用率履歴] タブを選択します。  
次のリソース カテゴリのライセンス使用率履歴がタイムスタンプとともに表示されます。
    - ネットワーク コントローラ
    - ストレージ コントローラ
    - サーバ
    - サーバ VM
    - デスクトップ VM
    - スモールポッド
    - ミディアムポッド
-

## リソース使用率データの表示

ご使用の環境でのリソースの使用状況を確認できます。

### 手順

**ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ライセンス] の順に選択します。

**ステップ 2** [リソース使用率のデータ] タブを選択します。  
使用可能なレポート カテゴリを次に示します。

- リソース名 : Cisco UCS Director に関連付けられている利用可能なリソースの名前。
- リソース数 : 利用可能な各リソースの数。

## アプリケーション カテゴリの編集

Cisco UCS Director を使用してプロビジョニングされた VM はすべて、そのタイプに基づいて分類されます。VM タイプは、Web サーバ、データベース、アプリケーション サーバ、またはその他です。Cisco UCS Director には、検出された VM のための別個のカテゴリもあります。

使用または編集できるアプリケーション カテゴリを以下に示します。

- 検出された VM
- 汎用 VM
- Web サーバ
- アプリケーション サーバ
- データベース
- アプリケーション - CPU 集約型
- アプリケーション - メモリ集約型
- アプリケーション - ディスク集約型
- アプリケーション - ネットワーク集約型
- Other App 1 (その他のアプリケーション 1)
- Other App 2 (その他のアプリケーション 2)
- Other App 3 (その他のアプリケーション 3)

## 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [アプリケーションカテゴリ] タブを選択します。
- ステップ 3** アプリケーション カテゴリを選択します。
- ステップ 4** [編集] をクリックします。
- ステップ 5** [カテゴリの編集] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[カテゴリID] フィールド（表示専用）	システムによりカテゴリに割り当てられた数値。
[カテゴリラベル] フィールド	カテゴリ タイプ。
[カテゴリコード] フィールド	VM およびホストの名前。
[説明] フィールド（表示専用）	ポリシーの説明。
[有効になっているカテゴリ] チェックボックス（表示専用）	デフォルトではこのチェックボックスはオンになっています。
[デフォルトのスマート割り当てアルゴリズム] ドロップダウン リスト	アルゴリズムを選択します。

- ステップ 6** [送信] をクリックします。

## ポータルのカスタマイズ

組織でセルフサービス ポータルをカスタマイズできます。ブランディングおよびユーザインターフェイス関連の変更に対して、ロゴ、ログイン ページ、ホームページなどをカスタマイズできます。

## ログイン ページと背景イメージのカスタマイズ

カスタム イメージをアップロードして、ログイン ページと背景イメージを変更できます。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
  - ステップ 2** [ログインページ] をクリックします。
  - ステップ 3** [カスタマイズ可能なログインページの使用] チェックボックスをオンにします。
  - ステップ 4** [ロゴイメージ] と [背景イメージ] ペインで、アイテムを選択するか、または [追加] をクリックしてロゴイメージまたは背景イメージを追加します。
  - ステップ 5** [送信] をクリックします。
- 

## アプリケーション ロゴのカスタマイズ

カスタムイメージをアップロードしてホームページのアプリケーションロゴをカスタマイズできます。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
  - ステップ 2** [アプリケーションロゴ] タブを選択します。
  - ステップ 3** [イメージ] ペインで、イメージを選択するか、または [追加] をクリックしてまだリストにない新しいイメージを追加します。
  - ステップ 4** [送信] をクリックします。
- 

## ファビコンのカスタマイズ

ページがブックマークされている場合に、ブラウザのアドレス バーやそのページ名の横に表示されるお気に入りアイコン（ファビコン）をカスタマイズできます。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
  - ステップ 2** [ファビコン] タブを選択します。
  - ステップ 3** [イメージラベル] 列で、イメージを選択するか、または [追加] をクリックしてまだリストにない新しいイメージを追加します。
  - ステップ 4** [送信] をクリックします。
-

## アプリケーションヘッダーのカスタマイズ

顧客ロゴの横のセルフサービスポータルラベルをカスタマイズするには、既存のラベルを変更します。

### 手順

**ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。

**ステップ 2** [アプリケーションヘッダー] タブを選択します。

**ステップ 3** [アプリケーションヘッダー] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ヘッダー全体の非表示] チェックボックス	ヘッダーセクションを非表示にするには、このチェックボックスをオンにします。オンにすると、ロゴイメージ、アプリケーション名、リンク ([Logout (ログアウト)] など) を含むヘッダーが非表示になります。
[製品名] フィールド	製品名の続き。
[製品名の2行目] フィールド	製品名の続き。
[[バージョン情報]ダイアログの有効化] チェックボックス	ヘッダーで[バージョン情報]リンクを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。ヘッダーで[バージョン情報]リンクを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。
<b>[管理者ポータル]</b>	
[カスタムリンク1のラベル] フィールド	管理者ポータルのカスタムリンク1のラベル。
[カスタムリンク1のURL] フィールド	管理者ポータルのカスタムリンク1のURL。
[カスタムリンク2のラベル] フィールド	管理者ポータルのカスタムリンク2のラベル。
[カスタムリンク2のURL] フィールド	管理者ポータルのカスタムリンク2のURL。
<b>エンドユーザポータル</b>	
[カスタムリンク1のラベル] フィールド	エンドユーザポータルのカスタムリンク1のラベル。

名称	説明
[カスタムリンク1のURL] フィールド	エンド ユーザ ポータルのカスタム リンク 1 の URL。
[カスタムリンク2のラベル] フィールド	エンド ユーザ ポータルのカスタム リンク 2 のラベル。
[カスタムリンク2のURL] フィールド	エンド ユーザ ポータルのカスタム リンク 2 の URL。

**ステップ 4** [保存] をクリックします。

## 日付表示のカスタマイズ

さまざまな日付表示の形式がサポートされています。

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
- ステップ 2** [日付の表示] タブを選択します。
- ステップ 3** 日付形式を編集します。
- ステップ 4** 必要に応じて、[タイムゾーンの非表示] をクリックし、タイム ゾーンがユーザインターフェイスに表示されないようにします。
- ステップ 5** [保存] をクリックします。

## カラー テーマのカスタマイズ

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
- ステップ 2** [カラーテーマ] タブを選択します。
- ステップ 3** ドロップダウン リストから使用可能なテーマ スタイルを選択します。
- ステップ 4** [保存] をクリックします。

## ログアウト時のリダイレクト先のカスタマイズ

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
- ステップ 2** [Login Redirect (ログイン時のリダイレクト先)] タブを選択します。
- ステップ 3** URL を入力します。
- ステップ 4** [保存] をクリックします。
- 

## レポートのカスタマイズ

レポートのカスタマイズでは、カスタム ラベルを作成したり、使用可能なレポートを非表示にしたりできます。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
- ステップ 2** [レポートのカスタマイズ] タブを選択します。
- ステップ 3** レポートを選択します。
- ステップ 4** [編集] をクリックします。
- ステップ 5** ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[レポートを非表示] チェックボックス	レポートを非表示にするには、このチェックボックスをオンにします。レポートを表示するには、このチェックボックスをオフにします。
[新しいラベル] フィールド	レポートの新しいラベル（必要な場合）。

- ステップ 6** [保存] をクリックします。
-



## 高度な制御

Cisco UCS Director の特定のプロパティを有効または無効にするには、高度な制御を使用します。

### 詳細な制御の有効化

#### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [詳細な制御] タブを選択します。
- ステップ 3** 次の手順を実行します。

名称	説明
[Monitoring (モニタリング)] チェックボックス	仮想インフラストラクチャのモニタリング、物理インフラストラクチャのモニタリング、および外部クラウドのモニタリングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。  必要に応じて、このカテゴリのチェックボックスをすべてオンにします。
[Resource Metering (リソースメーター)] チェックボックス	VM メーター機能のモニタリングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。  (注) VMメーター機能が無効になっている場合、チャージバックは作動しません。
[Event Monitoring (イベントのモニタリング)] チェックボックス	仮想および物理インフラストラクチャのイベントを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[Heat Map Report Computing (ヒートマップレポート コンピューティング)] チェックボックス	仮想インフラストラクチャのヒートマップレポートの生成を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[Automatic Assessment (自動評価)] チェックボックス	仮想評価のレポートを生成するには、このチェックボックスをオンにします。

名称	説明
[Adaptive Provisioning Indexing (適応プロビジョニング インデックス) ] チェックボックス	<p>さまざまなホストパラメータについてホストのロードインデックスを有効にし、4時間ごとに計算するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>これらのインデックスは、カタログの適応プロビジョニングで使用されます。インデックスの数が小さいと、ホストがプロビジョニング対象として選択される可能性が高くなります。このプロセスは、特定の VDC のコンピューティング ポリシーに従って機能します。</p>
[Delete Inactive VM's Based on VDC Policy (VDC ポリシーに基づいて非アクティブな VM を削除) ] チェックボックス	<p>管理者が指定した時間が経過した後、VDC の非アクティブな（電源がオフになっている）VM を有効化して削除するには、このチェックボックスをオンにします。このプロパティは、VDC の [非アクティブなVMを削除するまでの期間] フィールドに関連付けられます。</p> <p>(注) デフォルトでは、このプロパティボックスはオフになっています。</p>
[System Task Remoting (システム タスクのリモート実行) ] チェックボックス	管理のためにリモート実行を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[Enable Service Provider Feature (Requires System Restart) (サービス プロバイダー機能の有効化 (システムの再起動が必要) ) ] チェックボックス	Cisco UCS Director でサービス プロバイダーを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [送信] をクリックします。

## ユーザメニュー

一般的なユーザのロールで利用できるデフォルトのメニュー操作のほかに、個々のユーザ ロールに対してカスタマイズされたメニュー操作を許可できます。



(注) 利用できるメニュー設定はユーザ権限によって異なります。たとえば読み取りおよび書き込み権限が付与されている場合にのみ、メニューの操作を表示または実行できます。

## ユーザメニューの設定

### 手順

- ステップ1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ2 [メニュー設定] タブを選択します。
- ステップ3 ドロップダウン リストから、ユーザ ロールを選択します。
- ステップ4 チェックボックスをオン/オフにしてロールに対するメニューの許可を設定するか、[デフォルトにリセット] チェックボックスをオンにします。
- ステップ5 [送信] をクリックします。

## ユーザ権限の設定

### 手順

- ステップ1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ2 [ユーザの権限] タブを選択します。
- ステップ3 ドロップダウン リストから、ユーザ ロールを選択します。
- ステップ4 [許可されている操作] ダイアログボックスで、選択したユーザロールの読み取り/書き込み操作を確認できます。
- ステップ5 チェックボックスをオン/オフにして個々のロールの読み取り/書き込み操作の許可を設定するか、[デフォルトにリセット] チェックボックスをオンにします。
- ステップ6 [送信] をクリックします。

## システム タスクの管理

マルチノードセットアップでは、どのサービス ノードがどのシステム タスクを実行するかを定義します。

データ収集などのシステムタスクの処理はVMのサービスノードに委ねることができます。ノードの数はタスクを処理する規模によって異なります。



- (注) すべてのリモート VM のノードに Cisco UCS Director をインストールし、それらの VM のノードをマルチノードセットアップ用に設定してください。詳細については、Cisco UCS Director のインストールとアップグレードのガイドを参照してください。

## ノードプールの作成

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2 [サービスノード] タブを選択します。
- ステップ 3 [サービスノードプール] アイコンをクリックします。[サービスノードプール] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4 + (正符号) アイコンをクリックします。[サービスノードプールにエントリを追加] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 5 [名前] フィールドに、ノードプール名を入力します。
- ステップ 6 (任意) [説明] フィールドに、ノードプール名の説明を入力します。
- ステップ 7 [送信] をクリックします。ノードプールが作成されます。

## システム タスク ポリシーの作成

複数のシステム タスクを 1 つのシステム タスク ポリシーとしてグループ化して、どのシステム タスクがどのノードで実行されるかを後で決定できます。



- (注) 新しいシステム タスク ポリシーは、デフォルトのシステム タスク ポリシーに加えて、1 つ以上のポリシーが必要であると管理者が判断したときに作成されます。

## 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [システムタスクポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] アイコンをクリックします。[追加] ダイアログ ボックスが表示されます。
- ステップ 4** [名前] フィールドに、システム タスク ポリシーに指定する名前を入力します。
- ステップ 5** (任意) [説明] フィールドに、システム タスク ポリシーの説明を入力します。
- ステップ 6** [ノードプール] ドロップダウン リストから、このシステム タスク ポリシーが属するノード プールを選択します。
- ステップ 7** [送信] をクリックします。選択したノードプールは、新しく作成されたシステムタスクポリシーに属するようになりました。
- 

## システム ポリシー タスクへのノード プールの割り当て

## 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [システムタスクポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3** 既存のシステム タスク ポリシーを [名前] 列から選択して、[編集] アイコンをクリックします。[編集] ダイアログボックスが表示されます。
- (注) デフォルトのシステム タスク ポリシーが使用されている場合、このポリシーにサービス ノードを割り当てることができます。デフォルトとは異なるポリシーを設定する場合は、[システム タスク ポリシーの作成](#)、(82 ページ) の項を参照してください。
- ステップ 4** このシステム タスク ポリシーが属するノードプールを [ノードプール] ドロップダウン リストから選択します。
- ステップ 5** [送信] をクリックします。選択したノードプールは、このシステムタスクのポリシーに属することになります。
-

## サービスノードの作成

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [サービスノード] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) ボタンをクリックします。
- ステップ 4** [サービスノード] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ノード名] フィールド	サービス ノードの名前を入力します。
[ロール] フィールド	サービスはこのノードのロールとして記述されます。
[サービスノードプール] ドロップダウン リスト	[default-service-node-pool] が選択されています。
[DNS名] フィールド	サービス ノードの DNS 名または IP アドレスを入力します。 (注) このフィールドには、プライマリ ノードの IP アドレスは使用できません。有効なサービス ノード DNS 名または IP アドレスが入力されていることを確認します。
[説明] フィールド	サービス ノードの説明。
[プロトコル] ドロップダウン リスト	[http] (デフォルト) または [https] を選択します。
[ポート] フィールド	Hypertext Transfer Protocol (HTTP) のデフォルトの TCP ポートは、デフォルトでは 80 が入力されます。必要に応じて異なる TCP ポートを入力します。

名称	説明
[ユーザ名] フィールド	<p>デフォルトでは、ユーザ名 <code>infraUser</code> が入力されます。 <code>infraUser</code> は、デフォルトで作成されるユーザ アカウントです。 メニュー バーからこのユーザ アカウントを検索するには、[管理]&gt;[ユーザとグループ] を選択します。 [ログインユーザ] タブを選択し、[ログイン名] 列で <code>infraUser</code> ユーザ アカウントを見つけます。</p> <p>(注) <code>InfraUser</code> ユーザ名は UCS Director システム自体にログインするデフォルトの管理者ユーザではありません。別のユーザ名をこのフィールドに追加できません。 サービス ノードでの認証に、このユーザの API キーが使用されます。</p>

**ステップ 5** [送信] をクリックします。

## システム タスクへのシステム ポリシーの割り当て

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [システムタスク] タブを選択します。
- ステップ 3** システムタスクを含むフォルダを選択します。フォルダの矢印をクリックして、タスクを展開します。  
(注) 128 のシステム タスクが使用可能です。
- ステップ 4** タスクを選択し、[タスクの管理] アイコンをクリックします。[タスクの管理] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 5** [Task Execution (タスク実行)] ドロップダウン リストから [有効化] を選択します。
- ステップ 6** [システムタスクポリシー] ドロップダウン リストからシステム ポリシーを選択します。
- ステップ 7** [送信] をクリックします。選択したシステム ポリシーにシステム タスクが割り当てられます。

## システム タスクの実行

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [システムタスク] タブを選択します。
- ステップ 3** リストからタスクを選択します。
- ステップ 4** [今すぐ実行] をクリックします。選択されたタスクによってその情報が更新されます。
- 

## システム タスクの無効化

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [システムタスク] タブを選択します。
- ステップ 3** システムタスクを含むフォルダを選択します。フォルダの矢印をクリックして、タスクを展開します。
- (注) 128 のシステム タスクが使用可能です。
- ステップ 4** タスクを選択し、[タスクの管理] アイコンをクリックします。[タスクの管理] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 5** [Task Execution (タスク実行)] ドロップダウン リストから [無効化] を選択します。
- ステップ 6** [送信] をクリックします。
- 

## アイコンの管理

Cisco UCS Director は、カタログ アイコンのカスタマイズと管理をサポートします。各アイコン セットには多くのイメージが含まれます。各アイコン セット内のイメージはカタログ作成フォームで使用できるアイコンに対応しています。

4 組の事前設定されたアイコン セットは次のとおりです。

- コンテナ カatalog アイコン セット
- 高度なカタログ アイコン セット
- 標準カタログ アイコン セット



- VDI カタログ アイコン セット

## アイコンの追加

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
- ステップ 2** [アイコン管理] タブを選択します。
- ステップ 3** アイコンセット カテゴリを選択します。
- ステップ 4** [アイコンイメージ] をクリックします。
- ステップ 5** [アイコンイメージの管理] ウィンドウで、[追加] (+) をクリックします。
- ステップ 6** [アイコンイメージへのエントリの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[イメージラベル] フィールド	イメージの新しいラベル。このラベルは、カタログの作成中にアイコンのドロップダウンリストに表示するために使用されます。
[説明] フィールド	イメージの説明。
[アップロードするファイルの選択] フィールド	参照してアップロードするファイル。

## アイコンの編集

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
- ステップ 2 [アイコン管理] タブを選択します。
- ステップ 3 アイコンのカテゴリを選択します。
- ステップ 4 [アイコンイメージ] をクリックします。
- ステップ 5 [アイコンイメージの管理] ウィンドウで、編集するアイコン イメージを選択します。
- ステップ 6 [編集] (鉛筆) をクリックします。
- ステップ 7 [アイコンイメージエントリの編集] ダイアログボックスで、[説明] を編集します。
- ステップ 8 [参照] をクリックしてイメージを参照し、アップロードする代わりにファイルを選択します。
- ステップ 9 [アップロード] をクリックします。
- ステップ 10 アップロードが終了したら、[送信] をクリックします。

## アイコンの削除

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
- ステップ 2 [アイコン管理] タブを選択します。
- ステップ 3 [アイコンイメージの管理] ウィンドウでアイコンのイメージを選択し、[削除] アイコンをクリックします。
- ステップ 4 [削除] (X) をクリックします。

## アイコンのプレビュー

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
- ステップ 2 [アイコン管理] タブを選択します。
- ステップ 3 [アイコンイメージ] をクリックします。
- ステップ 4 [アイコンイメージの管理] ウィンドウで、プレビューするアイコン イメージを選択します。
- ステップ 5 [情報] アイコンをクリックしてイメージをプレビューします。

## サポート情報

Cisco UCS Director サポートは、ライセンス ステータス、データベース テーブル、バージョン、リソース使用状況、ログ、トラブルシューティング用のデバッグプロセスを含む、基本および高度なシステム情報を提供します。

## サポート情報の表示

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[サポート情報] の順に選択します。
- ステップ 2 [System Information (システム情報)] タブを選択します。
- ステップ 3 [System Information and Logs Link Page (システム情報およびログ リンク ページ)] リンクをクリックします。Cisco UCS Director の [Product System Information (製品システム情報)] ウィンドウが表示されます。

## システム情報の表示

基本システム情報には、バージョン、稼動時間、サービス ステータス、システム ライセンス ステータス、使用状況、計算アカウント ステータス、計算サーバスステータス、ストレージアカウント ステータス、システム カタログ、ネットワーク デバイス ステータス、およびクラウド ステータスが含まれます。

高度なシステム情報には、基本システム情報、データベース テーブル サマリー、製品構成、最上位プロセス情報、およびプロセッサ、メモリ、ディスク、ログ ファイル、ネットワーク、ログイ

ンに関する情報が含まれます。システム タスク ステータス、クラウド インベントリ、およびモニタリング ステータスを表示することもできます。

## ログの表示

ドロップダウンリストからログファイルの1つを選択できます。[Show Log (ログの表示)] をクリックすると、ログの最後の数行が表示されます。

## ログのダウンロード

[Download All Logs (すべてのログのダウンロード)] をクリックして、すべてのログ ファイルを Zip 形式でダウンロードできます。

## デバッグ ログの開始

デバッグ ログでは、最大で 30 分間のデバッグ ログをログ ファイルに記録できます。

### 手順

- 
- |               |  |
|---------------|--|
| <b>ステップ 1</b> | [Start Debug Logging (デバッグ ログの開始)] をクリックします。   |
| <b>ステップ 2</b> | デバッグが完了したら、[Stop Debug Logging (デバッグ ログを停止)] をクリックします。   |
| <b>ステップ 3</b> | ファイルをダウンロードするには、[HH.MM.SS (HH.MM.SS)] (時間) から、[Download Debug Logs (デバッグ ログのダウンロード)] をクリックします。 |
-



## 第 5 章

# 統合設定の管理

この章は、次の内容で構成されています。

- 構成管理データベースの統合, 91 ページ
- 計測データのエクスポート, 92 ページ
- 変更レコード, 93 ページ
- システムログ, 93 ページ
- ストレージおよび OVF のアップロード, 94 ページ
- 複数言語のサポート, 95 ページ

## 構成管理データベースの統合

構成管理データベース（CMDB）は、システムの変更を追跡および管理するために使用されます。CMDB には通常、仮想マシン（VM）、サービス リクエスト、グループなどのリソースに対する追加、削除、または変更のイベント タイプが表示されます。

## CMDB 統合の設定

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[統合] の順に選択します。
- ステップ 2** [CMDB統合設定] タブを選択し、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[FTPサーバにエクスポート] チェックボックス	FTP サーバに変更記録をエクスポートするには、このチェックボックスをオンにします。

名称	説明
[エクスポート形式] ドロップダウン リスト	エクスポート形式の種類（CSV または XML）を選択します。
[FTPサーバ] フィールド	FTP サーバのアドレス。
[FTPポート] フィールド	FTP サーバ ポート番号。
[FTPユーザ] フィールド	FTP ユーザ ID。
[FTPパスワード] フィールド	FTP ユーザ パスワード。
[FTPエクスポート頻度] ドロップダウン リスト	変更記録をFTPサーバにエクスポートする頻度を選択します。
[FTPファイル名] フィールド	エクスポートされる変更記録のファイル名。 ファイルがターゲット FTP サーバにエクスポートされるたびに、次の変数を使用して新しいファイル名を作成できます。  MONTH、WEEK、DAY、YEAR、HOUR、MIN、SEC、MLLIS  例：XYZ-\$DAY-\$HOUR-\$MIN-\$SEC
[FTPのテスト] チェックボックス	FTP の設定をテストするには、このチェックボックスをオンにします。

**ステップ 3** [保存] をクリックします。

## 計測データのエクスポート

計測データのエクスポートを設定することにより、VM リソースの使用率や、リソース アカウンティングの詳細などのトレンドデータを、サーバへエクスポートできます。

## 計測データのエクスポートの設定

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[統合] の順に選択します。
  - ステップ 2 [計測データのエクスポートの設定] タブを選択し、CMDB の設定に使用されるフィールドに値を入力します。
  - ステップ 3 [保存] をクリックします。
- 

## 変更レコード

### 変更レコードの表示

#### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
  - ステップ 2 [レコードの変更] タブを選択します。  
(注) 最大 1,000 件のレコードを表示できます。
- 

## システムログ

システム ログ (syslog) 情報を設定されたサーバに転送できます。各システム メッセージは重大度と最小の重大度レベルに関連付けられます。

### システム ログの設定

#### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[統合] の順に選択します。
  - ステップ 2 [syslog] タブを選択します。
  - ステップ 3 [Syslog転送の有効化] チェックボックスをオンにし、次のサーバ フィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[Syslog転送の有効化] チェックボックス	syslog を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[重大度の最小値] ドロップダウン リスト	選択した重大度の最小値よりも重大度が低いシステム メッセージはフィルタリングされて syslog サーバに転送されません。
<b>[プライマリ Syslogサーバ]</b>	
[サーバのアドレス] フィールド	プライマリ サーバのアドレス。
[プロトコル] ドロップダウン リスト	プロトコル (UDP または TCP) を選択します。
[ポート] フィールド	ポート番号
[syslogメッセージフォーマット] ドロップダウン リスト	メッセージの形式 (XML またはプレーン テキスト) を選択します。
<b>[セカンダリ syslogサーバ]</b>	
[サーバのアドレス] フィールド	セカンダリ サーバのアドレス。
[プロトコル] ドロップダウン リスト	プロトコル (UDP または TCP) を選択します。
[ポート] フィールド	ポート番号
[syslogメッセージフォーマット] ドロップダウン リスト	メッセージの形式 (XML またはプレーン テキスト) を選択します。

**ステップ 4** [保存] をクリックします。

## ストレージおよび OVF のアップロード

管理者、グループ管理者、またはエンドユーザがアップロードしたファイルの保管場所を設定できます。アップロードされたファイルをローカルに保存するか、または外部 NFS 共有マウントポイントを保存先として設定することができます。管理者は、ネットワーク ファイル システム (NFS) の場所を設定します。

ファイルアップロード機能を使用して、管理者、グループ管理者、またはエンドユーザ (サービス エンドユーザ ポータル) は、オープン仮想化フォーマット (OVF) ファイルをローカルストレージまたは外部 NFS 共有マウントポイントにアップロードすることもできます。NFS の場所



は、管理者が設定します。詳細については、OVF ファイル アップロード ガイドを参照してください。

## 複数言語のサポート

Cisco UCS Director は、複数の言語の同時表示および入力をサポートしています。2 バイト文字セットに基づいたすべての言語がサポートされます。すべての入力フィールドで、ユーザーが選択した言語でのテキスト入力をサポートしています。





## 第 6 章

# 物理インフラストラクチャの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [物理インフラストラクチャの管理について](#), 97 ページ
- [接続のテスト](#), 105 ページ
- [デバイス検出の有効化](#), 106 ページ

## 物理インフラストラクチャの管理について

Cisco UCS Director を使用すると、物理インフラストラクチャと仮想インフラストラクチャの両方を管理できます。Cisco UCS Director は、新しく作成された物理アカウントのすべてのコンポーネントを検出します。通常、検出プロセスには約 5 分かかります。ポッドを追加したり、デフォルトポッドを使うことができます。物理アカウントはデフォルトポッド、または追加したポッドに関連付けることができます。



(注) 最初にいずれかのタイプのインフラストラクチャ（物理または仮想）に追加できます。Cisco UCS Director の物理アカウントは仮想（クラウド）アカウントに依存しません。

## サイトの追加

### 手順

- ステップ 1 メニューバーで、[管理]>[物理アカウント]の順に選択します。
- ステップ 2 [サイト管理] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4 [サイトの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名称	説明
[サイト名] フィールド	サイトの記述名。
[説明] フィールド（任意）	サイトの説明（ロケーション、重要性など）。
[連絡先の名前] フィールド	このサイトの担当者の名前。

**ステップ 5** [送信] をクリックします。

## Pod の追加

### 手順

**ステップ 1** メニューバーで [管理] > [物理アカウント] の順に選択します。

**ステップ 2** [POD] タブをクリックします。

**ステップ 3** [追加] をクリックします。

**ステップ 4** [PODの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[名前] フィールド	Pod の記述名です。
[サイト] ドロップダウン リスト	Podを追加するサイトを選択します。環境にサイトがない場合は、このステップを省略できます。

名前	説明
[タイプ] ドロップダウン リスト	<p>追加する Pod のタイプを選択します。 次のサポートされたタイプのいずれかを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [FlexPod]</li> <li>• [汎用]</li> <li>• [ExpressPod ミディアム]</li> <li>• [VSPEX]</li> <li>• [ExpressPod スモール]</li> <li>• [Vblock]</li> </ul> <p>汎用タイプ以外の Pod には、特定の物理コンポーネントおよび仮想コンポーネントにのみ対応しています。 汎用ポッドには特定のポッド ライセンスは必要ありません。 また、汎用ポッドには、任意のタイプの物理コンポーネントまたは仮想コンポーネントを追加できます。 Pod の実行に必要な個々のデバイス ライセンスを含む、バンドルされた Pod ライセンス（FlexPod、Vblock、VSPEX）の詳細については、『<a href="#">Cisco UCS Director Installation and Upgrade Guides</a>』を参照してください。</p>
[説明] フィールド	（任意） Pod の説明です。
[住所] フィールド	Pod の物理ロケーションです。 たとえば、このフィールドには Pod の市区町村、またはその他の内部的な識別子を入力します。
[PODを非表示] チェックボックス	<p>統合チェック ビューにポッドを表示したくない場合にそのポッドを非表示にするには、このチェックボックスをオンにします。 Pod からアカウントの追加または削除は引き続き実行できます。</p> <p>たとえば、このチェックボックスを使用して、物理要素や仮想要素の存在しないポッドが統合ビューに表示されないようにすることができます。</p>

## ステップ 5 [追加] をクリックします。

### 次の作業

Pod にアカウントを 1 つ以上追加します。

## 物理的なアカウントの追加

### 手順

- ステップ 1**    メニュー バーで、[管理]>[物理アカウント] の順に選択します。
- ステップ 2**    [物理アカウント] タブを選択します。
- ステップ 3**    [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4**    [アカウントの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[POD] ドロップダウン リスト	物理アカウントが属する Pod を選択します。
[カテゴリ] ドロップダウン リスト	カテゴリ タイプを選択します ([コンピューティング] または [ストレージ]) 。 [ストレージ] を選択した場合は、ステップ 6 に進みます。
[アカウントタイプ] ドロップダウン リスト	この物理アカウントのアカウントタイプを次から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• UCSM</li> <li>• HP ILO</li> <li>• Cisco ラックサーバ(CIMC)</li> <li>• IPMI</li> </ul>

- ステップ 5**    [アカウントの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[認証タイプ] ドロップダウン リスト	<p>このアカウントに使用する認証タイプを次から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ローカルで認証済み] - ローカルで認証されたユーザ アカウントとは、ファブリック インターコネクトを介して直接認証されたユーザ アカウントのことであり、管理者権限または AAA（認証、認可、アカウントティング）権限を持っていれば誰でも有効/無効にすることができます。</li> <li>• [リモートで認証済み]：リモートで認証されたユーザ アカウントとは、LDAP、RADIUS、TACACS+ のいずれかを介して認証されたユーザアカウントのことです。</li> </ul>
[サーバ管理] ドロップダウン リスト	<p>次のオプションのうちいずれかを選択して、このアカウントによってサーバを管理する方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [すべてのサーバ]</li> <li>• [選択済みのサーバ]</li> </ul>
[アカウント名] フィールド	追加する物理的なアカウントに割り当てる固有の名前。
[サーバのアドレス] フィールド	サーバの IP アドレス。
[ユーザID] フィールド	このアカウントにアクセスするためのユーザ名。
[パスワード] フィールド	ユーザ名に関連付けられたパスワードです。
[通信タイプ] ドロップダウン リスト	<p>アカウントで使用する通信タイプを選択します。</p> <p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• HTTP</li> <li>• HTTPS</li> </ul>
[ポート] フィールド	サーバ ポート番号。
[説明] フィールド	アカウントの説明。

名称	説明
[連絡先の電子メール] フィールド	アカウントの連絡先の電子メール アドレス。
[ロケーション] フィールド	ロケーション。
[サービスプロバイダー] フィールド	サービス プロバイダーの名前（既存する場合）。

**ステップ 6** このアカウントがストレージである場合、適切なアカウント タイプとして、[NetApp ONTAP]、[NetApp OnCommand]、[EMC VNX]、[EMC VMAX Solutions Enabler] または [WHIPTAIL] のの中から選択します。

**ステップ 7** [追加] をクリックします。

## マルチドメイン マネージャ アカウントの追加

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

**ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[物理アカウント] の順に選択します。

**ステップ 2** [マルチドメインマネージャ] タブを選択します。

**ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。

**ステップ 4** [アカウントの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[アカウント名] フィールド	このマルチドメイン マネージャ アカウントが属するアカウント名を選択します。
[説明] フィールド	(任意) アカウントについての説明。
[アカウントタイプ] ドロップダウン リスト	このマルチドメイン マネージャ アカウントのアカウント タイプを次から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• PNSC : Cisco Prime ネットワーク サービス コントローラ アカウント。</li> <li>• UCS Central : Cisco UCS Central アカウント。</li> </ul>



名称	説明
[サーバのアドレス] フィールド	マルチドメイン マネージャ アカウントを管理するサーバの IP アドレスを入力します。
[アカウント名] フィールド	追加する物理的なアカウントに割り当てる固有の名前。
[サーバのアドレス] フィールド	サーバの IP アドレス。
[ユーザID] フィールド	このアカウントにアクセスするためのユーザ名。
[パスワード (Password)] フィールド	ユーザ名に関連付けられたパスワードです。
[通信タイプ] ドロップダウン リスト	アカウントで使用する通信タイプを選択します。 次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• http</li> <li>• https</li> </ul>
[ポート] フィールド	サーバポート番号。デフォルトのポートは443です。
[連絡先の電子メール] フィールド	(任意) アカウントの連絡先電子メールアドレス。
[ロケーション] フィールド	(任意) ロケーション。

**ステップ 5** [送信] をクリックします。

## ネットワーク要素の追加

ロードバランシングをサポートする仮想サーバを作成するには、最初に Cisco UCS Director にネットワーク要素を追加する必要があります。F5 ロードバランサをネットワーク要素として Cisco UCS Director に追加すると、[管理対象ネットワーク要素] タブに表示されます。

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

## 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[物理アカウント] の順に選択します。
- ステップ 2** [管理するネットワーク機器] タブを選択します。
- ステップ 3** [ネットワーク機器の追加] をクリックします。
- ステップ 4** [ネットワーク機器の追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[POD] ドロップダウン リスト	ネットワーク要素が属するポッドを選択します。
[Device Category (デバイス カテゴリ) ] ドロップダウン リスト	このネットワーク要素のデバイスカテゴリを選択します。たとえば [F5 ロード バランサ] を選択します。
[デバイスIP] フィールド	このデバイスの IP アドレス。
[プロトコル] ドロップダウン リスト	使用されるプロトコルを選択します。リストには次の内容が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• telnet</li> <li>• ssh</li> <li>• http</li> <li>• https</li> </ul> (注) F5 ロードバランサデバイスを使用する場合、選択できるのは http と https だけです。
[ポート] フィールド	使用するポート番号。
[ログイン] フィールド	ログイン名。
[パスワード] フィールド	ログイン名に関連付けられるパスワード。

- ステップ 5** [送信] をクリックします。

F5 ロード バランサを追加すると、システム タスクのインベントリ収集がトリガーされます。[システムのタスク] タブで設定されるポーリング間隔はインベントリ収集の頻度を指定します。

### 次の作業

仮想サーバに変更を加えるには、サーバを選択して [変更] ボタンをクリックします。仮想サーバを削除するには、サーバを選択して [削除] ボタンをクリックします。

## DHCP ロギングのイネーブル化

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[物理アカウント] の順に選択します。
  - ステップ 2 [ネットワークサービスエージェント] タブを選択します。
  - ステップ 3 [組み込みネットワークサービス] をクリックします。
  - ステップ 4 [組み込みネットワークサービス] ダイアログボックスで、[DHCPロギングを有効にする] チェックボックスをオンにします。
- 

## 接続のテスト

管理対象ネットワーク要素および物理的なアカウントに対して接続をテストできます。

## 管理対象ネットワーク機器の接続テスト

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[物理アカウント] の順に選択します。
  - ステップ 2 [管理するネットワーク機器] タブを選択します。
  - ステップ 3 接続をテストするポッドを選択します。
  - ステップ 4 [テスト接続] をクリックします。
- 

## 物理アカウントへの接続のテスト

ポッドをアカウントに追加した後は、いつでも接続をテストできます。

## 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[物理アカウント] の順に選択します。
- ステップ 2** テストするアカウントタイプに対応するタブをクリックします。  
たとえば、[物理アカウント] タブまたは [マルチドメイン マネージャ] タブをクリックします。
- ステップ 3** テーブルで、接続のテスト対象となるアカウントの行をクリックします。
- ステップ 4** [テスト接続] をクリックします。
- ステップ 5** 接続テストが完了したら、[閉じる] をクリックします。
- 

## 次の作業

接続が失敗した場合は、ユーザ名やパスワードを含め、アカウントの構成を検証します。ユーザ名とパスワードが正しい場合は、ネットワーク接続に問題があるかどうかを確認します。

## デバイス検出の有効化

## 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[物理アカウント] の順に選択します。
- ステップ 2** デバイスの検出を検証するアカウントをクリックします。
- ステップ 3** [検出されたデバイス] タブを選択します。
- ステップ 4** [設定の検出] アイコンをクリックします。最初の [設定の検出] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 5** 検出を有効化するには、[検出を有効にする] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6** [設定の検出] ダイアログボックスで、[IPアドレス範囲] フィールドに入力し、ご使用の環境で次のフィールドのデフォルト値が適切かどうかを判断します。

名称	説明
[検出を有効にする] チェックボックス	このチェックボックスは、対象のアカウントに対するデバイス検出を有効にするためにデフォルトでオンになっています。
[IP範囲]	デバイス検出の IP アドレス範囲。
[TCPタイムアウト(ミリ秒単位)]	TCP のタイムアウト (ms) (デフォルト値は 2000 ms) 。
[SNMPタイムアウト(ミリ秒単位)]	SNMP のタイムアウト (ms) (デフォルト値は 1500 ms) 。

名称	説明
SNMP コミュニティ スtring	SNMP コミュニティ スtring (デフォルトは [パブリック]) 。

**ステップ 7** [送信] をクリックします。

---





## 第 7 章

# 仮想インフラストラクチャの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [VMware の管理について, 109 ページ](#)
- [クラウドの検出および接続の確認, 112 ページ](#)
- [vCenter プラグインの表示, 113 ページ](#)

## VMware の管理について

Cisco UCS DirectorCisco UCS Director は vCenter (ESX 3.5、ESX/ESXi 4.x および 5.x) で VMware をサポートします。Cisco UCS Director は自動的にすべての既存の仮想マシン (VM) と新しく追加したクラウドのアカウントのイメージを検出します。通常、検出プロセスは約 5 分かかります。VMware クラウドおよび PowerShell エージェントを追加できます。



(注) 「クラウド」という用語は 1 つの vCenter インストール環境を指します。

## クラウドの作成

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[仮想アカウント] の順に選択します。
- ステップ 2** [仮想アカウント] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [クラウドの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[クラウドタイプ] ドロップダウン リスト	[VMware] を選択します。  (注) 次のフィールドは、[VMware] を選択した場合に表示されます。他のクラウドタイプでは、そのクラウドタイプに固有のフィールドが表示されません。
[クラウド名] フィールド	クラウドの名前。この名前に一重引用符を含めることはできません。  (注) Cisco UCS Director 内では各クラウドに固有の名前を付ける必要があります。クラウドの追加後は、すべてのレポートでこのクラウド名によって表されます。
[サーバのアドレス] フィールド	vCenter サーバのアドレス
[サーバのユーザID] フィールド	vCenter サーバのユーザ名。
[サーバのパスワード] フィールド	vCenter サーバのパスワード。
[サーバアクセスポート] フィールド	サーバ ポート番号。
[VMwareデータセンター] フィールド	vCenter アカウントのデータセンター名。 この名前を使用して、指定されているポッドのリソースを検出、監視、管理できます。vCenter アカウント全体がCisco UCS Director によって管理される場合は、このフィールドを空白にします。
[サーバアクセスURL] フィールド	サーバアクセス用の URL。
[説明] フィールド	クラウドの説明。
[連絡先の電子メール] フィールド	クラウドの連絡先の電子メール アドレス。
[ロケーション] フィールド	ロケーション。
[POD] ドロップダウン リスト	コンバージド インフラストラクチャ ポッドを選択します。  ポッドの名前を選択すると、VMware クラウドのアカウントが、コンバージドインフラストラクチャ スタックに表示されます。



名称	説明
[サービスプロバイダー] フィールド	サービス プロバイダーの名前。

**ステップ 5** [追加] をクリックします。

## Cisco PowerShell エージェント インストーラのダウンロード

PowerShell エージェントは Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2012 64 ビット仮想マシンにインストールされます。

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[仮想アカウント] の順に選択します。
- ステップ 2** [PowerShell エージェント] タブを選択します。
- ステップ 3** [インストーラのダウンロード] をクリックします。
- ステップ 4** [Download Agent Installer (エージェント インストーラのダウンロード)] ダイアログボックスで、示されているインストール要件をシステムが満たしているかどうかを確認します。要件を満たしている場合は [送信] をクリックします。
- ステップ 5** 要件を満たしている場合は [送信] をクリックします。  
**[Opening PSASetup.exe (Opening PSASetup.exe を開く)]** ダイアログボックスに、実行可能ファイルを保存するよう伝えるメッセージが表示されます。
- ステップ 6** [ファイルの保存] をクリックします。  
ファイルはシステムのダウンロード ロケーションに保存されます。
- ステップ 7** PSASetup.exe ファイルを Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2012 64 ビット仮想マシン (VM) にインストールします。

## PowerShell エージェントの作成

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[仮想アカウント] の順に選択します。
- ステップ 2** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 3** [エージェントの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[エージェント名] フィールド	エージェントの名前。
[エージェントアドレス] フィールド	エージェントのアドレス。
[エージェントのアクセスポート] フィールド	エージェントのアクセス ポート番号。
[アクセスキー] フィールド	アクセス キー。
[説明] フィールド	エージェントの説明。

## クラウドの検出および接続の確認

### 接続のテスト

#### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[仮想アカウント] の順に選択します。
- ステップ 2 [仮想アカウント] タブを選択します。
- ステップ 3 テストする VMware アカウントを選択します。
- ステップ 4 [接続のテスト] をクリックします。  
(注) 1 つ以上のクラウドのアカウントをCisco UCS Directorに追加後、[サマリー] タブを使用してクラウドとそのデータが収集されたことを確認できます。
- ステップ 5 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 6 [サマリー] タブを選択します。  
(注) 自動検出とデータの入力完了するまでに数分かかる場合があります。クラウド名を選択すると、そのステータスの詳細が表示されます。

# vCenter プラグインの表示

## 手順

- 
- ステップ 1**    メニュー バーで、[管理]>[仮想アカウント] の順に選択します。
- ステップ 2**    [プラグイン] タブを選択します。 このタブには、Cisco UCS Director に追加された vCenter に必要なすべてのプラグインが表示されます。
-





## 第 8 章

# ポリシーの管理

---

この章は、次の内容で構成されています。

- [ポリシー, 115 ページ](#)
- [データ コレクション ポリシー, 119 ページ](#)
- [グループの共有ポリシーについて, 121 ページ](#)
- [ストレージ ポリシー, 122 ページ](#)
- [エンドユーザ セルフサービス ポリシーについて, 137 ページ](#)

## ポリシー

Cisco UCS Director は、管理者が設定する事前定義済みポリシーを使用して、割り当てられたリソース プールから仮想マシン（VM）がプロビジョニングされるセルフサービス ポータルを提供します。

ポリシーは、システム リソースの可用性に基づいて、新しい VM がインフラストラクチャ内でプロビジョニングされる場所と方法を規定する規則のグループです。

Cisco UCS Director では、VM をプロビジョニングするために次のポリシーをセットアップする必要があります。

- コンピューティング
- ストレージ
- ネットワーク
- システム



### 重要

VM のプロビジョニングのポリシーをセットアップする前にクラウドアカウントが存在している必要があります。

---

## コンピューティング ポリシー

コンピューティング ポリシーは、グループまたはワークロードの要件を満たし、プロビジョニング中に使用されるコンピューティング リソースを決定します。

管理者として、コンピューティング ポリシーのさまざまな条件を組み合わせで高度なポリシーを定義できます。



- (注) 条件の組み合わせによっては、セルフ サービス プロビジョニング中にホスト マシンが存在しない状況が発生する可能性があるため、コンピューティング ポリシーのすべてのフィールドについて十分に理解しておくことを推奨します。

### コンピューティング ポリシーの作成

#### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** [VMwareコンピューティングポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [コンピューティングポリシーの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ポリシー名] フィールド	ポリシーの名前。 (注) この名前は、カタログの定義で使用されます
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	リソース割り当てを行うクラウドを選択します。
[ホストノードまたはクラスタスコープ] ドロップダウン リスト	導入のスコープを選択します。 (注) すべてのオプションを使用するか、選択したオプションを含めるか、または選択したオプションを除外するかを指定して、導入のスコープを絞り込むことができます。選択した内容に基づいて、必要なホストまたはクラスタを選択できる新しいフィールドが表示されます。
[リソースプール] ドロップダウン リスト	リソース プールを選択します。

名称	説明
[ESXタイプ] ドロップダウン リスト	ESX のインストール タイプ (ESX、ESXi、または両方) を選択します。
[ESXバージョン] ドロップダウン リスト	ESX のバージョンを選択します。
[条件の最小値] チェックボックス	満たしている必要がある 1 つ以上の条件のチェックボックスをオンにします。これらの条件を満たしていないホストは検討から除外されます。複数の条件を選択した場合は、選択した条件すべてを満たしている必要があります。
導入オプション	
[テンプレートのオーバーライド] チェックボックス	テンプレートのプロパティをオーバーライドするには、このチェックボックスをオンにします。CPU とメモリのカスタム設定を入力できるオプションも用意されています。
[vCPU数] フィールド	vCPU のカスタム数。VM に対して指定する vCPU の数は、選択されているホスト ノードまたはクラスタのスコープの総コア数を超えてはいけません。  (注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド]を選択した場合に表示されます。
[CPU予約(MHz)] フィールド	VM の CPU 予約。予約は、指定した vCPU の数によって異なります。  (注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド]を選択した場合に表示されます。
[CPUの制限(MHz)] フィールド	VM に対する CPU の制限。CPU の制限は、選択されたホスト ノードまたはクラスタのスコープに基づいています。
[CPU共有] ドロップダウン リスト	CPU 共有 ([低]、[ノーマル]、または [高]) を選択します。CPU 共有により、VM 間で競合が発生した場合に、どの VM が CPU リソースを取得するかが決定します。  (注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド]を選択した場合に表示されます。

名称	説明
[メモリ] フィールド	VM のカスタム メモリ。 (注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド]を選択した場合に表示されます。
[メモリ予約(MB)] フィールド	VMのメモリ予約。予約は、指定したメモリによって異なります。 (注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド]を選択した場合に表示されます。
[メモリ制限(MB)] フィールド	VMに対するメモリの制限。メモリの制限は、選択されたホスト ノードまたはクラスタのスコープに基づいています。 (注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド]を選択した場合に表示されます。
[メモリ共有] ドロップダウン リスト	メモリ共有 ([低]、[ノーマル]、または[高]) を選択します。メモリ共有により、VM 間で競合が発生した場合に、どのVMがメモリ リソースを取得するかが決定します。 (注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド]を選択した場合に表示されます。
サイズ変更オプション	
[VMのサイズ変更を許可] チェックボックス	プロビジョニング前のVMサイズの変更や、既存のVMのサイズの変更を許可するには、このチェックボックスをオンにします。
[vCPUの許容値] フィールド	VM のプロビジョニング中、または既存の VM のサイズの変更中に使用する vCPU の範囲。8 よりも大きい範囲は、VM のプロビジョニングまたはサイズ変更中に表示されます。選択したクラウド (vCenter) が 5 以上であり、かつ VM バージョン 8 を使用している場合のみ。このボックスで指定された値だけが表示されます。 (注) このオプションは、[VMのサイズ変更を許可]を選択した場合に表示されます。



名称	説明
[メモリの許容値(MB単位)] フィールド	<p>VM のプロビジョニング中、または既存の VM のサイズの変更中に使用するメモリの範囲。 例：512、768、1024、1536、2048、3072、4096 など。このボックスで指定された値だけが表示されます。</p> <p>(注) このオプションは、[VMのサイズ変更を許可]を選択した場合に表示されます。</p>
[フォルダに展開] フィールド	<p>このポリシーを使用して作成され、カスタムフォルダに展開できる VM。Cisco UCS Director では、Cisco UCS Director に付属のマクロまたはグループ名に基づいてフォルダ名を自動的に作成できます。詳細については、『Cisco UCS Director Orchestration Guide (Cisco UCS Director オーケストレーションガイド)』を参照してください。</p> <p><code>\${GROUP_NAME}</code> を指定すると、このポリシーを使用するグループ名に基づいてフォルダが作成されます。新しいフォルダ名または既存のフォルダ名を指定できます。</p>

ステップ 5 [追加] をクリックします。

## データ コレクション ポリシー

データ コレクション ポリシーを作成して、各 VMware アカウントについて vCenter から取得できるパラメータ量を制御することができます。データ コレクション ポリシーで指定される各パラメータは収集され、Cisco UCS Director の特定のトレンドレポートで使用されます。



(注)

VMware は、サポートされている唯一の仮想アカウントタイプです。VMware アカウントが追加されると、最初にデフォルトで default-data-collection-policy に関連付けられます。

## 仮想アカウントのデータ コレクション ポリシーの設定

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[サービスの提供] の順に選択します。
- ステップ 2** [データコレクションポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[名前] フィールド	データ コレクション ポリシーの名前。 (注) この名前は、カタログの定義中使用されます。
[説明] フィールド	ポリシーの説明
[アカウントタイプ] ドロップダウン リスト	VMware 仮想アカウントが選択されます。
[リソース] ウィンドウ	vCenter パラメータを含むデータ収集グループを選択します。たとえば、CPU などです。データ収集グループを編集するには、鉛筆アイコンをクリックします。データ収集を有効または無効にするには、[Edit Resource Entry (リソース エントリの編集)] ダイアログボックスの [Enable Collection (コレクションを有効にする)] チェックボックスをオンまたはオフにします。

- ステップ 5** [送信] をクリックします。

## 仮想アカウントのデータ コレクション ポリシーの関連付け

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[サービスの提供] の順に選択します。
- ステップ 2** [データコレクションポリシーの関連付け] タブを選択します。
- ステップ 3** 仮想 (VMware) アカウントを選択して [編集] をクリックします。
- ステップ 4** [編集] ダイアログボックスで、[ポリシー] ドロップダウン リストから、「仮想アカウントのデータ コレクション ポリシーの設定」の項で設定したデータ コレクション ポリシーを選択します。
- ステップ 5** [送信] をクリックします。VMware アカウントにデータ コレクション ポリシーが関連付けられました。

## グループの共有ポリシーについて

グループの共有ポリシーによって、ユーザはリソースと、他のユーザと共有するものを高度に制御できるようになります。このポリシーでは、ユーザは現在自分だけに割り当てられているリソースを表示し、またユーザが属するすべてのグループに割り当てられているリソースを表示できます。

グループを作成する場合は、グループの共有ポリシーを定義して、どのグループが読み取り/書き込み権限を持つかを決定できます。後にユーザがこのグループに追加されると、リソースに対するそのユーザのアクセス権は、グループに適用されるグループの共有ポリシーによって決定されます。

## グループ共有ポリシーの作成

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[サービスの提供] の順に選択します。
- ステップ 2** [グループ共有ポリシー] タブをクリックします。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [ポリシーの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ポリシー名] フィールド	グループ共有ポリシーの名前。

名称	説明
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[グループの選択] フィールド	このポリシーによって定義されたリソースに対する読み取り/書き込み権限を持つグループ。

**ステップ 5** [送信] をクリックします。

### 次の作業

ユーザグループを編集してこのグループ共有ポリシーを指定できます。権限に基づいて、それらのグループ内のユーザは、リソースに対する読み取り/書き込み権限を継承します。

## ストレージポリシー

ストレージポリシーは、データストアの範囲、使用するストレージの種類、容量、遅延などの最小条件といったリソースを定義します。

ストレージポリシーでは、複数ディスクの追加ディスク ポリシーを設定し、サービス リクエストの作成中に使用するデータストアを選択することもできます。



(注) Cisco UCS Director は、VM のプロビジョニングのためのサービス リクエストの作成中にデータストアを選択することをサポートしています。サービス リクエストの作成中にエンドユーザのデータストアの選択を有効または無効にするオプションがあります。リストされるデータストアは、サービス リクエストの作成中に VDC に関連付けられたストレージポリシーで指定される範囲条件に依存します。

サービス リクエストの作成中にデータストアの選択機能を使用するには、VM のプロビジョニングに使用されるテンプレートに [システム] ディスク タイプが割り当てられている必要があります。これは、単一または複数のディスクを含むテンプレートに適用されます。

## 複数ディスク VM のストレージポリシー

Cisco UCS Director は、複数データストア上の複数ディスクでの VM のプロビジョニングをサポートしています。

ディスクはシステム、データ、データベース、スワップ、ログという 5 つのタイプに分類されます。最初にシステムディスクポリシーが設定され、他のディスクは必要に応じて設定できます。各ディスク タイプに対して個別にディスク ポリシーを設定することも、各ディスクに対してデフォルトのシステム ディスク ポリシーを選択することもできます。



(注) 複数のディスクを含むテンプレートに対するストレージポリシーの作成の詳細については、「複数ディスクの VM プロビジョニング」の章を参照してください。

## ストレージポリシーの追加と設定

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザポリシー]>[ストレージ]の順に選択します。
- ステップ 2** [VMwareストレージポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [ストレージリソース割り当てポリシーの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドを入力します。

名称	説明
[ポリシー名] フィールド	リソース割り当てが発生するクラウドを選択します。
[ポリシーの説明] フィールド	導入の範囲を限定する場合は、すべてのデータストア、選択したデータストアのみ、もしくは、選択した以外のデータストアを導入するのを選択します。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	リソース割り当てが発生するクラウドを選択します。
システム ディスク スコープ	
[データストアの範囲] ドロップダウン リスト	導入の範囲を限定する場合は、すべてのデータストア、選択したデータストアのみ、もしくは、選択した以外のデータストアを導入するのを選択します。
[共有データストアのみの使用] チェックボックス	共有データストアのみを使用するには、このチェックボックスをオンにします。
ストレージ オプション	
[ローカルストレージの使用] チェックボックス	ローカルストレージを使用するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このフィールドはオンです。

名称	説明
[NFSの使用] チェックボックス	NFSストレージを使用するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このフィールドはオンです。
[SANの使用] チェックボックス	SANストレージを使用するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このフィールドはオンです。
[条件の最小値] チェックボックス	一致する必要がある1つ以上の条件を選択してチェックボックスをオンにします。これらの基準に一致しないすべてのデータストアは、考慮事項から除外されます。複数の条件を選択する場合、すべての条件が一致する必要があります。
[テンプレートのオーバーライド] チェックボックス	テンプレートのプロパティをオーバーライドするには、このチェックボックスをオンにします。シンプロビジョニングの使用やカスタムディスクサイズなど、カスタム設定を入力するオプションが提供されます。
<b>VM ライフサイクルのサイズ変更オプション</b>	
[Allow Resizing of Disk (ディスクのサイズ変更を許可)] チェックボックス	[ディスクのサイズ変更を許可] チェックボックスをオンにすると、プロビジョニングする前にVMディスクサイズを選択するようエンドユーザに求めるオプションが提供されます。
[ディスクの許容値(GB単位)] フィールド	VMのプロビジョニング中に選択したディスクサイズ値のカスタム範囲。たとえば、1、5、10、50、100、500、1024、5120、10240などです。このオプションは、[All Resizing of Disk (ディスクのサイズ変更を許可)] がオンの場合に表示されます。
[Allow user to select datastore from scope (スコープからのデータストアの選択をユーザに許可する)] チェックボックス	エンドユーザにサービス要求の作成中にデータストアを選択するよう求めるオプションを提供するには、このチェックボックスをオンにします。

- ステップ 5** [次へ] をクリックします。
- ステップ 6** [追加のディスクポリシー] ペインで、設定するディスク タイプを選択します。
- ステップ 7** ディスク タイプを編集するには、[編集] (鉛筆) をクリックします。  
(注) デフォルトでは、ディスクのディスク ポリシーは、[システムディスクポリシー] と同じです。
- ステップ 8** ディスク ポリシーを設定するには、[Edit Policies Entry (ポリシー項目の編集)] ダイアログボックスで、[システムディスクポリシーと同じ] チェックボックスをオフにします。
- ステップ 9** [送信] をクリックします。
- ステップ 10** [エントリの編集] ダイアログボックスで、追加のディスク ポリシーを設定します。
- ステップ 11** [送信] をクリックします。  
(注) 追加ディスク ポリシーを使用して作成されるストレージポリシーを使用するには、VM のプロビジョニングに使用される VDC とポリシーを関連付ける必要があります。
- 設定された追加ディスク ポリシーをポリシーで使用する場合は、複数ディスク テンプレートのカタログ作成中に、[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] チェックボックスを必ずオフにしてください。カタログの作成方法の詳細については、[カタログの管理](#)、(155 ページ) を参照してください。

## 仮想ストレージ カタログ

ストレージポリシーをカスタマイズするために仮想ストレージカタログを使用できます。仮想ストレージカタログを使用して、複数のストレージポリシーを選択し、カスタムストレージのエントリ名を指定できます。

ストレージカタログは、カタログの作成中にそれを有効化することにより、カタログにマッピングします。カタログを使用してサービス要求を出すとき、[Storage Tier (ストレージ階層)] を選択することができます。

### 仮想ストレージカタログの設定

#### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザポリシー]>[ストレージ]の順に選択します。
- ステップ 2** [仮想ストレージのカタログ] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [仮想ストレージのカタログ] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[カタログ名] フィールド	カタログの名前。 この名前は、カタログ カスタム アクションの定義中に使用されます。
[カタログの説明] フィールド	カタログの説明。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	クラウド アカウントを選択します。
[エントリ数の選択] ドロップダウン リスト	エントリ数を選択します。指定できる範囲は 1 ～ 10 です。選択した内容に応じて、次のダイアログボックスにストレージエントリ オプションが表示されます。

**ステップ 5** [次へ] をクリックします。

**ステップ 6** [エントリの追加] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[Storage Entry #1 (ストレージ エントリ #1) ]	
[ストレージエントリ名] フィールド	ストレージ エントリの名前。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	ストレージ ポリシーを選択します。
[Storage Entry #2 (ストレージ エントリ #2) ]	
[ストレージエントリ名] フィールド	2 番目のポリシーのストレージ エントリ名。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	ストレージ ポリシーを選択します。

**ステップ 7** [送信] をクリックします。

### 次の作業

- カatalogの作成中に仮想ストレージ カタログをマッピングできます。  
「カタログの管理」の項 (xref to be added) を参照してください。
- サービス リクエストの作成中にストレージ階層オプションを表示できます。  
「セルフサービス プロビジョニングの使用法」 (xref to be added) を参照してください。



## ネットワーク ポリシー

ネットワーク ポリシーには、ネットワーク設定、DHCP、スタティック IP などのリソースが含まれ、このポリシーを使用してプロビジョニングされた VM に対して複数の vNIC を追加するためのオプションが含まれています。

### スタティック IP プール ポリシーの追加

ネットワーク ポリシーで利用できるスタティック IP プールポリシーを設定できます。（オプション）

#### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[ネットワーク] の順に選択します。
- ステップ 2** [スタティック IP プールポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [静的 IP プールポリシー情報] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ポリシー名] フィールド	ネットワーク ポリシーの名前。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。

- ステップ 5** [静的 IP プール] セクションの [追加 (+)] をクリックして、複数スタティック IP プールを追加して設定します。
- ステップ 6** [静的 IP プールへのエントリの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[静的 IP プール] フィールド	スタティック IP プール。 例：10.5.0.1 - 10.5.0.50、10.5.0.100、10.5.1.20 - 10.5.1.70
[サブネットマスク] フィールド	プールのサブネット マスク。255.255.255.0 などです。
[ゲートウェイ IP アドレス] フィールド	ネットワーク内のデフォルト ゲートウェイの IP アドレス。

**ステップ 7** [Submit (送信)] をクリックします。

**ステップ 8** [スタティックIPポリシー情報] ダイアログボックスで [送信] をクリックします。

## ネットワーク ポリシーの追加

### 手順

**ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザポリシー]>[ネットワーク] の順に選択します。

**ステップ 2** [VMwareネットワークポリシー] タブを選択します。

**ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。

**ステップ 4** [ネットワークポリシーの情報] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ポリシー名] フィールド	ネットワーク ポリシーの名前。
[ポリシーの説明] フィールド	ネットワーク ポリシーの説明。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	ポリシーが適用されるクラウドアカウントを選択します。
[エンドユーザにオプションのNICの選択を許可] チェックボックス	サービスリクエストの導入設定の作成中にvNICを選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** 複数の vNIC を追加して設定するには、[VMネットワーク] セクションで [追加] (+) をクリックします。これらの vNIC は、このポリシーを使用してプロビジョニングされる VM に適用できます。

(注) VM アクションを使用してプロビジョニングまたは検出された VM の vNIC を追加または交換するには、vNIC を設定する必要があります。

**ステップ 6** [VMネットワークへのエントリの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[NICエイリアス] フィールド	新しい NIC の名前。

名称	説明
[必須] チェックボックス	<p>[ネットワークポリシー] ダイアログボックスの [エンドユーザにオプションのNICの選択を許可] チェックボックスがオンの場合、このチェックボックスはあらかじめ選択されています。[ネットワークポリシー] ダイアログボックスが選択されておらず、かつこのチェックボックスがオンでない場合は、[NICエイリアス] フィールドはオプションです。</p> <p>(注) 少なくとも 1 つの NIC で [必須] オプションが選択されている必要があります。[必須] フィールドが選択されている NIC は VM のプロビジョニングで使用されます。VM サービス リクエストの作成中にはユーザのオプションはありません。</p>
[エンドユーザによるポートグループ選択を許可] チェックボックス	<p>プロビジョニング中にエンドユーザがポートグループを選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[Copy Adapter from Template (テンプレートからアダプタをコピーする)] チェックボックス	<p>カスタム設定が不要な場合は、このチェックボックスをオンにします。カスタム設定の場合はオフにします。</p>
[アダプタのタイプ] ドロップダウン リスト	<p>アダプタ タイプを選択します。テンプレートで使用可能なアダプタ タイプと同じタイプがユーザに必要な場合は、このオプションをオンにします。</p> <p>(注) [Copy Adapter from Template (テンプレートからアダプタをコピーする)] オプションが選択されている場合は、このオプションは表示されません。</p>

- ステップ 7** [ポートグループ] セクションで、[追加] (+) をクリックします。[ポートグループへのエントリの追加] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 8** [選択] をクリックして、ポート グループ名を選択します。
- ステップ 9** [IPアドレスのタイプの選択] ドロップダウン フィールドで、[DHCP] (デフォルト) または [固定] を選択します。
- a) [固定] を選択すると、[エントリの追加] ダイアログボックスが表示されます。[IP Pool Policy (IP プール ポリシー)] (デフォルト) または [Inline IP Pool (インライン IP プール)] を選択します。

[IP Pool Policy (IP プール ポリシー)] を選択した場合は、[Select to choose a static IP pool (スタティック IP プールを選択する)] をクリックします。[選択] ダイアログボックスで、事前設定されたスタティック IP プールのリストから選択します。事前設定されたスタティック IP プールが存在しない場合、詳細については「スタティック IP ポリシーの追加」を参照してください。

- b) [Inline IP Pool (インライン IP プール)] を選択する場合は、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[静的IPプール] フィールド	スタティック IP プール。 10.5.0.1 - 10.5.0.50、10.5.0.100、10.5.1.20-10.5.1.70 などです。
[サブネットマスク] フィールド	プールのサブネットマスク。 255.255.255.0 などです。
[ゲートウェイIPアドレス] フィールド	このネットワークのデフォルトゲートウェイの IP アドレス。

**ステップ 10** [送信] をクリックします。

**ステップ 11** [VMネットワークへのエントリの追加] ダイアログボックスで、[送信] をクリックします。

**ステップ 12** [ネットワークポリシーの情報] ダイアログボックスで、[送信] をクリックします。

## ネットワーク プロビジョニング ポリシー

ネットワーク プロビジョニング ポリシーは、オーケストレーション ワークフローのタスクで使用されます。このポリシーは、レイヤ 2 のネットワーク設定、およびネットワーク内のスイッチに対するアクセス コントロール リスト (ACL) を定義します。

### ネットワーク プロビジョニング ポリシーの設定

#### 手順

**ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[ネットワーク] の順に選択します。

**ステップ 2** [ネットワークプロビジョニングポリシー] タブを選択します。

**ステップ 3** [追加] をクリックします。

**ステップ 4** [ポリシーの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
一般情報	
[ポリシー名] フィールド	ポリシーの名前。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[L2ネットワーク設定 (VLAN) ]	
[プライベートVLANの使用] チェックボックス	<p>オンにすると、次のフィールドにデータが自動的に取り込まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [プライベートVLANタイプ] : コミュニティ</li> <li>• [プライマリVLAN ID] : 0</li> <li>• [セカンダリVLANの範囲 - 開始ID] : 500</li> <li>• [セカンダリVLANの範囲 - 終了ID] : 1000</li> </ul>
[VLAN範囲 - 開始ID] フィールド	VLAN の範囲の開始ID。 500 はデフォルトの範囲開始 ID です。
[VLAN範囲 - 終了ID] フィールド	VLAN の範囲の終了 ID。 1000 はデフォルトの範囲終了 ID です。
[基本プロファイル名] フィールド	VLAN ベース プロファイル名。 1 つ以上のネストされたプロファイル割り当てを含むプロファイルです。
アクセス コントロール リスト	
[ACLタイプ] ドロップダウン リスト	[シンプル] が現時点のデフォルトであり、唯一のオプションです。 ICMP を VLAN で許可する場合は、このチェックボックスをオンにします。

名称	説明
[TCPポートへの着信トラフィックを許可]フィールド	<p>[選択] ボタンをクリックします。[項目の選択] ダイアログボックスが表示されます。使用可能なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• FTP</li> <li>• SSH</li> <li>• Telnet</li> <li>• SMTP</li> <li>• POP3</li> <li>• HTTP</li> <li>• HTTPS</li> <li>• MySQL</li> </ul> <p>選択するオプションの横のチェックボックスをオンにするか、または[すべてオン] ボタンをクリックします。以前の入力をクリアするには、[すべてオフ] ボタンをクリックします。</p>
[UDPポートへの着信トラフィックを許可]フィールド	<p>[選択] ボタンをクリックします。[項目の選択] ダイアログボックスが表示されます。使用可能なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SNMP</li> <li>• Syslog</li> </ul> <p>選択するオプションの横のチェックボックスをオンにするか、または[すべてオン] ボタンをクリックします。以前の入力をクリアするには、[すべてオフ] ボタンをクリックします。</p>

**ステップ 5** [送信] をクリックします。

## VLAN プール ポリシー

VLAN プール ポリシーはポッドに対する VLAN の範囲を定義します。このポリシーは、ポリシーで指定された定義済み範囲からフリーの VLAN ID を生成するためにオーケストレーション ワークフローで使用されます。

## VLAN プール ポリシーの設定

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[ネットワーク] の順に選択します。
- ステップ 2** [VLANプールポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [ポリシーの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[POD] ドロップダウン リスト	ポッドを選択します。
[ポリシー名] フィールド	ポリシー名。このポリシー名はオーケストレーション ワークフローで使用されます。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[VLAN範囲] フィールド	VLAN の範囲。たとえば、1,3,5—15 などです。

- ステップ 5** [送信] をクリックします。

## システム ポリシー

システム ポリシーは、使用するテンプレート、タイム ゾーン、OS 情報など、システムに固有の情報を定義します。

## システム ポリシーの設定

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[サービスの提供] の順に選択します。
- ステップ 2** [VMWareシステムポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [System Policy Information (システム ポリシー情報)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ポリシー名] フィールド	ポリシーの名前。この名前は、カタログの定義中に使用されます。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[VM名のテンプレート] フィールド	使用する VM 名テンプレート。  Cisco UCS DirectorではVM名の自動作成が可能です。VM名は、一連の変数名を使用して自動的に作成できます。各変数は <b>\$ {VARIABLE_NAME}</b> のようにかっこで囲む必要があります。例： vm- <b>\$ {GROUP_NAME}</b> -SR <b>\$ {SR_ID}</b>

**ステップ 5** 次に示すオプションの [VM名のテンプレート] 機能から選択します。

名称	説明
[エンドユーザVM名のプレフィクス] チェックボックス	VMプロビジョニングのためのサービスリクエストの作成中にユーザがVM名プレフィクスを追加できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[導入後に電源をオンにします] チェックボックス	このポリシーを使用して導入されたすべてのVMの電源を自動的にオンにするには、このチェックボックスをオンにします。
[ホスト名のテンプレート] フィールド	一連の変数名を使用して自動的に作成できるVMホスト名。各変数は <b>\$ {VARIABLE}</b> のようにかっこで囲む必要があります。

**ステップ 6** [ホスト名のテンプレート] の変数名を選択します。例： **\$ {VMNAME}**

**ステップ 7** 次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[DNSドメイン] フィールド	VMに使用する IP ドメイン。
[Linuxタイムゾーン] ドロップダウン リスト	時間帯を選択します。
[DNSサフィックスリスト] フィールド	DNS ルックアップ用に設定する DNS サフィックス。複数のサフィックスがある場合は、それぞれをカンマで区切ります。



名称	説明
[DNSサーバリスト] フィールド	DNS サーバの IP アドレスのリスト。複数のサーバを区切るには、カンマを使用します。
[VMイメージのタイプ] ドロップダウン リスト	VM にインストールされているイメージの OS を選択します。[WindowsおよびLinux] を選択するか、または[Linuxのみ] を選択します。
Windows	
[製品ID] フィールド	Windows 製品 ID またはライセンス キー。製品 ID またはライセンス キーはここに入力するか、または OS ライセンス プールで入力できます。OS ライセンス プールで入力したキーは、ここで入力するキーよりも優先されます。
[ライセンス所有者名] フィールド	Windows ライセンスの所有者名。
[組織] フィールド	VM で設定する組織名。
[ライセンスモード] ドロップダウン リスト	[シート別] または [サーバ別] を選択します。
[ライセンスユーザ数]	ライセンス ユーザまたは接続の数。
[WINSサーバリスト] フィールド	WINS サーバの IP アドレス。複数の値はカンマで区切ります。
[自動ログイン] チェックボックス	自動ログインを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[自動ログイン回数] フィールド	自動ログインの実行回数。
[管理者パスワード] フィールド	管理者アカウントのパスワード。
[ドメインまたはワークグループ] ドロップダウン リスト	[ドメイン] または [ワークグループ] を選択します。
[ワークグループ] フィールド	ワークグループの名前。  このオプションは、[ワークグループ] が [ドメインまたはワークグループ] ドロップダウン リストの値として選択されている場合に、表示されます。

名称	説明
[ドメイン] フィールド	Windows ドメインの名前。 (注) このオプションは、[ドメイン]が[ドメインまたはワークグループ]ドロップダウン リストの値として選択されている場合に、表示されます。
[ドメインユーザ名] フィールド	Windows ドメイン管理者のユーザ名。 (注) このオプションは、[ドメイン]が[ドメインまたはワークグループ]ドロップダウン リストの値として選択されている場合に、表示されます。
[ドメインパスワード] フィールド	Windows ドメイン管理者のパスワード (注) このオプションは、[ドメイン]が[ドメインまたはワークグループ]ドロップダウン リストの値として選択されている場合に、表示されます。
[Windowsタイムゾーン] ドロップダウン リスト	時間帯を選択します。
[VMアノテーションの定義] チェックボックス	<p>VM のアノテーションを指定するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>アノテーションの一部としてメモおよびカスタム属性を指定できます。このチェックボックスをオンにした場合は、次のフィールドに値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [VMの注記] フィールド VM の説明を入力します。</li> <li>• カスタム属性 [名前]、[タイプ]、および[値]を指定するには、[追加] (+) をクリックします。</li> </ul> <p>(注) VM の注記として追加した情報は、[VM Details (VM の詳細)] ページでその VM に対して表示されます。</p>

**ステップ 8** [追加] をクリックします。

## OS ライセンス

Cisco UCS Director は、ユーザが Windows OS ライセンスを追加するためのオプションを提供しています。これらのライセンスは、カタログの作成時に Windows イメージにマッピングされます。VMware システム ポリシーで Windows イメージに対して Windows OS ライセンスを提供する、またはカタログの作成時に OS バージョン フィールドからキーを選択する、というオプションがあります。

### OS ライセンスの追加

#### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[サービスの提供] の順に選択します。
- ステップ 2** [OSライセンス] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [ライセンスの詳細の追加] ページで、次のフィールドを入力します。

名称	説明
[Windowsのバージョン名] フィールド	Windows バージョン名。
[ライセンス] フィールド	Windows 製品 ID またはライセンス キー。このフィールドは、KMS クライアントセットアップ キーを受け入れます。
[ライセンスの所有者名] フィールド	Windows ライセンスの所有者名。
[Organization (組織)] フィールド	VM で設定する組織名。
[ライセンスモード] ドロップダウン リスト	シート単位またはサーバ単位を選択します。
[ライセンス取得済みのユーザ数] フィールド	ライセンス ユーザまたは接続の数。

- ステップ 5** [送信] をクリックします。

## エンド ユーザ セルフサービス ポリシーについて

エンド ユーザ セルフサービス ポリシーは、ユーザが vDC で実行できるアクションまたはタスクを制御します。このポリシーを作成するには、最初にたとえば VMware などのアカウントタイプ

を指定します。アカウントタイプを指定したら、続いてポリシーを作成します。ポリシーを作成したら、同じアカウントタイプを使用して作成したvDCに、そのポリシーを割り当てる必要があります。たとえばVMware用のエンドユーザポリシーを作成した場合は、VMware vDCを作成する場合にこのポリシーを指定できます。他のアカウントタイプ用に作成したポリシーを表示したり割り当てたりすることはできません。

Cisco UCS Director では、エンドユーザセルフサービスポリシーの作成に加えて、次のタスクを実行できます。

- [表示] — ポリシーの概要を表示します。
- [編集] — [エンドユーザポリシー] ダイアログボックスが開き、説明またはエンドユーザセルフサービス オプションを変更できます。
- [複製] — [エンドユーザポリシー] ダイアログボックスが開き、別のポリシーで指定したオプションを使用して新しくポリシーを作成できます。
- [削除] — システムからポリシーを削除します。ただし、このポリシーにvDCを割り当てる必要はありません。



#### 重要

vDC へのポリシーの割り当ては、ユーザがvDCで実行するタスクを制御できる唯一の方法です。従来のバージョンでは、vDCの作成中にタスクを有効または無効にしていました。最新リリースにアップグレードすると、以前に設定していた権限とオプションがvDCの名前を使用してエンドユーザポリシーとして自動的にグループ化され、vDCに割り当てられます。

## エンドユーザポリシーの作成

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[サービスの提供] の順に選択します。
- ステップ 2** [エンドユーザセルフサービス ポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [エンドユーザポリシーの追加] ダイアログボックスで、ドロップダウン リストからアカウントタイプを選択します。
- ステップ 5** [送信] をクリックします。
- ステップ 6** [エンドユーザポリシー] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポリシー名] フィールド	ポリシーの名前。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。

名前	説明
[エンドユーザセルフサービスオプション] フィールド	このポリシーによって割り当てられている vDC でユーザが実行できるタスクを選択します。  タスクのリストは、[アカウントタイプ]によって異なります。

**ステップ 7** [送信] をクリックします。

---

#### 次の作業

このエンドユーザポリシーを vDC に割り当てます。詳細については、[仮想データセンターの追加](#)、(142 ページ) を参照してください。





## 第 9 章

# 仮想データセンターの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [仮想データセンターの管理について](#), 141 ページ
- [VDC アクション](#), 142 ページ
- [仮想データセンター サービス プロファイル](#), 151 ページ

## 仮想データセンターの管理について

仮想データセンター (VDC) は、仮想リソース、動作の詳細、ルール、およびポリシーを組み合わせて特定のグループの要件を管理する環境です。

1 つのグループまたは組織で複数の VDC、イメージ、テンプレート、およびポリシーを管理できます。組織は個々のグループに VDC レベルでクォータを割り当て、リソース制限を割り当てることができます。

また、VDC に固有の承認者を定義できます。VDC の承認者は、ユーザからの VM プロビジョニングの要求を承認する必要があります。



(注)

Cisco UCS Director にはデフォルトの VDC があり、検出されたすべての VM は、このデフォルト VDC の一部です。検出された VM は Cisco UCS Director の外部で作成された VM か、または Cisco UCS Director がインストールされる前に vCenter ですでに作成されていた VM です。Cisco UCS Director はこのような VM を自動的に検出し、デフォルト VDC に追加します。

サービス要求を使用してプロビジョニングされた VM は VDC に関連付けることができます。サービス要求を作成するとき、この VM をプロビジョニングする VDC を選択できます。VM のプロビジョニング時には、特定のグループで利用可能な VDC のリストを表示し、必要な VDC を選択できます。

# VDC アクション

## 仮想データセンターの追加

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[仮想データセンター] の順に選択します。
- ステップ 2** [VDC] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [VDC の追加] ダイアログ ボックスで、ドロップダウン リストからアカウント タイプを選択します。  
選択したアカウント タイプによって、[VDC の追加] ダイアログ ボックスに表示されるクラウド名のリストが決定されます。
- ステップ 5** [送信] をクリックします。
- ステップ 6** [VDCの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[VDC名] フィールド	VDC の名前。 名前は、入力した後では編集できません。
[ロック済みのvDC] チェックボックス	今後の導入で VDC を使用できないようにするには、このチェックボックスをオンにします。 この VDC 内の既存の VM に対するアクションは無効になります。 今後の導入で VDC を使用できるようにするには、このチェックボックスをオフにします。
[vDCの説明] フィールド	VDC に固有の説明。
[グループ] ドロップダウン リスト	VDC の設定対象グループを選択します。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VDC の設定対象クラウドを選択します。 このドロップダウン リストに表示されるオプションは、指定したアカウントタイプによって決定されます。
承認者と連絡先	



名称	説明
[第1承認者のユーザ名] フィールド	サービスリクエストを承認する必要があるユーザ。
[第2承認担当者のユーザ名] フィールド	サービスリクエストを承認する必要がある2番目のユーザ。
[プロバイダーのサポート用電子メールアドレス] フィールド	連絡先またはユーザの電子メールアドレス。この VDC を使用した VM のプロビジョニングに関する通知を受信するユーザ。
[電子メールアドレスへの通知をコピー] フィールド	この VDC に関する通知をコピーする 2 番目の連絡先の電子メール。
ポリシー	
[システムポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるシステム ポリシーを選択します。
[コンピューティングポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるコンピューティングポリシーを選択します。
[ネットワークポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるネットワーク ポリシーを選択します。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるストレージ ポリシーを選択します。
[コストモデル] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるコストモデルを選択します。
[サービスリクエストサマリーと電子メールページへのコストの表示を無効化] チェックボックス	この VDC の SR サマリーと電子メール ページでのコストの表示を無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[ユーザアクションポリシー] ドロップダウン リスト	VM のプロビジョニング後のオーケストレーション ワークフローを実行するために使用するポリシーを選択します。選択されたワークフローは、VDC 内の VM に対するアクション ボタンとして表示されます。
[ストレージの効率性の有効化] チェックボックス	RCU を使用して VM を複製する場合は、チェックボックスをオンにします。

名称	説明
[非アクティブなVMを削除するまでの期間] ドロップダウン リスト	<p>非アクティブなVMを削除するまでの、非アクティブな状態の経過日数を選択します。非アクティブ状態のVMとは、電源がオンの状態ではないVMです。</p> <p>(注) この選択項目が想定どおりに機能するためには、[管理]&gt;[システム]で[高度なコントロール]タブの下にある[Delete Inactive VM's Based on VDC Policy (VDC ポリシーに基づいて非アクティブなVMを削除する)]チェックボックスがオンになっていることを確認します。詳細については、「高度なコントロールの有効化」を参照してください。</p>
エンド ユーザ セルフサービス ポリシー	<p>vDCのセルフサービスポリシーを選択します。このポリシーによって、VDCで実行できるタスクまたはアクションが定義されます。</p> <p>(注) このドロップダウン リストには、作成するVDCに対応するアカウントタイプに関連するポリシーが表示されます。</p> <p>vDCへのポリシーの割り当ては、ユーザがvDCで実行するタスクを制御できる唯一の方法です。従来のバージョンでは、vDCの作成中にタスクを有効または無効にしていました。最新リリースにアップグレードすると、以前に設定していた権限とオプションがvDCの名前を使用してエンド ユーザポリシーとして自動的にグループ化され、vDCに割り当てられます。</p>

## ステップ 7 [追加] をクリックします。

(注) VMのユーザは、次のタスクを実行できなくなりました。

- VM の移行
- スタック ビューの使用
- VM の割り当て

## 仮想データセンターの表示

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[仮想データセンター] の順に選択します。
- ステップ 2** [すべてのユーザグループ] ペインで、表示する VDC が含まれている VDC グループを選択します。
- ステップ 3** [VDC] タブを選択します。
- ステップ 4** メインの表示ペインで、表示する VDC を選択します。
- ステップ 5** [表示] をクリックして、[VDCの詳細] ページを開きます。

## 仮想データセンターの編集

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[仮想データセンター] の順に選択します。
- ステップ 2** [すべてのユーザグループ] ペインで、編集する必要がある VDC グループを選択します。
- ステップ 3** [VDC] タブを選択します。
- ステップ 4** [編集] をクリックします。
- ステップ 5** [vDC の編集] ダイアログボックスで、次のフィールドを編集します。

名称	説明
[VDC名] フィールド	VDC の名前。 名前は、入力した後では編集できません。
[ロック済みのvDC] チェックボックス	今後の導入で VDC を使用できないようにするには、このチェックボックスをオンにします。 この VDC 内の既存の VM に対するアクションは無効になります。今後の導入で VDC を使用できるようにするには、このチェックボックスをオフにします。
[vDCの説明] フィールド	VDC に固有の説明。

名称	説明
[グループ] ドロップダウン リスト	VDC の設定対象グループを選択します。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VDC の設定対象クラウドを選択します。 このドロップダウン リストに表示されるオプションは、指定したアカウントタイプによって決定されます。
承認者と連絡先	
[第1承認者のユーザ名] フィールド	サービスリクエストを承認する必要があるユーザ。
[第2承認担当者のユーザ名] フィールド	サービスリクエストを承認する必要がある2番目のユーザ。
[プロバイダーのサポート用電子メールアドレス] フィールド	連絡先またはユーザの電子メールアドレス。 この VDC を使用した VM のプロビジョニングに関する通知を受信するユーザ。
[電子メールアドレスへの通知をコピー] フィールド	この VDC に関する通知をコピーする 2 番目の連絡先の電子メール。
ポリシー	
[システムポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるシステム ポリシーを選択します。
[コンピューティングポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるコンピューティングポリシーを選択します。
[ネットワークポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるネットワーク ポリシーを選択します。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるストレージ ポリシーを選択します。
[コストモデル] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるコストモデルを選択します。
[サービスリクエストサマリーと電子メールページへのコストの表示を無効化] チェックボックス	この VDC の SR サマリーと電子メール ページでのコストの表示を無効にするには、このチェックボックスをオンにします。

名称	説明
[ユーザアクションポリシー] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニング後のオーケストレーションワークフローを実行するために使用するポリシーを選択します。選択されたワークフローは、VDC 内の VM に対するアクション ボタンとして表示されます。
[ストレージの効率性の有効化] チェックボックス	RCU を使用して VM を複製する場合は、チェックボックスをオンにします。
[非アクティブなVMを削除するまでの期間] ドロップダウン リスト	<p>非アクティブな VM を削除するまでの、非アクティブな状態の経過日数を選択します。非アクティブ状態の VM とは、電源がオンの状態ではない VM です。</p> <p>(注) この選択項目が想定どおりに機能するためには、[管理]&gt;[システム] で [高度なコントロール] タブの下にある [Delete Inactive VM's Based on VDC Policy (VDC ポリシーに基づいて非アクティブな VM を削除する)] チェックボックスがオンになっていることを確認します。詳細については、「高度なコントロールの有効化」を参照してください。</p>
エンド ユーザ セルフサービス ポリシー	<p>vDC のセルフサービス ポリシーを選択します。このポリシーによって、VDC で実行できるタスクまたはアクションが定義されます。</p> <p>(注) このドロップダウン リストには、作成する VDC に対応するアカウントタイプに関連するポリシーが表示されません。</p> <p>vDC へのポリシーの割り当ては、ユーザが vDC で実行するタスクを制御できる唯一の方法です。従来のバージョンでは、vDC の作成中にタスクを有効または無効にしていました。最新リリースにアップグレードすると、以前に設定していた権限とオプションが vDC の名前を使用してエンド ユーザ ポリシーとして自動的にグループ化され、vDC に割り当てられます。</p>

**ステップ 6** [保存] をクリックします。

## 仮想データセンターの削除

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[仮想データセンター] の順に選択します。
- ステップ 2** [すべてのユーザグループ] ペインで、削除する必要がある VDC グループを選択します。
- ステップ 3** [VDC] タブを選択します。
- ステップ 4** メインの表示ペインで、削除する VDC を選択します。
- ステップ 5** [削除] をクリックします。

## 仮想データセンターの複製

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[仮想データセンター] の順に選択します。
- ステップ 2** [すべてのユーザグループ] ペインで、複製する必要がある VDC グループを選択します。
- ステップ 3** [VDC] タブを選択します。
- ステップ 4** メインの表示ペインで、複製する VDC を選択します。
- ステップ 5** [複製] をクリックします。
- ステップ 6** [VDCの複製] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[VDC名] フィールド	VDC の名前。 名前は、入力した後では編集できません。
[ロック済みのvDC] チェックボックス	今後の導入で VDC を使用できないようにするには、このチェックボックスをオンにします。この VDC 内の既存の VM に対するアクションは無効になります。今後の導入で VDC を使用できるようにするには、このチェックボックスをオフにします。

名称	説明
[vDCの説明] フィールド	VDC に固有の説明。
[グループ] ドロップダウン リスト	VDC の設定対象グループを選択します。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VDC の設定対象クラウドを選択します。 このドロップダウン リストに表示されるオプションは、指定したアカウントタイプによって決定されます。
承認者と連絡先	
[第1承認者のユーザ名] フィールド	サービスリクエストを承認する必要があるユーザ。
[第2承認担当者のユーザ名] フィールド	サービスリクエストを承認する必要がある2番目のユーザ。
[プロバイダーのサポート用電子メールアドレス] フィールド	連絡先またはユーザの電子メールアドレス。 この VDC を使用した VM のプロビジョニングに関する通知を受信するユーザ。
[電子メールアドレスへの通知をコピー] フィールド	この VDC に関する通知をコピーする 2 番目の連絡先の電子メール。
ポリシー	
[システムポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるシステム ポリシーを選択します。
[コンピューティングポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるコンピューティングポリシーを選択します。
[ネットワークポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるネットワーク ポリシーを選択します。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるストレージ ポリシーを選択します。
[コストモデル] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるコストモデルを選択します。
[サービスリクエストサマリーと電子メールページへのコストの表示を無効化] チェックボックス	この VDC の SR サマリーと電子メール ページでのコストの表示を無効にするには、このチェックボックスをオンにします。

名称	説明
[ユーザアクションポリシー] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニング後のオーケストレーションワークフローを実行するために使用するポリシーを選択します。選択されたワークフローは、VDC 内の VM に対するアクション ボタンとして表示されます。
[ストレージの効率性の有効化] チェックボックス	RCUを使用してVMを複製する場合は、チェックボックスをオンにします。
[非アクティブなVMを削除するまでの期間] ドロップダウン リスト	<p>非アクティブなVMを削除するまでの、非アクティブな状態の経過日数を選択します。非アクティブ状態のVMとは、電源がオンの状態ではないVMです。</p> <p>(注) この選択項目が想定どおりに機能するためには、[管理]&gt;[システム]で[高度なコントロール]タブの下にある[Delete Inactive VM's Based on VDC Policy (VDC ポリシーに基づいて非アクティブな VM を削除する)]チェックボックスがオンになっていることを確認します。詳細については、「高度なコントロールの有効化」を参照してください。</p>
エンド ユーザ セルフサービス ポリシー	<p>vDCのセルフサービスポリシーを選択します。このポリシーによって、VDCで実行できるタスクまたはアクションが定義されます。</p> <p>(注) このドロップダウン リストには、作成するVDCに対応するアカウントタイプに関連するポリシーが表示されません。</p> <p>vDCへのポリシーの割り当ては、ユーザがvDCで実行するタスクを制御できる唯一の方法です。従来のバージョンでは、vDCの作成中にタスクを有効または無効にしていました。最新リリースにアップグレードすると、以前に設定していた権限とオプションがvDCの名前を使用してエンドユーザポリシーとして自動的にグループ化され、vDCに割り当てられます。</p>



**ステップ 7** [保存] をクリックします。

## 仮想データセンターのアプリケーション カテゴリの管理

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[仮想データセンター] の順に選択します。
- ステップ 2** [すべてのユーザグループ] ペインで、VDC が含まれている VDC グループを選択します。
- ステップ 3** [VDC] タブを選択します。
- ステップ 4** メインの表示ペインで、編集する VDC を選択します。
- ステップ 5** [カテゴリの管理] をクリックします。
- ステップ 6** [アプリケーションカテゴリの編集] ダイアログボックスで、システム ポリシー、コンピューティング ポリシー、ネットワーク ポリシー、またはストレージ ポリシーをオプションで変更するために該当するフィールドをすべて編集します。コストモデルとスマート割り当てポリシーも変更できます。
- ステップ 7** [保存] をクリックします。

## 仮想データセンター サービス プロファイル

この機能は VDC の追加に似ていますが、[VDCサービスプロファイル] で作成される VDC はオーケストレーション ワークフローの中で使用されます。この機能を使用すると、ワークフロー タスク中の VDC 作成時に使用可能な、ゴールド、シルバー、およびブロンズ VDC を作成できます。

## 仮想データセンター サービス プロファイルの追加

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[仮想データセンター] の順に選択します。
- ステップ 2** [vDCサービスプロファイル] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [vDCサービスプロファイルの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[vDCプロファイル名] フィールド	VDC プロファイルの名前。 名前は、入力した後では編集できません。
[ロック済みのvDC] チェックボックス	今後の導入で VDC を使用できないようにするには、このチェックボックスをオンにします。この VDC 内の既存の VM に対するアクションは無効になります。今後の導入で VDC を使用できるようにするには、このチェックボックスをオフにします。
[vDCの説明] フィールド	VDC に固有の説明。
[グループ] ドロップダウン リスト	VDC の設定対象グループを選択します。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VDC の設定対象クラウドを選択します。
承認者と連絡先	
[第1承認者のユーザ名] フィールド	サービスリクエストを承認する必要があるユーザ。
[第2承認担当者のユーザ名] フィールド	サービスリクエストを承認する必要がある2番目のユーザ。
[プロバイダーのサポート用電子メールアドレス] フィールド	連絡先またはユーザの電子メールアドレス。 この VDC を使用した VM のプロビジョニングに関する通知を受信するユーザ。
[電子メールアドレスへの通知をコピー] フィールド	この VDC に関する通知をコピーする 2 番目の連絡先の電子メール。
ポリシー	
[システムポリシー] ドロップダウン リスト	VDC サービス プロファイルに適用できるシステム ポリシーを選択します。
[コンピューティングポリシー] ドロップダウン リスト	VDC サービス プロファイルに適用できるコンピューティング ポリシーを選択します。
[ネットワークポリシー] ドロップダウン リスト	VDC サービス プロファイルに適用できるネットワーク ポリシーを選択します。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	VDC サービス プロファイルに適用できるストレージ ポリシーを選択します。

名称	説明
[コストモデル] ドロップダウン リスト	VDC サービス プロファイルに適用できるコスト モデルを選択します。
[サービスリクエストサマリーと電子メールページへのコストの表示を無効化] チェックボックス	この VDC のサービス リクエスト サマリーと電子メールページでのコストの表示を無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[ユーザアクションポリシー] ドロップダウン リスト	VM のプロビジョニング後のオーケストレーション ワークフローを実行するために使用するポリシーを選択します。選択されたワークフローは、VDC 内の VM に対するアクション ボタンとして表示されます。
エンド ユーザ セルフサービス オプション	
[VMの電力管理] チェックボックス	この VDC に属している VM に対してすべての VM 電源管理アクションを実行できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[VM Resize (VM のサイズ変更) ] チェックボックス	この VDC に属している VM に対して VM サイズ変更アクションを実行できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[VMスナップショット管理] チェックボックス	この VDC の VM に対してすべてのストレージ スナップショットアクションを実行できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[VMの削除] チェックボックス	この VDC の VM に対して VM 削除アクションを実行できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[VMディスク管理] チェックボックス	この VDC の VM に対して VM ディスク管理を実行できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[VMネットワーク管理] チェックボックス	この VDC に属している VM に対してネットワーク管理を実行できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

名称	説明
[非アクティブなVMを削除するまでの期間] ドロップダウン リスト	非アクティブなVMを削除するまでの、非アクティブな状態の経過日数を選択します。非アクティブ状態のVMとは、電源がオンの状態ではないVMです。

**ステップ 5** [追加] をクリックします。

---



## 第 10 章

# カタログの管理

---

この章は、次の内容で構成されています。

- [カタログ管理について, 155 ページ](#)
- [カタログの公開, 156 ページ](#)
- [高度なカタログ パブリッシングについて, 162 ページ](#)
- [詳細カタログの公開, 162 ページ](#)
- [カタログの表示, 164 ページ](#)
- [カタログの編集, 164 ページ](#)
- [フォルダ内のカタログの並べ替え, 170 ページ](#)
- [カタログの複製, 170 ページ](#)
- [カタログの削除, 171 ページ](#)
- [展開するホストへのアクセス, 171 ページ](#)
- [カタログ フォルダの並べ替え, 171 ページ](#)

## カタログ管理について

事前定義されたカタログ項目を使用して仮想マシン（VM）のセルフプロビジョニングができます。カタログは、システム管理者またはエンドユーザが作成します。カタログ項目により、クラウド名やグループ名などの VM にバインドされるパラメータが定義されます。

カタログ管理を容易にするために、Cisco UCS Director ではフォルダ内の類似するカタログをグループ化することができます。カタログを作成する場合には、以前作成した特定のフォルダを選択できます。または、カタログ用に新しいフォルダを作成することもできます。フォルダは、カタログが含まれている場合のみ表示されます。

[カタログ] ページの [フォルダの管理] オプションでは、次のタスクを実行できます。

- フォルダの編集 — フォルダの名前を変更します。デフォルトで作成されているフォルダを編集することはできません。
- フォルダの削除 — Cisco UCS Director からフォルダを削除します。このフォルダにカタログが含まれている場合、それらのカタログは、カタログのタイプに基づいて、デフォルトで利用可能なフォルダに自動的に移動されます。  
デフォルトで利用可能なフォルダを削除することはできません。
- フォルダのリストの並べ替え — [カタログ] ページにフォルダがリストされる順序を変更します。デフォルトでは、フォルダはアルファベット順にリストされています。

次のフォルダはデフォルトで用意されており、編集または削除することはできません。

- 標準
- 詳細
- サービスコンテナ
- VDI



#### 重要

Cisco UCS Director を最新バージョンにアップグレードした場合は、以前のバージョンで作成されたすべてのカタログは、カタログのタイプに基づいて、デフォルトで利用可能なフォルダにグループ化されます。

## カタログの公開

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー] > [カタログ] の順に選択します。
- ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4 [カタログの追加] ダイアログ ボックスで、追加するカタログのタイプを選択します。
- ステップ 5 [送信] をクリックします。
- ステップ 6 [カタログの作成] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[基本情報] ペイン	
[カタログ名] フィールド	カatalog の名前。 (注) カatalog を作成した後では、名前は変更できません。

名称	説明
[カタログの説明] フィールド	カタログの説明。
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	<p>カタログのタイプ。この属性の種類は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 標準 — クラウドのリストからイメージを使用してVMプロビジョニング用にカタログを作成するために使用されます。</li> <li>• 詳細 — カatalog項目などのオーケストレーション ワークフローのパブリッシングに使用されます。</li> <li>• サービス コンテナ — カatalog項目としてのアプリケーション コンテナのパブリッシングに使用されます。</li> <li>• VDI — カatalog項目としての XenDesktop のパブリッシングに使用されます。</li> </ul>
[カタログアイコン] ドロップダウン リスト	このカタログに関連付けるイメージのアイコンをリストから選択します。このアイコンは、このカタログを使用してサービスリクエストを作成するときに表示されます。
[すべてのグループに適用] チェックボックス	すべてのグループがこのカタログを使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。他のグループが使用できないようにするには、このチェックボックスをオフにします。
[選択したグループ] チェックボックス リスト	[選択した項目] ダイアログボックスに含まれているグループのチェックボックスをオンにします。オンにしたグループは、新しいVMをプロビジョニングするときにこのカタログを使用します。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VM プロビジョニング用のイメージがあるクラウドを選択します。
[イメージ] ドロップダウン リスト	このカタログを使用してVMをプロビジョニングするときに使用するイメージのタイプ（イメージを構成する Windows ファイル、Linux ファイル、およびその他のファイルなどの既存のテンプレート）を選択します。

名称	説明
[Windowsライセンスプール] フィールド	<p>Windows ライセンスを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、Windows イメージが選択されて場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。</p>
[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] チェックボックス	<p>単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングするには、このチェックボックスをオンにします。ストレージポリシーで各ディスクに対して設定されているデータストアを使用することも選択できます。</p> <p>複数ディスク ストレージ ポリシーの作成の詳細については、8-1 ページの「ポリシーの管理」を参照してください。</p> <p>(注) このオプションは、選択されたテンプレートに複数のディスクがある場合に表示されます。</p> <p>(注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。</p>
[サービスコンテナテンプレート名] ドロップダウン リスト	<p>リストからテンプレートを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、カタログ タイプがサービス コンテナである場合に表示されます。</p>
[XenDesktop Catalog (XenDesktop カタログ) ] ドロップダウン リスト	<p>Desktop Studio で設定された XenDesktop 専用カタログのリストからテンプレートを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、カタログ タイプが[VDI]である場合に表示されます。</p>
[フォルダの選択] ドロップダウン リスト	<p>このカタログを作成するフォルダを選択します。</p> <p>(注) ドロップダウン リストには、デフォルトで利用可能なフォルダの名前が表示されています。利用可能なフォルダを選択するか、+ アイコンをクリックして新しいフォルダを作成します。</p>



**ステップ 7** [次へ] をクリックします。

**ステップ 8** [アプリケーションの詳細] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[カテゴリ] ドロップダウン リスト	VDC カテゴリを選択します。
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス] フィールド	このカタログ項目を使用してサービスリクエストが作成されたときに通知が送信される問い合わせ先の電子メールアドレス。
[OSの指定] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニング時に、VMにインストールされる OS のタイプを選択します。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[他のOSの指定] フィールド	[OSの指定] リストにない OS。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[アプリケーションの指定] チェックボックス リスト	[項目の選択] ダイアログボックスのアプリケーションのチェックボックスをオンにします。これらのアプリケーションはプロビジョニング中に VM にインストールされます。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[他のアプリケーションの指定] フィールド	[項目の選択] ダイアログボックスにないアプリケーション。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[アプリケーションコード] フィールド	VM名に使用するアプリケーションコード。アプリケーションコードは1～4文字です（例：W2K3、DB、WS）。VM名のシステムポリシーでアプリケーションコードを使用するには、変数 \${APPCODE} を使用します。 たとえば VM 名のテンプレートが vm-\${GROUP_NAME}-\${APPCODE} の場合、システムポリシーを使用してプロビジョニングされた VM の名前は vm-groupname-W2K3 になります。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

**ステップ 9** [次へ] をクリックします。

**ステップ 10** [ユーザクレデンシャル] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

(注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

名称	説明
[クレデンシャルオプション] ドロップダウン リスト	ユーザに対し、VM アクセス クレデンシャル (共有) の取得を許可するか、または禁止するかを選択します。
[ユーザID] フィールド	ユーザ ID。  (注) このオプションは、[クレデンシャル オプション] の下でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。  (注) このオプションは、[クレデンシャル オプション] の下でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。

**ステップ 11** [次へ] をクリックします。

**ステップ 12** [カスタマイズ] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[プロビジョニング後のカスタムアクション] チェックボックス	VM のプロビジョニング後に実行されるオーケストレーション ワークフローを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[ワークフロー] ドロップダウン リスト	プロビジョニング用に定義されたワークフローを選択します。  (注) このオプションは、[プロビジョニング後のカスタムアクション] がオンの場合に表示されます。
[VMアプリケーションの請求間隔] ドロップダウン リスト	[毎時間] または [毎月] を選択します。
[アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	テンプレートに含まれているアプリケーションのコスト。  (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

名称	説明
[非アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	時間あたりまたは月あたりに、非アクティブな VM のカタログにかかるコスト。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

**ステップ 13** [次へ] をクリックします。

**ステップ 14** [VMアクセス] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[Webアクセス設定] チェックボックス	VM への Web アクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。VM への Web アクセスを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。
[URL] フィールド	VM の URL。 (注) このオプションは、[Webアクセス設定] がオンの場合にのみ表示されます。
[ラベル] フィールド	この URL に定義されたラベル (注) このオプションは、[Webアクセス設定] がオンの場合にのみ表示されます。
[リモートデスクトップのアクセス設定] チェックボックス	VM へのリモートアクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。VM へのリモートアクセスを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。
[Server] フィールド	サーバーのリモート アクセス用 IP アドレス。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合にのみ表示されます。
[ポート] フィールド	サーバーのリモート アクセス用ポート番号。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合にのみ表示されます。
[ラベル] フィールド	このリモート アクセス用に定義されたラベル (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合にのみ表示されます。

- ステップ 15 [次へ] をクリックします。
- ステップ 16 [サマリー] ページのカタログ情報を確認します。
- ステップ 17 [送信] をクリックします。

## 高度なカタログパブリッシングについて

高度なカタログタイプを選択すると、エンドユーザにワークフロー カatalogをプロビジョニングできます。エンドユーザは、ワークフローを実行するサービス要求中にこれらのカタログを使用できます。高度なカタログ項目は、グループ名、ワークフローなどのパラメータを定義することにより作成します。

## 詳細カタログの公開

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー]>[カタログ] の順に選択します。
- ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加] をクリックします。
- ステップ 4 [カタログの追加] ダイアログ ボックスで、[カタログタイプ] ドロップダウン リストから [詳細] を選択します。
- ステップ 5 [送信] をクリックします。
- ステップ 6 [カタログの作成] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[基本情報] ペイン	
[カタログ名] フィールド	カタログの名前。
[カタログの説明] フィールド	カタログの説明。
カタログ タイプ	[詳細] を選択します。
[カタログアイコン] ドロップダウン リスト	このカタログに関連付けるイメージのアイコンを選択します。アイコンは、このカタログを使用してサービスリクエストを作成するときに表示されます。

名称	説明
[すべてのグループに適用] チェックボックス	すべてのグループがこのカタログを使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。他のグループが使用できないようにするには、このチェックボックスをオフにします。
選択したグループ	<p>[選択] をクリックし、以下の操作を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 (任意) [すべてオン] をクリックしてすべてのカテゴリを選択するか、または [すべてオフ] をクリックしてすべてのカテゴリを選択解除します。</li> <li>2 [項目の選択] ダイアログボックスで、追加するグループをオンにします。オンにしたグループは、新しい VM をプロビジョニングするときにこのカタログを使用できます。</li> <li>3 [選択] をクリックして、カテゴリの選択を終了します。</li> </ol>
[フォルダの選択] ドロップダウン リスト	<p>このカタログを作成するフォルダを選択します。</p> <p>(注) ドロップダウン リストには、すでに利用可能なフォルダの名前が表示されています。利用可能なフォルダを選択するか、+ アイコンをクリックして新しいフォルダを作成します。</p>

**ステップ 7** [次へ] をクリックします。

**ステップ 8** [vApp Workflow (vApp ワークフロー) ] ペインで、[Workflow Select (ワークフローの選択) ] をクリックします。

**ステップ 9** [選択] ダイアログボックスで、使用するワークフローの横のチェックボックスをオンにします。

**ステップ 10** [選択] をクリックします。

**ステップ 11** [サマリー] ページのカタログ情報を確認します。

**ステップ 12** [送信] をクリックします。

## カタログの表示

### 手順

- 
- ステップ 1**    メニュー バーで、[ポリシー]>[カタログ] の順に選択します。
- ステップ 2**    [カタログ] タブを選択します。
- ステップ 3**    表示するカタログの名前を選択します。
- ステップ 4**    [送信] をクリックします。
- 

## カタログの編集

### 手順

- 
- ステップ 1**    メニュー バーで、[ポリシー]>[カタログ] の順に選択します。
- ステップ 2**    [カタログ] タブを選択します。
- ステップ 3**    編集するカタログ名を選択します。
- ステップ 4**    [編集] をクリックします。
- ステップ 5**    [カタログの修正] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[基本情報] ペイン	
[カタログ名] フィールド	カatalog の名前。 (注)    カatalog を作成した後では、名前は変更できません。
[カタログの説明] フィールド	カatalog の説明。

名称	説明
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	<p>カタログのタイプ。この属性の種類は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 標準 — クラウドのリストからイメージを使用して VM プロビジョニング用にカタログを作成するために使用されます。</li> <li>• 詳細 — カatalog項目などのオーケストレーション ワークフローのパブリッシングに使用されます。</li> <li>• サービス コンテナ — カatalog項目としてのアプリケーション コンテナのパブリッシングに使用されます。</li> <li>• VDI — カatalog項目としての XenDesktop のパブリッシングに使用されます。</li> </ul>
[カタログアイコン] ドロップダウン リスト	<p>このカタログに関連付けるイメージのアイコンをリストから選択します。このアイコンは、このカタログを使用してサービス リクエストを作成するときに表示されます。</p>
[すべてのグループに適用] チェックボックス	<p>すべてのグループがこのカタログを使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。他のグループが使用できないようにするには、このチェックボックスをオフにします。</p>
[選択したグループ] チェックボックス リスト	<p>[選択した項目] ダイアログボックスに含まれているグループのチェックボックスをオンにします。オンにしたグループは、新しい VM をプロビジョニングするときにこのカタログを使用します。</p>
[クラウド名] ドロップダウン リスト	<p>VM プロビジョニング用のイメージがあるクラウドを選択します。</p>
[イメージ] ドロップダウン リスト	<p>このカタログを使用して VM をプロビジョニングするときに使用するイメージのタイプ（イメージを構成する Windows ファイル、Linux ファイル、およびその他のファイルなどの既存のテンプレート）を選択します。</p>

名称	説明
[Windowsライセンスプール] フィールド	<p>Windows ライセンスを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、Windows イメージが選択されて場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。</p>
[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] チェックボックス	<p>単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングするには、このチェックボックスをオンにします。ストレージポリシーで各ディスクに対して設定されているデータストアを使用することも選択できます。</p> <p>複数ディスク ストレージ ポリシーの作成の詳細については、8-1 ページの「ポリシーの管理」を参照してください。</p> <p>(注) このオプションは、選択されたテンプレートに複数のディスクがある場合に表示されます。</p> <p>(注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。</p>
[サービスコンテナテンプレート名] ドロップダウン リスト	<p>リストからテンプレートを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、カタログ タイプがサービス コンテナである場合に表示されます。</p>
[XenDesktop Catalog (XenDesktop カタログ) ] ドロップダウン リスト	<p>Desktop Studio で設定された XenDesktop 専用カタログのリストからテンプレートを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、カタログ タイプが[VDI]である場合に表示されます。</p>
[フォルダの選択] ドロップダウン リスト	<p>このカタログを作成するフォルダを選択します。</p> <p>(注) ドロップダウン リストには、デフォルトで利用可能なフォルダの名前が表示されています。利用可能なフォルダを選択するか、+ アイコンをクリックして新しいフォルダを作成します。</p>



**ステップ 6** [次へ] をクリックします。

**ステップ 7** [Applications Details (アプリケーションの詳細)] ペインで、次のフィールドを編集します。

名称	説明
[カテゴリ] ドロップダウン リスト	VDC カテゴリを選択します。
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス] フィールド	このカタログ項目を使用してサービスリクエストが作成されたときに通知が送信される問い合わせ先の電子メールアドレス。
[OSの指定] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニング時に、VMにインストールされる OS のタイプを選択します。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[他のOSの指定] フィールド	[OSの指定] リストにない OS。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[アプリケーションの指定] チェックボックス リスト	[項目の選択] ダイアログボックスのアプリケーションのチェックボックスをオンにします。これらのアプリケーションはプロビジョニング中に VM にインストールされます。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[他のアプリケーションの指定] フィールド	[項目の選択] ダイアログボックスにないアプリケーション。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[アプリケーションコード] フィールド	VM名に使用するアプリケーションコード。アプリケーションコードは1～4文字です (例: W2K3、DB、WS)。VM名のシステムポリシーでアプリケーションコードを使用するには、変数 \${APPCODE} を使用します。 たとえば VM 名のテンプレートが vm-\${GROUP_NAME}-\${APPCODE} の場合、システムポリシーを使用してプロビジョニングされた VM の名前は vm-groupname-W2K3 になります。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

**ステップ 8** [次へ] をクリックします。

**ステップ 9** [ユーザクレデンシャル] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[クレデンシャルオプション] ドロップダウン リスト	ユーザに対し、VM アクセス クレデンシャル（共有）の取得を許可するか、または禁止するかを選択します。
[ユーザID] フィールド	ユーザ ID。  (注) このオプションは、[クレデンシャルオプション]の下でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。  (注) このオプションは、[クレデンシャルオプション]の下でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。

**ステップ 10** [次へ] をクリックします。

**ステップ 11** [カスタマイズ] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[プロビジョニング後のカスタムアクション] チェックボックス	VM のプロビジョニング後に実行されるオーケストレーション ワークフローを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[ワークフロー] ドロップダウン リスト	プロビジョニング用に定義されたワークフローを選択します。  (注) このオプションは、[プロビジョニング後のカスタムアクション]がオンの場合に表示されます。
[VMアプリケーションの請求間隔] ドロップダウン リスト	[毎時間] または [毎月] を選択します。
[アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	テンプレートに含まれているアプリケーションのコスト。  (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

名称	説明
[非アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	時間あたりまたは月あたりに、非アクティブな VM のカタログにかかるコスト。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

**ステップ 12** [次へ] をクリックします。

**ステップ 13** [VMアクセス] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[Webアクセス設定] チェックボックス	VM への Web アクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。 VM への Web アクセスを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。
[URL] フィールド	VM の URL。 (注) このオプションは、[Webアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[ラベル] フィールド	この URL に定義されたラベル (注) このオプションは、[Webアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[リモートデスクトップのアクセス設定] チェックボックス	VM へのリモートアクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。 VM へのリモートアクセスを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。
[Server] フィールド	サーバのリモート アクセス用 IP アドレス。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[ポート] フィールド	サーバのリモート アクセス用ポート番号。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[ラベル] フィールド	このリモート アクセス用に定義されたラベル (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合に表示されます。

- ステップ 14 [次へ] をクリックします。
- ステップ 15 [サマリー] ページでカタログ情報を確認します。
- ステップ 16 [送信] をクリックします。
- 

## フォルダ内のカタログの並べ替え

デフォルトでは、フォルダ内のカタログはアルファベット順にリストされています。このカタログの順序は並べ替えることができます。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー]>[カタログ] の順に選択します。
- ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。
- ステップ 3 フォルダを展開すると、フォルダ内のカタログが表示されます。
- ステップ 4 リストからカタログを選択します。
- ステップ 5 [上へ移動] または [下へ移動] オプションを選択して、カタログの順序を並べ替えます。
- 

## カタログの複製

複製機能を使用してカタログ項目を複製できます。複製するカタログ項目を選択すると、[名前] と [説明] を除く既存のすべてのプロパティが新しいカタログにコピーされます。[名前] と [説明] を定義した後で、他のプロパティを変更できます。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー]>[カタログ] の順に選択します。
- ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。
- ステップ 3 複製するカタログの名前を選択します。
- ステップ 4 [複製] をクリックします。
- ステップ 5 [カタログの複製] ダイアログボックスに、カタログの名前と説明を入力します。
- ステップ 6 カatalogの詳細を必要に応じて編集します。
- ステップ 7 [送信] をクリックします。
-

## カタログの削除

フォルダ内のすべてのカタログを削除すると、それらのカタログが保存されていたフォルダも削除されます。ただし、デフォルトで使用可能なフォルダは削除されることはありません。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー]>[カタログ] の順に選択します。
- ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。
- ステップ 3 削除するカタログ名を選択します。
- ステップ 4 [削除] をクリックします。

## 展開するホストへのアクセス

カタログ項目を選択して、展開可能なホストを評価し、除外されたホストの理由を入力できます。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー]>[カタログ] の順に選択します。
- ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。
- ステップ 3 評価する [Catalog Entry (カタログ項目)] を選択します。
- ステップ 4 [導入可能性に関するアセスメント] をクリックします。

## カタログ フォルダの並べ替え

デフォルトでは、カタログフォルダはアルファベット順にリストされています。これらのフォルダの順序は並べ替えることができます。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー]>[カタログ] の順に選択します。
- ステップ 2 [フォルダの管理] をクリックします。
- ステップ 3 [フォルダの管理] ダイアログ ボックスで、矢印を使用してフォルダの順序を並べ替えます。
- ステップ 4 [送信] をクリックします。





## 第 11 章

# セルフサービス プロビジョニングの使用方 法

この章は、次の内容で構成されています。

- [セルフ サービス プロビジョニングについて, 173 ページ](#)
- [サービス リクエストについて, 173 ページ](#)
- [サービス リクエスト ワークフローと詳細, 179 ページ](#)
- [サービス リクエストのスケジュール設定について, 182 ページ](#)
- [サービス リクエストの再送信について, 183 ページ](#)
- [その他のサービス リクエスト機能, 184 ページ](#)
- [サービス リクエストの承認プロセス, 186 ページ](#)
- [サービス リクエストの予算作成, 189 ページ](#)

## セルフ サービス プロビジョニングについて

セルフサービス プロビジョニングを使用して仮想マシン (VM) をプロビジョニングできます。ただし、VM をプロビジョニングする前に、サービス要求の作成が必要です。この操作は、サービス要求の状態に関する予算の確認、動的なリソース割り当て、承認、プロビジョニング、ライフサイクルセットアップおよび通知を含む VM の作成ワークフローを開始します。

## サービス リクエストについて

セルフサービス プロビジョニング機能を使用してサービス リクエストを作成し、仮想マシン (VM)、サービス、またはアプリケーションをプロビジョニングできます。サービス リクエストプロセスではVM作成用のプロビジョニングワークフローを作成しますが、これには次のアクションが含まれます。

- 予算の検証
- 動的なリソース割り当て
- 承認
- プロビジョニング
- ライフサイクルの設定および通知



(注) [展開構成] ペインで CPU コアまたはメモリ割り当ての数を変更すると、合計コストが自動的に更新されて表示されます。

VM をプロビジョニングするまたはオーケストレーション ワークフローを実行するには、最初にサービス リクエストを作成する必要があります。管理者または該当のユーザがサービス リクエストを承認すると、VM がプロビジョニングされます。VM はただちに承認することも、オリジナルのリクエストから 90 日以内に承認するようにスケジュールすることもできます。



(注) サービス リクエスト承認プロセスはオプションです。

管理者はオーケストレーションワークフローをカタログとしてセルフサービスポータルに提供できます。サービス リクエストの承認プロセスは 1 人または 2 人のユーザによる承認が必要です。このようなシナリオでは、VM をプロビジョニングするには管理者および IT 管理者がリクエストを承認する必要があります。

## [標準] カタログ タイプを使用したサービス リクエストの作成

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[組織] > [サービスリクエスト] の順に選択します。
- ステップ 2** [サービスリクエスト] タブを選択します。
- ステップ 3** [リクエストの作成] をクリックします。
- ステップ 4** [サービスの作成] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[Catalog Selection Request (カタログの選択リクエスト)] ペイン	
[グループの選択] ドロップダウン リスト	新しい VM のプロビジョニングの対象となるグループを選択します。



名称	説明
[ユーザに割り当て] チェックボックス	<p>特定のユーザにVMを割り当てる場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このオプションは、選択したユーザグループに適用されるグループ共有ポリシーについて、エンドユーザに対するリソースの割り当てが有効である場合のみ表示されます。グループ共有ポリシーの作成の詳細については、<a href="#">グループ共有ポリシーの作成</a>、(121 ページ) を参照してください。</p>
[ユーザ] ドロップダウン リスト	<p>このVMを割り当てる必要があるユーザを選択します。</p> <p>(注) 現在、特定のエンドユーザに割り当てることができるのは、VMWare クラウド内の VM だけです。</p>
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	<p>カタログのタイプを選択します。この属性の種類は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 標準</li> <li>• 詳細</li> <li>• サービスコンテナ</li> <li>• VDI</li> </ul> <p>(注) [詳細]は、オーケストレーションワークフローのために使用されます。</p>
[カタログの選択] ドロップダウン リスト	VM のプロビジョニングに使用されるカタログを選択します。

**ステップ 5** [次へ] をクリックします。

**ステップ 6** [導入設定] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[VDCの選択] ドロップダウン リスト	VM がプロビジョニングされる VDC。 VDC は管理者によって定義されます。
[VM名またはVMプレフィクス] フィールド	VM 名またはプレフィクス。
[コメント] フィールド。	導入の設定に関するコメント。

名称	説明
[プロビジョニング] ドロップダウン リスト	<p>[今すぐ] または [あとで] のいずれかを選択します。</p> <p>[今すぐ] を選択すると、VM はただちにまたは 90 日以内にプロビジョニングされます。[あとで] を選択すると、日付選択用のカレンダー、時間と分のドロップダウンリスト、および AM または PM のオプション ボタンが表示されます。</p>
[日数] カレンダー	<p>この日数が経過すると VM が終了します。</p> <p>(注) このオプションは、[次の期間後にVMの電源をオフにする]チェックボックスがオンの場合に表示されます。</p>
[時間] ドロップダウン リスト	<p>選択した時間が経過すると VM が終了します。</p> <p>(注) このオプションは、[次の期間後にVMの電源をオフにする]チェックボックスがオンの場合に表示されます。</p>
[分] ドロップダウン リスト	<p>選択した時間（分単位）が経過すると VM が終了します。</p> <p>(注) このオプションは、[次の期間後にVMの電源をオフにする]チェックボックスがオンの場合に表示されます。</p>

**ステップ 7** [次へ] をクリックします。

**ステップ 8** [カスタム仕様] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[CPUコア] ドロップダウン リスト	<p>プロビジョニングされる VM の CPU コアを選択します。</p> <p>(注) このリストは、[コンピューティングポリシー] ダイアログボックスボックスでサイズ変更オプションを選択した場合に開きます。</p>

名称	説明
[メモリ] ドロップダウン リスト	<p>プロビジョニングされる VM のメモリ 量を選択します。</p> <p>(注) このリストは、[コンピューティング ポリシー] ダイアログボックスでサイズ変更オプションを選択した場合に開きます。</p>
[ストレージ階層] ドロップダウン リスト	<p>プロビジョニングされる VM のストレージ エントリをカスタマイズするオプションを選択します。</p> <p>(注) このカスタム リストは、選択されたカタログの作成時に仮想ストレージ カタログが有効であった場合に開きます。</p> <p>仮想ストレージ カタログの作成については、8-1 ページの「ポリシーの管理」の項を参照してください。カタログの作成時にこのオプションを有効化する方法については、10-1 ページの「カタログの管理」の項を参照してください。</p>
[ディスク] ドロップダウン リスト	<p>VM のプロビジョニングに望ましいハードディスクのサイズを選択します。使用可能なデータストアのリストは、ストレージポリシーで指定されたスコープ条件によって異なります。ストレージポリシーでこのオプションを有効または無効にできます。</p>

- ステップ 9** ディスクのデータストアを選択するには、ディスクをリストから選択し、[Pencil (鉛筆)] アイコンをクリックします。
- ステップ 10** [選択] をクリックして、使用可能なデータストアを表示します。
- ステップ 11** リストからデータストアを選択し、[選択] をクリックします。
- ステップ 12** [送信] をクリックします。
- ステップ 13** (任意) 複数のディスクを含むテンプレートの場合は、各ディスクのデータストアを選択します。
- ステップ 14** [カスタム仕様] ペインで、[選択] をクリックして利用可能な VM ネットワークを参照します。

- (注) このオプションは、この VM プロビジョニングのサービス リクエストに対して選択された VDC に関連するネットワーク ポリシーで、[エンドユーザにオプションの NIC の選択を許可] チェックボックスまたは [エンドユーザによるポートグループ選択を許可] チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。詳細については、8-8 ページの「ネットワーク ポリシーの追加」の項を参照してください。

**ステップ 15** VM ネットワークをリストから選択し、[選択] をクリックします。

**ステップ 16** [次へ] をクリックします。

**ステップ 17** [カスタムワークフロー] ペインの詳細を入力します。

- (注) カスタム ワークフローの入力は、VM のプロビジョニング用に選択されたカタログの [プロビジョニング後のカスタムアクション] が有効な場合に適用されます。上記の場合、ユーザはプロビジョニング後のワークフローでカスタム入力を指定できます。

**ステップ 18** [次へ] をクリックします。

- (注) 使用可能なデータストアのリストは、ストレージ ポリシーで指定されたスコープ条件によって異なります。各ディスク カテゴリ（システム、データ、データベース、スワップ、ログ）に対してデータストアを 1 つだけ選択できます。

**ステップ 19** サービス リクエストの概要を確認します。

**ステップ 20** [送信] をクリックします。

## カタログタイプを使用したサービス リクエストの作成 - 詳細

サービス リクエストの作成時に詳細カタログタイプを選択すると、オーケストレーション ワークフローを実行できます。詳細カタログを作成する場合の詳細は、標準カタログを作成する場合とほぼ同じです。

### 手順

**ステップ 1** メニュー バーで、[組織] > [サービスリクエスト] の順に選択します。

**ステップ 2** [サービスリクエスト] タブを選択します。

**ステップ 3** [リクエストの作成] をクリックします。

**ステップ 4** [サービスリクエストの作成] ダイアログボックスの [カタログの選択] セクションで、[グループ]、[カタログタイプ] ([詳細])、および [カタログ] ([ワークフロー]) を選択します。

**ステップ 5** [次へ] をクリックします。

**ステップ 6** [サービスリクエストの作成] ダイアログボックスの [カスタムワークフロー] セクションで、カスタムワークフローの入力値を入力します。

**ステップ 7** [次へ] をクリックします。

**ステップ 8** サービス リクエストの概要を確認します。

**ステップ 9** [送信] をクリックします。

ワークフロー作成時のユーザ入力に応じ、これらの入力がサービス リクエストで反映されます。

## サービス リクエスト ワークフローと詳細

サービス リクエストを作成した後で、ステータスとワークフローの確認、リクエストのキャンセル、リクエストの再送信などを行うことができます。これらの操作は、サービス リクエスト リストの上部のツールバー ボタンを使って制御できます。

### サービス リクエスト ワークフロー

[Workflow Status (ワークフロー ステータス)] ボックスにはサービス リクエストおよびワークフロー ステップの詳細が表示されます。サービス リクエストの一般的なワークフローには次のステップが含まれます。

- 1 開始：ユーザによるサービス リクエストの開始。
- 2 リソース割り当て：VM に必要なリソースの割り当て。
- 3 承認：VM がプロビジョニングされる前のユーザ承認プロセス。カタログの作成時に定義された承認者に電子メールが送信されます。このカタログは VM のプロビジョニング時に使用されるカタログです。
- 4 プロビジョニング：VM のプロビジョニング プロセス。
- 5 ライフサイクルスケジュールのセットアップ：セットアップ、スケジュール、および終了の時間が設定されるライフサイクルのスケジューリング。
- 6 通知：VM のプロビジョニングに関して電子メールでユーザに通知するプロセス。

オプションのサービス リクエスト ワークフロー ステップには、次に示す予算の監視とリソース制限のチェックが含まれます。

- 1 予算の監視：管理者はグループに対して予算化を有効にする必要があります。このステップは、新しいVMをプロビジョニングするための十分な予算がそのグループにあるかどうかを判別します。
- 2 リソース制限の検査：管理者はグループに対するリソース制限を有効にする必要があります。これは、新しいVMをプロビジョニングするための十分なリソースがそのグループで使用可能かどうかを判別します。

### サービス リクエスト詳細

サービス リクエストの詳細には、サービス リクエストの概要、所有権、カタログ情報、および現在のステータスの項目が含まれます。

項目	説明
<b>概要</b>	
要求 ID	サービス リクエスト ID 番号。
要求タイプ	リクエストのタイプ（この場合は VM の作成）。
VDC	VM がプロビジョニングされる VDC。
画像	VM がプロビジョニングされるイメージ
リクエスト日時	サービス リクエストの作成時点。
リクエストのステータス	サービス リクエストのステータス（[完了]、[Cancelled（キャンセル）]、[Failed（失敗）] など）。
コメント	任意のコメント。
<b>所有権</b>	
グループ	サービス リクエストを開始したユーザが属するグループ。
送信ユーザ	サービス リクエストを開始したユーザ。
期間（時間）	VM がアクティブな期間。定義した場合、VM は指定された期間の経過後に削除されます。
予定時刻	VM がプロビジョニングされる時刻。定義した場合と、VM はスケジュール設定された日付の午前 6 時に プロビジョニングされます。定義しない場合は、サービス リクエストのワークフローステップが完了するとただちに VM がプロビジョニングされます。
<b>カタログ情報</b>	
VDC 所有者の電子メール	VDC の作成時に管理者が指定した電子メール ID。
Approving Users（承認ユーザ）	VM プロビジョニングのサービス リクエストを承認する必要があるユーザ（定義されている場合）。

項目	説明
カタログ名	VM プロビジョニングの起点となるカタログ項目の名前。
カタログの説明	カタログ項目の説明。
Service Request Cost (サービス リクエスト コスト)	VMプロビジョニングのコスト (見積)。このコストはカタログ項目に対して定義されているコスト モデルに基づいています。

各ワークフロー ステップのステータスを確認できます。警告メッセージやエラー メッセージ、リクエストの時刻などの詳細も表示されます。ワークフロー ステップは、それぞれのステータスを示すため色分けされています。

カラー コード	説明
グレー	ステップは未完了です。
グリーン	ステップは正常に完了しました。
赤	ステップは失敗しました。失敗の理由も示されます。
青	ステップを完了するために追加の入力が必要です。たとえば、サービス リクエストに対して承認者が定義されている場合、リクエストが承認されるまではこのステップは完了しません。



(注) 承認者は各自に割り当てられているサービス リクエストを [承認] タブで確認できます。

## サービス リクエストのワークフロー ステータスの表示

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[組織] > [サービスリクエスト] の順に選択します。
- ステップ 2** 左側のパネルから、ユーザ グループを選択します。  
デフォルトは [すべてのユーザグループ] で、すべてのサービス リクエストが表示されます。

- ステップ 3 [サービスリクエスト] タブを選択します。
  - ステップ 4 サービス リクエストを選択します。
  - ステップ 5 [詳細の表示] をクリックして、サービス リクエストの詳細とステータスを確認します。デフォルトでは、[Workflow Status (ワークフロー ステータス)] タブがダイアログボックスに表示されます。
- 

## サービス リクエストのログ詳細の表示

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[組織]>[サービスリクエスト] の順に選択します。
  - ステップ 2 左側のパネルから、ユーザ グループを選択します。  
デフォルトは[すべてのユーザグループ]で、すべてのサービス リクエストが表示されます。
  - ステップ 3 [サービスリクエスト] タブを選択します。
  - ステップ 4 サービス リクエストを選択します。
  - ステップ 5 [詳細の表示] をクリックし、[ログ] タブを選択します。
- 

## サービス リクエストのスケジュール設定について

遅延プロビジョニングを使用して、VMプロビジョニングのスケジュールを後日に設定できます。デフォルトプロビジョニングは、スケジュールされた日付の午前 8 時 30 分に行われます。日付が設定されると、ワークフローでの VM プロビジョニング ステータスは、後日にスケジュールされているプロビジョニングとして表示されます。



## サービス リクエストのスケジュール設定

### 手順

- 
- |        |   |
|--------|---|
| ステップ 1 | メニュー バーで、[組織]>[サービスリクエスト] の順に選択します。   |
| ステップ 2 | [サービスリクエスト] タブを選択します。   |
| ステップ 3 | [リクエストの作成] をクリックします。  |
| ステップ 4 | グループ、カタログ タイプ、カタログを選択します（詳細については、11-1 ページの「カタログタイプを使用したサービス リクエストの作成 - 標準」を参照してください）。 |
| ステップ 5 | [次へ] をクリックします。  |
| ステップ 6 | [プロビジョニング] フィールドで [あとで] オプションを選択し、[サービスリクエスト] ダイアログ ボックスでプロビジョニングの日付を選択します。           |
| ステップ 7 | [サマリー] ウィンドウが表示されるまで [次へ] をクリックします。   |
| ステップ 8 | [送信] をクリックします。  |
- 

## サービス リクエストの再送信について

失敗したサービス リクエストを再送信できます。サービス リクエストは、次に示す理由で失敗することがあります。

- VM がプロビジョニングされるグループの予算制限（管理者により定義）を超過した。
- VM がプロビジョニングされるグループのリソース制限（管理者により定義）を超過した。
- サービスリクエストの作成時に関連情報が入力されないと、プロビジョニングが失敗する可能性があります。

サービスリクエストが再送信されると、以前の送信で失敗したワークフローステップから処理が再開されます。たとえば、サービス リクエストがリソース割り当てワークフロー（ステップ 2）で失敗した場合、このサービス リクエストが再送信されると、失敗したそのステップから処理が開始されます。

## サービス リクエストの再送信

### 手順

- 
- |        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| ステップ 1 | メニュー バーで、[組織]>[サービスリクエスト] の順に選択します。 |
| ステップ 2 | 左側のパネルから、ユーザ グループを選択します。            |

デフォルトは[すべてのユーザグループ]で、すべてのサービス リクエストが表示されます。

- ステップ 3 [サービスリクエスト] タブを選択します。
  - ステップ 4 再送信するサービス リクエストを選択します。
  - ステップ 5 [リクエストの再送信] をクリックします。
- 

## その他のサービス リクエスト機能

### サービス リクエストのキャンセル

#### 手順

---

- ステップ 1 メニュー バーで、[組織]>[サービスリクエスト] の順に選択します。
  - ステップ 2 左側のパネルから、ユーザ グループを選択します。  
デフォルトは[すべてのユーザグループ]で、すべてのサービス リクエストが表示されます。
  - ステップ 3 [サービスリクエスト] タブを選択します。
  - ステップ 4 キャンセルするサービス リクエストのエントリを選択します。
  - ステップ 5 [リクエストのキャンセル] をクリックします。
  - ステップ 6 [送信] をクリックして、サービス リクエストをキャンセルします。
- 

### サービス リクエストのロールバック

サービス リクエストがオーケストレーション ワークフローまたはフェンスド コンテナの導入を使用して作成されている場合は、サービス リクエストをロールバックできます。

#### 手順

---

- ステップ 1 メニュー バーで、[組織]>[サービスリクエスト] の順に選択します。
- ステップ 2 左側のパネルから、ユーザ グループを選択します。  
デフォルトは[すべてのユーザグループ]で、すべてのサービス リクエストが表示されます。
- ステップ 3 [サービスリクエスト] タブを選択します。
- ステップ 4 アーカイブするサービス リクエストを選択します。
- ステップ 5 [アーカイブ] をクリックします。
- ステップ 6 [リクエストのアーカイブ] ダイアログ ボックスで、[アーカイブ] をクリックします。

アーカイブされたすべてのリクエストを表示するには、[アーカイブ済みのサービスリクエスト] タブを選択します。

## 特定グループのサービス リクエストの表示

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[組織]>[サービスリクエスト] の順に選択します。
- ステップ 2 左側のパネルから、ユーザ グループを選択します。  
デフォルトは [すべてのユーザグループ] で、すべてのサービス リクエストが表示されます。
- ステップ 3 [サービスリクエスト] タブを選択します。

## グループのサービス リクエスト履歴の検索

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[組織]>[サービスリクエスト] の順に選択します。
- ステップ 2 [サービスリクエスト] タブを選択します。
- ステップ 3 ツールバーで、[検索と置換] をクリックします。
- ステップ 4 [検索と置換] ダイアログボックスの検索フィールドに、検索条件を入力します。
- ステップ 5 [送信] をクリックします。

## グループのサービス リクエスト履歴のエクスポート

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[組織]>[サービスリクエスト] の順に選択します。
  - ステップ 2 左側のパネルからグループ名を選択します。
  - ステップ 3 [サービスリクエスト] タブを選択します。
  - ステップ 4 ツールバーの右側で、[レポートのエクスポート] アイコンをクリックします。
  - ステップ 5 [レポートのエクスポート] ダイアログボックスで、レポート形式を選択します。  
レポートの形式は、PDF、CSV、XLS です。
  - ステップ 6 [レポートの生成] をクリックします。
- 

## アーカイブ済みのサービス リクエストの回復

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[組織]>[サービスリクエスト] の順に選択します。
  - ステップ 2 [アーカイブ済みのサービスリクエスト] タブを選択します。
  - ステップ 3 回復するサービス リクエストを選択します。
  - ステップ 4 [アーカイブ解除] をクリックします。
- 

## サービス リクエストの承認プロセス

VM をプロビジョニングする前に、サービス リクエストは VDC 内で定義された指定承認者により承認される必要があります。1つのグループに対して2人の承認者を定義できます。

- 作成後、サービス リクエスト ワークフローには承認者の名前を示す VM 承認を必要とするステップが含まれます。
- 承認者へサービス リクエスト通知電子メールが送信されます。承認者は [承認] タブの下ですべてのリクエストを確認できます。
- 承認後、次のステップとして VM のプロビジョニングが開始されます。



(注) 承認者の定義の詳細については、9-1 ページの「仮想データセンターの管理」の項を参照してください。

## サービス リクエストの承認

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[組織] > [サービスリクエスト] の順に選択します。
- ステップ 2 [承認記録] タブを選択します。
- ステップ 3 承認するサービス リクエストのエントリを選択します。
- ステップ 4 詳細を確認するため、[詳細の表示] をクリックします。
- ステップ 5 [承認] をクリックします。
- ステップ 6 必要に応じて、[サービスリクエスト] ダイアログボックスでコメントを追加します。
- ステップ 7 [承認] をクリックします。

## サービス リクエストの拒否

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[組織] > [サービスリクエスト] の順に選択します。
- ステップ 2 [承認記録] タブを選択します。
- ステップ 3 拒否するサービス リクエスト エントリを選択します。
- ステップ 4 [詳細の表示] をクリックして、詳細を確認します。
- ステップ 5 [却下] をクリックします。
- ステップ 6 必要に応じて、[サービスリクエスト] ダイアログボックスでコメントを追加します。
- ステップ 7 [却下] をクリックします。

## サービス リクエスト承認の履歴の表示

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[組織] > [承認記録] の順に選択します。
  - ステップ 2 [承認記録] タブを選択します。  
すでに完了している承認と、保留中の承認がリストされます。
- 

## サービス リクエストの承認履歴の検索

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[組織] > [承認記録] の順に選択します。
  - ステップ 2 [承認記録] タブを選択します。  
すでに承認されているか、承認を保留中のすべての承認が表示されます。
  - ステップ 3 [検索] フィールドに、検索語を入力します。  
検索条件に一致するサービス リクエストが表示されます。
- 

## サービス リクエスト承認の履歴のエクスポート

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[組織] > [承認記録] の順に選択します。
  - ステップ 2 [承認記録] タブを選択します。
  - ステップ 3 リストからグループ名を選択します。
  - ステップ 4 ツールバーの右側で、[レポートのエクスポート] アイコンをクリックします。
  - ステップ 5 [レポートのエクスポート] ダイアログボックスで、レポート形式を選択します。  
レポートの形式は、PDF、CSV、XLS です。
  - ステップ 6 [レポートの生成] をクリックします。
-

# サービス リクエストの予算作成

## 今月の利用可能な予算の表示

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[組織]>[サービスリクエスト] の順に選択します。
- ステップ 2 左側のパネルから、[すべてのユーザグループ] または特定のユーザ グループを選択します。
- ステップ 3 [今月の利用可能な予算] タブを選択します。

## 予算エントリの表示

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[組織]>[サービスリクエスト] の順に選択します。
- ステップ 2 左側のパネルから、ユーザ グループを選択します。
- ステップ 3 [予算エントリ] タブを選択します。

## 予算エントリの追加

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[組織]>[サマリー] の順に選択します。
- ステップ 2 左側のパネルから、ユーザ グループを選択します。
- ステップ 3 [予算エントリ] タブを選択します。
- ステップ 4 [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 5 [予算エントリの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[エントリ名] フィールド	予算エントリの名前。
[予算額] フィールド	1 カ月あたりの予算額。

名称	説明
[年] ドロップダウン リスト	年を選択します。
[月] ドロップダウン リスト	月を選択します。
[リピートエントリ] ドロップダウン リスト	同じ予算額を繰り返す月の数を選択します。

**ステップ 6** [追加] をクリックします。

## 予算エントリの編集

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[組織]>[サマリー] の順に選択します。
- ステップ 2** 左側のパネルから、ユーザ グループを選択します。
- ステップ 3** [予算エントリ] タブを選択します。
- ステップ 4** メイン ページで、予算エントリを選択します。
- ステップ 5** [編集] をクリックします。
- ステップ 6** [Edit Budget Entry (予算エントリの編集)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[エントリ名] フィールド	予算エントリの名前。
[予算額] フィールド	1 カ月あたりの予算額。
[年] ドロップダウン リスト	年を選択します。
[月] ドロップダウン リスト	月を選択します。
[リピートエントリ] ドロップダウン リスト	同じ予算額を繰り返す月の数を選択します。

**ステップ 7** [保存] をクリックします。



## 予算エントリの削除

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[組織]>[サマリー] の順に選択します。
  - ステップ 2 左側のパネルから、ユーザ グループを選択します。
  - ステップ 3 [予算エントリ] タブを選択します。
  - ステップ 4 メイン ウィンドウで、予算エントリを選択します。
  - ステップ 5 [削除] (X) をクリックします。
  - ステップ 6 [エントリの削除] ダイアログボックスで、削除を確認します。
-





## 第 12 章

# 複数ディスクの VM プロビジョニング

この章は、次の内容で構成されています。

- [複数ディスクの VM プロビジョニングについて, 193 ページ](#)
- [複数ディスクの VM プロビジョニングのワークフロー, 194 ページ](#)
- [複数ディスクを含むテンプレートについて, 194 ページ](#)
- [ディスク カテゴリの割り当て, 194 ページ](#)
- [ストレージ ポリシーの定義, 195 ページ](#)
- [カタログの作成, 198 ページ](#)
- [VM ディスクの作成, 204 ページ](#)

## 複数ディスクの VM プロビジョニングについて

Cisco UCS Director では、テンプレートからの複数ディスクの仮想マシン (VM) プロビジョニングがサポートされています。1 つまたは複数のデータストアで VM ディスク プロビジョニングを設定できます。また、テンプレートでの追加ディスクごとに個別のディスク ポリシーを設定できます。

Cisco UCS Director では、ディスクは次のカテゴリに分類されています。

- システム
- データ
- データベース
- スワップ
- ログ



(注) Cisco UCS Director で定義されているディスクのカテゴリは、ディスクのラベリング専用です。

## 複数ディスクの VM プロビジョニングのワークフロー

### 手順

- ステップ 1 複数のディスクを使用している 1 つのテンプレートの可用性を検証します。
- ステップ 2 ディスクのカテゴリを割り当てます。
- ステップ 3 ストレージ ポリシーを定義します。
- ステップ 4 テンプレート カタログを作成します。

## 複数ディスクを含むテンプレートについて

複数ディスクの仮想マシン (VM) をプロビジョニングするには、複数のディスクを含むテンプレート (イメージ) が使用可能である必要があります。VM のプロビジョニングに複数のディスクを含むテンプレートを使用する前に、個々のディスクに対するディスク カテゴリを割り当てる必要があります。

## ディスク カテゴリの割り当て

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2 VMware クラウドを選択し、[イメージ] タブを選択します。
- ステップ 3 複数ディスクを含むテンプレートを選択します。
- ステップ 4 ツールバーで、[詳細の表示] ボタンをクリックします。
- ステップ 5 [ディスク] タブをクリックします。
- ステップ 6 ディスクを選択します。
- ステップ 7 [ディスクタイプの割り当て] をクリックします。
- ステップ 8 ディスク タイプを選択します。  
この属性の種類は次のとおりです。

- システム

- データ
- データベース
- [スワップ]
- ログ

**ステップ 9** [送信] をクリックします。

## ストレージポリシーの定義

ストレージポリシーは、データストアスコープなどのリソース、使用するストレージのタイプ、容量の最小条件、遅延などを定義します。ストレージポリシーには、複数のディスクに対して追加のディスクポリシーを設定できるようにするオプションや、サービスリクエストの作成中にエンドユーザがデータストアを選択できるようにするオプションなどもあります。

Cisco UCS Director は、複数データストア上の複数ディスクでの VM のプロビジョニングをサポートしています。システム、データ、データベース、スワップ、およびログの 5 つのタイプがあります。システム ディスク ポリシーは最初に設定され、他のディスクは必要に応じて後で設定されます。各ディスクタイプに対して個別にディスクポリシーを設定することも、各ディスクに対してデフォルトのシステム ディスク ポリシーを選択することもできます。

追加のディスクのポリシーを使用する場合は、複数ディスク テンプレートに対してカタログを作成する際に、[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] オプションを必ずオフにしてください。カタログ作成の詳細については、[カタログの追加](#)、(198 ページ) を参照してください。

また、Cisco UCS Director は、エンドユーザに対してデータストアの選択を有効または無効にするオプションを提供することにより、VM プロビジョニングに対するサービス リクエストの作成中のデータストアの選択をサポートしています。選択の対象としてリストされるデータストアは、サービス リクエストの作成時に選択された VDC に関連付けられているストレージポリシーで指定されているスコープ条件によって決定されます。

## ストレージポリシーの作成

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザポリシー]>[ストレージ]の順に選択します。
- ステップ 2** [VMwareストレージポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [ストレージリソース割り当てポリシーの追加] の [システムディスクポリシー] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ポリシー名] フィールド	ポリシーの名前。この名前は、カタログの定義時に使用されます。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	リソース割り当てが発生するクラウドを選択します。
システム ディスク スコープ	
[データストアのスコープ] ドロップダウン リスト	導入のスコープを選択します。すべてを使用するか、選択内容を含めるか、選択内容を除外するかを指定します。
[共有データストアのみの使用] チェックボックス	共有データストアのみを使用するには、このチェックボックスをオンにします。
ストレージ オプション	
[ローカルストレージの使用] チェックボックス	ローカル ストレージを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 デフォルトでは、このフィールドはオンです。
[NFSの使用] チェックボックス	NFS ストレージを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 デフォルトでは、このフィールドはオンです。
[SANの使用] チェックボックス	SAN ストレージを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 デフォルトでは、このフィールドはオンです。
[条件の最小値] チェックボックス リスト	満たす必要がある 1 つ以上の条件チェックボックスをオンにします。これらの条件を満たしていないホストまたはデータストアは、考慮の対象から除外されます。複数の条件を選択した場合、選択したすべての条件を満たす必要があります。
[テンプレートのオーバーライド] チェックボックス	テンプレートのプロパティをオーバーライドするには、このチェックボックスをオンにします。シンプロビジョニングの使用やカスタム ディスク サイズなど、カスタム設定を入力するオプションが提供されます。

名称	説明
[シンプロビジョニングの使用] チェックボックス	<p>VM ストレージのプロビジョニングの際にシンプロビジョニングを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>シンプロビジョニングは、物理ストレージ容量の動的割り当てをイネーブルにし、VM ストレージの使用率が向上します。</p> <p>(注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド] がオンのときに表示されます。</p>
カスタム ディスク サイズ	<p>カスタムディスクサイズは、VM のプロビジョニングに使用されるテンプレートのディスクサイズをオーバーライドします。</p> <p>(注) このオプションは、[テンプレートのオーバーライド] がオンのときに表示されます。</p>
VM ライフサイクルのサイズ変更オプション	
[ディスクのサイズ変更を許可]	このチェックボックスをオンにすると、プロビジョニングする前に、VM ディスクサイズを選択できます。
[ディスクの許容値(GB単位)] フィールド	<p>VM のプロビジョニングのためのディスクサイズ値。</p> <p>(注) このオプションは、[Allow resize of disk (ディスクのサイズ変更を許可する)] がオンのときに表示されます。</p>
[スコープからのデータストアの選択をユーザに許可します] チェックボックス	このチェックボックスをオンにすると、ユーザはサービスリクエストの作成中にデータストアを選択できます。

**ステップ 5** [次へ] をクリックします。

**ステップ 6** [追加のディスクポリシー] ペインで、設定するディスク タイプを選択します。  
デフォルトでは、ディスクのディスク ポリシーは、[システムディスクポリシー] です。

- ステップ 7 [Pencil（鉛筆）] アイコンをクリックすると、[ディスクポリシーエントリの編集] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 8 ディスクのポリシーを設定するには、[システムディスクポリシーと同じ] チェックボックスをオフにします。
- ステップ 9 [エントリの編集] ダイアログボックスで、ディスク タイプの [Disk Scope（ディスク スコープ）] と [ストレージオプション] を選択します。
- ステップ 10 [送信] をクリックします。
- ステップ 11 必要に応じて、他のディスク タイプの設定を続行します。
- ステップ 12 [送信] をクリックします。  
 （注） その他のディスク ポリシーで作成されたストレージ ポリシーを使用するには、VM のプロビジョニングに使用される VDC とポリシーを関連付けます。

# カタログの作成

## カタログの追加

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー]>[カタログ] の順に選択します。
- ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4 [カタログの追加] ダイアログ ボックスで、追加するカタログのタイプを選択します。
- ステップ 5 [送信] をクリックします。
- ステップ 6 [カタログの作成] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[基本情報] ペイン	
[カタログ名] フィールド	カタログの名前。 （注） カatalogを作成した後では、名前は変更できません。
[カタログの説明] フィールド	カタログの説明。



名称	説明
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	<p>カタログのタイプ。この属性の種類は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 標準 — クラウドのリストからイメージを使用して VM プロビジョニング用にカタログを作成するために使用されます。</li> <li>• 詳細 — カatalog項目などのオーケストレーション ワークフローのパブリッシングに使用されます。</li> <li>• サービス コンテナ — カatalog項目としてのアプリケーション コンテナのパブリッシングに使用されます。</li> <li>• VDI — カatalog項目としての XenDesktop のパブリッシングに使用されます。</li> </ul>
[カタログアイコン] ドロップダウン リスト	このカタログに関連付けるイメージのアイコンをリストから選択します。このアイコンは、このカタログを使用してサービスリクエストを作成するときに表示されます。
[すべてのグループに適用] チェックボックス	すべてのグループがこのカタログを使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。他のグループが使用できないようにするには、このチェックボックスをオフにします。
[選択したグループ] チェックボックス リスト	[選択した項目] ダイアログボックスに含まれているグループのチェックボックスをオンにします。オンにしたグループは、新しい VM をプロビジョニングするときにこのカタログを使用します。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VM プロビジョニング用のイメージがあるクラウドを選択します。
[イメージ] ドロップダウン リスト	このカタログを使用して VM をプロビジョニングするときに使用するイメージのタイプ（イメージを構成する Windows ファイル、Linux ファイル、およびその他のファイルなどの既存のテンプレート）を選択します。

名称	説明
[Windows ライセンスプール] フィールド	<p>Windows ライセンスを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、Windows イメージが選択されて場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。</p>
[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] チェックボックス	<p>単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングするには、このチェックボックスをオンにします。ストレージポリシーで各ディスクに対して設定されているデータストアを使用することも選択できます。</p> <p>複数ディスク ストレージ ポリシーの作成の詳細については、8-1 ページの「ポリシーの管理」を参照してください。</p> <p>(注) このオプションは、選択されたテンプレートに複数のディスクがある場合に表示されます。</p> <p>(注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。</p>
[サービスコンテナテンプレート名] ドロップダウン リスト	<p>リストからテンプレートを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、カタログ タイプがサービス コンテナである場合に表示されます。</p>
[XenDesktop Catalog (XenDesktop カタログ) ] ドロップダウン リスト	<p>Desktop Studio で設定された XenDesktop 専用カタログのリストからテンプレートを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、カタログ タイプが [VDI] である場合に表示されます。</p>
[フォルダの選択] ドロップダウン リスト	<p>このカタログを作成するフォルダを選択します。</p> <p>(注) ドロップダウン リストには、デフォルトで利用可能なフォルダの名前が表示されています。利用可能なフォルダを選択するか、+ アイコンをクリックして新しいフォルダを作成します。</p>

**ステップ 7** [次へ] をクリックします。

**ステップ 8** [アプリケーションの詳細] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[カテゴリ] ドロップダウン リスト	VDC カテゴリを選択します。
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス] フィールド	このカタログ項目を使用してサービスリクエストが作成されたときに通知が送信される問い合わせ先の電子メールアドレス。
[OSの指定] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニング時に、VMにインストールされる OS のタイプを選択します。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[他のOSの指定] フィールド	[OSの指定] リストにない OS。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[アプリケーションの指定] チェックボックス リスト	[項目の選択] ダイアログボックスのアプリケーションのチェックボックスをオンにします。これらのアプリケーションはプロビジョニング中に VM にインストールされます。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[他のアプリケーションの指定] フィールド	[項目の選択] ダイアログボックスにないアプリケーション。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[アプリケーションコード] フィールド	VM名に使用するアプリケーションコード。アプリケーションコードは1～4文字です（例：W2K3、DB、WS）。VM名のシステムポリシーでアプリケーションコードを使用するには、変数 \${APPCODE} を使用します。 たとえば VM 名のテンプレートが <code>vm-\${GROUP_NAME}-\${APPCODE}</code> の場合、システムポリシーを使用してプロビジョニングされた VM の名前は <code>vm-groupname-W2K3</code> になります。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

**ステップ 9** [次へ] をクリックします。

**ステップ 10** [ユーザクレデンシャル] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

(注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

名称	説明
[クレデンシャルオプション] ドロップダウン リスト	ユーザに対し、VM アクセス クレデンシャル (共有) の取得を許可するか、または禁止するかを選択します。
[ユーザID] フィールド	ユーザ ID。  (注) このオプションは、[クレデンシャル オプション] の下でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。  (注) このオプションは、[クレデンシャル オプション] の下でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。

**ステップ 11** [次へ] をクリックします。

**ステップ 12** [カスタマイズ] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[プロビジョニング後のカスタムアクション] チェックボックス	VM のプロビジョニング後に実行されるオーケストレーション ワークフローを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[ワークフロー] ドロップダウン リスト	プロビジョニング用に定義されたワークフローを選択します。  (注) このオプションは、[プロビジョニング後のカスタムアクション] がオンの場合に表示されます。
[VMアプリケーションの請求間隔] ドロップダウン リスト	[毎時間] または [毎月] を選択します。
[アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	テンプレートに含まれているアプリケーションのコスト。  (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

名称	説明
[非アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	時間あたりまたは月あたりに、非アクティブな VM のカタログにかかるコスト。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。

**ステップ 13** [次へ] をクリックします。

**ステップ 14** [VMアクセス] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[Webアクセス設定] チェックボックス	VM への Web アクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。VM への Web アクセスを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。
[URL] フィールド	VM の URL。 (注) このオプションは、[Webアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[ラベル] フィールド	この URL に定義されたラベル (注) このオプションは、[Webアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[リモートデスクトップのアクセス設定] チェックボックス	VM へのリモートアクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。VM へのリモートアクセスを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。
[Server] フィールド	サーバのリモート アクセス用 IP アドレス。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[ポート] フィールド	サーバのリモート アクセス用ポート番号。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合に表示されます。
[ラベル] フィールド	このリモート アクセス用に定義されたラベル (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] がオンの場合に表示されます。

- ステップ 15 [次へ] をクリックします。
- ステップ 16 [サマリー] ページのカタログ情報を確認します。
- ステップ 17 [送信] をクリックします。

## VM ディスクの作成

[VM] アクション ボタンから使用可能な [VMディスクの作成] オプションを使用して、プロビジョニングまたは検出された VM にカスタム サイズのディスクを追加できます。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2 左側のペインで、クラウドの名前を選択します。
- ステップ 3 [VM] タブを選択します。
- ステップ 4 リストから VM を選択します。
- ステップ 5 ツールバーの右側にある下矢印をクリックすると、VM オプションのドロップダウン リストが表示されます。
- ステップ 6 [VMディスクの作成] を選択します。
- ステップ 7 [VMディスクの作成] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[VM名] フィールド	VM の名前。 VM の名前は編集できません。
[新しいディスクサイズ(GB)] フィールド	VM のディスク サイズ (GB 単位) 。
[Select a disk type (ディスクの種類の選択) ] ドロップダウン リスト	ディスク ラベルを選択します。 この属性の種類は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>システム</li> <li>データ</li> <li>データベース</li> <li>スワップ</li> <li>ログ</li> </ul>

名称	説明
[データストアの選択] ドロップダウン リスト	データストアを選択します。データストアの選択は VM の VDC に関連付けられたストレージポリシーによって異なります。
[Thinプロビジョニング] チェックボックス	<p>VMにシンプロビジョニングされたディスクを追加する場合に、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) シンプロビジョニングは、物理ストレージ容量の動的割り当てをイネーブルにし、VMストレージの使用率が向上します。</p>

**ステップ 8** [作成] をクリックします。

---







## 第 13 章

# チャージバック モジュールの使用方法

この章は、次の内容で構成されています。

- [チャージバック機能について, 207 ページ](#)
- [予算ポリシー, 208 ページ](#)
- [コスト モデル, 209 ページ](#)
- [VDC を編集してコスト モデルを含める, 212 ページ](#)
- [パッケージ ベースのコスト モデル, 215 ページ](#)
- [ストレージ階層コスト モデル, 217 ページ](#)
- [階層へのデータストアの割り当てについて, 218 ページ](#)
- [チャージバック レポート, 219 ページ](#)
- [変更レコードについて, 223 ページ](#)
- [チャージバックの計算, 223 ページ](#)

## チャージバック機能について

Cisco UCS Director のチャージバック モジュールによって、仮想インフラストラクチャのコストを詳細に把握することができます。また、コストモデルを定義して、部署内や組織内のポリシーに割り当てることができます。リソースのコストを正確に計算するため、仮想マシン（VM）の測定データを頻繁に収集します。

以下に、チャージバック モジュールの機能を示します。

- 柔軟性：組織の要件に基づいて、固定費、ワンタイム コスト、割り当てコスト、使用コスト、およびこれらすべての組み合わせを提供します。
- 再利用可能なコストモデル：標準化されたコストモデルまたはテンプレートを使用して VM にコストモデルを割り当てます。これらのテンプレートは、新しい環境にコスト モデルを迅速に適用するために使用します。

- レポート作成：仮想インフラストラクチャのコストとリソースの使用状況のさまざまな概要レポートと比較レポートを生成します。これらのレポートは、PDF、CSV、XLS の各形式にエクスポートすることができ、Web ブラウザで表示できます。
- 上位 5 件のレポート：VM のコスト、CPU、メモリ、ストレージ、およびネットワークのコストが高い上位 5 位までの組織またはグループのレポートをモニタします。
- ダッシュボード：組み込みダッシュボードと広範な視覚的ウィジェットのセットを使用して、リアルタイムで VM 測定情報とチャージバックをモニタし、分析します。

## 予算ポリシー

リソース全体のアカウントリングはチャージバックモジュールによって処理されます。チャージバックに加えて、個別のグループまたは組織を予算ポリシーに関連付ける必要があります。予算ポリシーでは、予算の監視と予算超過を有効または無効にできます。

## 予算ポリシーの設定

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2** [ユーザグループ] タブを選択します。
- ステップ 3** グループを選択し、[予算ポリシー] をクリックします。
- ステップ 4** [予算ポリシー] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[予算の監視の有効化] チェックボックス	オンにすると、グループの予算使用状況が監視されます。オフにすると、このグループのすべての予算エントリは無視されます。
[予算超過を許容] チェックボックス	オンにすると、グループメンバーに対しプロビジョニングされた予算の超過が許可されます。オフにすると、予算をすべて消化した場合に、新たな予算が追加されるまではリクエストがすべて却下されます。

- ステップ 5** [保存] をクリックします。

## コスト モデル

コスト モデルを使用して、仮想リソースの CPU、RAM、ストレージなどのユニット レベルのコストを定義します。これらのコストは、仮想インフラストラクチャ内の VM のチャージバック計算に使用されます。コスト モデルは、線形モデルでコストの定義を提供し、コストはユニット レベルで定義できます。

VM の特定のリソースのコストは、その VM に割り当てられているユニット数に基づいて計算されます。たとえば、1 GB の RAM のコストをコスト モデル内で定義し、そのユニット コストを使用して特定の VM のための RAM のコストを算出します。

1 回限りのプロビジョニングコスト、アクティブ/非アクティブな VM のコスト、プロビジョニング済み、予約済み、または使用済みの CPU、メモリなどのリソースのコストを定義できます。これらのコストを使用して、使用量に基づいて VM のコストを計算します。

## コスト モデルの作成

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[サービスの提供] の順に選択します。
- ステップ 2 [コストモデル] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4 [コストモデルの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[コストモデル名] フィールド	コスト モデルの名前。
[コストモデルの説明] フィールド	コスト モデルの説明。

名称	説明
[コストモデルタイプ] ドロップダウン リスト	<p>コスト モデルのタイプを選択します。</p> <p>[標準] は線形コスト モデルを示します。[詳細] はパッケージまたはスクリプトに基づくコスト モデルを示します。[詳細] コスト モデルの説明と使用方法については、13-6 ページの「パッケージベースのコスト モデル」の項を参照してください。該当する場合は [HyperV] も選択できます。</p>
[チャージ頻度] ドロップダウン リスト	<p>VM リソースのコストを定義する頻度を選択します。</p> <p>リソースのコストを時間単位で指定する場合は [毎時間] を選択します。リソースのコストを月単位で指定する場合は、[毎月] を選択します。</p>
固定コスト	
[一括での支払いのコスト] フィールド	VM のプロビジョニングの 1 回限りの固定コスト。
VM コスト	
[アクティブなVMのコスト] フィールド	アクティブ状態の VM の時間あたりのコスト。
[非アクティブなVMのコスト] フィールド	非アクティブ状態の VM の時間あたりのコスト。
CPU コスト	
[CPUチャージユニット] ドロップダウン リスト	CPU のチャージ単位 (GHz またはコア) を選択します。
[プロビジョニング済みCPUのコスト] フィールド	<p>1 時間あたり、CPU チャージ単位あたりのプロビジョニングされた CPU のコスト。VM に対してプロビジョニングされた CPU の額が考慮されます。</p> <p>(注) CPU チャージ単位が GHz の場合はコストです。</p> <p>[使用済みCPUコスト] フィールドに値を入力する場合は、このフィールドは空白にしてください。</p>

名称	説明
[予約済みCPUコスト] フィールド	<p>1 時間あたり、GHz あたりの予約 CPU のコスト。</p> <p>VM に対して実際に予約された CPU の額（プロビジョニングされた CPU のコスト計算を含む）が考慮されます。予約 CPU の追加コスト（プロビジョニングコスト以外）がある場合は、ここに入力します。たとえば、プロビジョニングコストが 1 ドルで、予約コストが 1.4 ドルの場合、追加の予約額を指定する必要があります。この例ではこれは 1.4 ドル - 1 ドル = 0.4 ドルです。</p> <p>(注) CPU チャージ単位が GHz の場合はコストです。</p> <p>[使用済みCPUコスト]フィールドに値を入力する場合は、このフィールドは空白にしてください。</p>
[使用済みCPUコスト] フィールド	<p>1 時間あたり、GHz あたりの使用 CPU のコスト。コストは実際の CPU 使用量に基づいています。</p> <p>このコストでは、プロビジョニングコストと予約コストは考慮されません。[使用済みCPUコスト]フィールドに値を入力する場合は、プロビジョニングコストと予約コストのフィールドは空白のままにしておきます。</p> <p>(注) CPU チャージ単位が GHz の場合はコストです。</p>
メモリ コスト	
[プロビジョニング済みメモリのコスト] フィールド	1 時間あたり、GB あたりのプロビジョニングされたメモリのコスト。
[予約済みメモリコスト] フィールド	1 時間あたり、GB あたりの予約されたメモリのコスト。
[使用済みメモリコスト] フィールド	1 時間あたり、GB あたりの使用メモリのコスト。
ネットワーク コスト	

名称	説明
[受信済みネットワークデータのコスト] フィールド	1 時間あたり、GB あたりの受信データのコスト。
[転送済みネットワークデータのコスト] フィールド	1 時間あたり、GB あたりの送信データのコスト。
ストレージ コスト	
[コミット済みストレージコスト] フィールド	1 時間あたり、GB あたりのコミットされたストレージのコスト。
[コミットされていないストレージのコスト] フィールド	1 時間あたり、GB あたりのコミットされていないストレージのコスト。未使用だがプロビジョニングされているストレージは、コミットされていないストレージとして定義されます。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

## VDC を編集してコスト モデルを含める

新しく作成したコスト モデルを割り当てるよう、既存の VDC を追加または編集することができます。既存の VDC を編集したり、新しい VDC を作成したりして、これらの VDC に対して 1 つのコスト モデルを割り当てることができます。

コスト モデルが VDC に割り当てられると、その VDC 内のすべての VM は、高度なコスト モデルに基づいてチャージされます。標準タイプのコスト モデルを持つ VDC 内のすべての VM は、引き続き標準のコスト モデルに従ってチャージされます。

## VDC へのコスト モデルの追加

はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

## 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[仮想データセンター] の順に選択します。
- ステップ 2** [VDC] タブを選択します。
- ステップ 3** コスト モデルに追加する VDC を選択します。
- ステップ 4** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 5** [VDCの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[VDC名] フィールド	VDC の名前。
[ロック済みのvDC] チェックボックス	今後の導入で VDC を使用できないようにするには、このチェックボックスをオンにします。この VDC 内の既存の VM に対するアクションは無効になります。今後の導入で VDC を使用できるようにするには、このチェックボックスをオフにします。
[vDCの説明] フィールド	VDC 固有の説明。
[グループ] ドロップダウン リスト	VDC の設定対象グループを選択します。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VDC の設定対象クラウドを選択します。
承認者と連絡先	
[第1承認者のユーザ名] フィールド	サービスリクエストを承認する必要があるユーザ。
[第2承認担当者のユーザ名] フィールド	サービスリクエストを承認する必要がある2番目のユーザ。
[プロバイダーのサポート用電子メールアドレス] フィールド	連絡先またはユーザの電子メール アドレス。この VDC を使用した VM のプロビジョニングに関する通知を受信するユーザ。
[電子メールアドレスへの通知をコピー] フィールド	この VDC に関する通知をコピーする 2 番目の連絡先の電子メール。
ポリシー	
[システムポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるシステム ポリシーを選択します。

名称	説明
[コンピューティングポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるコンピューティングポリシーを選択します。
[ネットワークポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるネットワーク ポリシーを選択します。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるストレージ ポリシーを選択します。
[コストモデル] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるコストモデルを選択します。
[サービスリクエストサマリーと電子メールページへのコストの表示を無効化] チェックボックス	この VDC の SR サマリーと電子メール ページでのコストの表示を無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[ユーザアクションポリシー] ドロップダウン リスト	VM のプロビジョニング後にオーケストレーション ワークフローの実行に使用するポリシーを選択します。選択されたワークフローは、VDC 内の VM に対するアクションボタンとして表示されます。
エンド ユーザ セルフサービス ポリシー	
[VM の電力管理] チェックボックス	この VDC に属している VM に対してすべての VM 電源管理アクションを実行できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

(注) エンド ユーザ セルフサービス ポリシーには、VM のサイズ変更、VM スナップショット管理、VM の削除、VM ディスク管理、VM ネットワーク管理が含まれます。詳細については、[仮想データセンターの追加](#)、(142 ページ) を参照してください。

**ステップ 6** [追加] をクリックします。

## VDC を編集してコスト モデルに含める

はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。



## 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[仮想データセンター] の順に選択します。
- ステップ 2 [VDC] タブを選択します。
- ステップ 3 コスト モデルに追加する VDC を選択します。
- ステップ 4 [カテゴリの管理] をクリックします。
- ステップ 5 編集するカテゴリを選択します。
- ステップ 6 [編集] をクリックします。
- ステップ 7 [アプリケーションカテゴリの編集] ダイアログボックスで、ドロップダウン リストから [コストモデル] および [ポリシーの導入] を選択します。
- ステップ 8 [保存] をクリックします。

## パッケージベースのコストモデル

パッケージベースのコストモデルでは、システム リソースのコストを個別の定義としてではなく、パッケージとして定義することができます。要件に基づいて、さまざまなパッケージを選択できます。このタイプのコストモデルは、非線形モデルに適しています。



(注) Cisco UCS Director は、CPU メモリ (サーバ) パッケージの定義をサポートしています。

このタイプのコストモデルでは、定義は、利用可能なリソース パッケージに基づいています。モデルの形式は以下のとおりです。

C-M:X

C は CPU コア数です。

M はメモリ (GB) です。

X は C と M の月間コストの組み合わせです。

たとえば、2-4:200 のエントリを持つパッケージは、CPU コアが 2、メモリが 4 GB、およびこのパッケージの月間コストが 200 ドルであることを意味します。

次の形式を使用して、複数のパッケージを定義できます: C1-M1:X1,C2-M2:X2,.....,CN-MN:XN

たとえば、次のようにします: 1-1:50,1-2:70,1-4:90,2-4:150,2-6:170,2-8:190,4-8:350,4-12:380,4-16:400  
最初のエントリ 1-1:50 は、コア CPU が 1、メモリが 1 GB で、月間コストが 50 ドルのパッケージです。



(注) これらのエントリは、コスト パッケージの要件に合わせて随時に編集できます。

## パッケージベースのコストモデルの作成

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[サービスの提供] の順に選択します。
- ステップ 2** [コストモデル] タブを選択します。
- ステップ 3** 新しいコストモデルを作成するには、[追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [コストモデルタイプ] フィールドの下で、[詳細] オプションを選択します。
- ステップ 5** [高度なコストモデル] フィールドに、次に示すスクリプトを貼り付けます。  

```

/*****/

var CPU_MEMORY_COST =
1-2:81,1-4:95,1-8:109,2-4:162,2-6:176,2-8:189,2-16:378,4-12:352,4-16:378;

/*****/

/* 上記のようにコスト パッケージを定義します。
コスト パッケージは次の形式で指定できます：
C-M:X。
C は CPU コアの数です。
M はメモリ (GB) です。
X は C および M を組み合わせた月次コストです。
たとえば 2-4: 162 は、CPU コアの数=2、メモリ=4 GB、このパッケージのコストは 1 ヶ月あたり 162 ドルであることを示します。 */

/* 複数のパッケージを定義するときは、次の形式で定義します： C1-M1:X1,C2-M2:X2,
.....,CN-MN:XN

標準パッケージは、スクリプトの先頭で CPU_MEMORY_COST 変数を使用して定義されています。

コスト パッケージ要件に合わせてこの変数を編集できます。 */

/* 参考：使用するストレージ コストはストレージ階層コストモデル定義に基づいています。 */

```

```

/* 以下のスクリプトは編集しないでください */

computeChargeback(data);
function computeChargeback(data)
{
var map = chargeBackAPI.getCPUMemCostModelMap(CPU_MEMORY_COST);
var cpuCores = data.getVmMeter().getCpuCores();
var memory = data.getVmMeter().getAllocMemGB();
var serverCost = chargeBackAPI.getCostForItem(map,cpuCores, memory);
serverCost = serverCost / (24 * 30);
var storageTierCost = chargeBackAPI.getStorageCostForItem(data.getVmMeter().getVmId());
var storageGB = (data.getVmMeter().getCommittedDiskGB()) +
(data.getVmMeter().getUncommittedDiskGB());
var committedDiskGBCost = (data.getVmMeter().getCommittedDiskGB()) * storageTierCost;
var unCommittedDiskGBCost = (data.getVmMeter().getUncommittedDiskGB()) * storageTierCost;
var storageCost = (storageGB * storageTierCost) / (24 * 30);
var totalVMCost = serverCost + storageCost;
var cb = data.getCbSummary();
cb.setCpuCores(cpuCores);
cb.setMemory(memory);
cb.setServerCost(serverCost);
cb.setCommittedDiskGB(data.getVmMeter().getCommittedDiskGB());
cb.setCommittedDiskGBCost(committedDiskGBCost);
cb.setUncommittedDiskGB(data.getVmMeter().getUncommittedDiskGB());
cb.setUncommittedDiskGBCost(unCommittedDiskGBCost);
cb.setTotalCost(totalVMCost);
}
/*****

```

#### ステップ 6 [追加] をクリックします。

(注) コスト モデルが定義されている場合は、このコスト モデルに基づいて VM のチャージバックを開始するために VDC にコスト モデルを割り当てます。

## ストレージ階層コスト モデル

階層形式のストレージに関して複数のコストを定義するためにストレージ階層コスト モデルを使用できます。現在のストレージ タイプには、ローカル、NFS、SAN、NAS があります。各ストレージ タイプのコストは異なる可能性があり、ストレージ使用コストの計算にこの差異を組み込むことができます。

このモデルを使用して異なる階層に異なるコストを定義した後、これらの階層に既存のデータストアを割り当てることができます。この階層コストモデルを使用して、コスト面で類似するデータストア タイプをグループ化できます。

各階層にコストを割り当てる必要があります。このコストは、1 ヶ月 1 GB あたりです。たとえば、\$0.5 を階層に割り当てると、この階層内のすべてのデータストアは、1 ヶ月 1 GB あたり \$0.5 課金されます。デフォルトでは、4 階層がすでに作成されているので、それらにコストを割り当てる必要があります。

## 階層へのコストの割り当て

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1**    メニュー バーで、[ポリシー]>[仮想/ハイパーバイザ ポリシー]>[サービスの提供] の順に選択します。
  - ステップ 2**    [ストレージ階層のコストモデル] タブを選択します。
  - ステップ 3**    編集する階層を選択します。
  - ステップ 4**    [編集] をクリックします。
  - ステップ 5**    [Disk Cost (GB)/Month (ディスク コスト (GB) /月)] フィールドを編集します。
  - ステップ 6**    [送信] をクリックします。
- 

## 階層へのデータストアの割り当てについて

データストアを階層に割り当てることにより、その階層に定義されたコストを使用して、そのデータストア内のストレージのコストを計算できます。

データストア内の VM に対するチャージバックを計算するとき、データストアを割り当てた階層によってコストが決定されます。データストアが階層に割り当てられていない場合、そのデータストアのストレージコストは高度な（スクリプト ベースの）コスト モデルを使用するときには考慮されません。

フォームによってリソースのコストを定義する標準のコスト モデルを使用する場合は、階層のコストが割り当て済みであり、その階層に対してデータストアが割り当て済みである場合にのみ、ストレージ階層のコストが考慮されます。ただし、階層がデータストアに割り当てられていない場合、そのデータストアの下での VM のストレージコストはコスト モデル フォームのストレージコスト エントリから取得されます。




---

(注)    階層へのデータストアの割り当ては、標準のコスト モデルのみに適用されます。

---

## 階層へデータストアの割り当て

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

## 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想]>[ストレージ] の順に選択します。
- ステップ 2 左側のパネルからクラウド アカウントを選択します。
- ステップ 3 [データストアの容量レポート] タブを選択します。  
現在、階層に基づくコストは VMware クラウド アカウントでのみサポートされています。
- ステップ 4 階層を割り当てるデータストアを選択します。
- ステップ 5 [階層の割り当て] をクリックします。[ストレージ階層] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 6 ドロップダウン リストから階層を選択します。
- ステップ 7 [送信] をクリックします。

# チャージバック レポート

チャージバックは、使用中および未使用のリソースに対して組織が支払う金額に関する情報を提供します。この機能を使用して、リソースの消費量とコストを最適化できます。システムリソース アカウンティングは、毎月の使用量をベースにすることができます。CPU やメモリの使用率といったリソースが監視および計測されます。

チャージバック レポートはコスト モデルのタイプに基づいています。チャージバックは、表形式のレポート、サマリー、グラフィカル レポートおよびウィジェットの形式で計算および表示されます。

以下に、利用可能なレポート タイプを示します。

- 表示
  - 今月のサマリー：グループ別の今月のサマリーコストレポート（VM、CPU、ストレージコストなど）。
  - 前月のサマリー：グループ別の前月のサマリーコストレポート（VM、CPU、ストレージコストなど）。
  - 月間リソース アカウンティングの詳細：各グループの月単位のリソース アカウンティングの詳細（CPU およびメモリの使用状況の統計情報）。
  - VM レベル リソース アカウンティングの詳細：VM レベルのリソース アカウンティングの詳細。
  - VM レベルチャージバックの詳細：チャージバック機能を使用して VM の使用量に適用されるチャージ。
- エクスポート

- 月間リソース アカウンティングの詳細のエクスポート：リソース アカウンティングの詳細のレポートは、表としてエクスポートできます。
- VM レベル リソース アカウンティングの詳細のエクスポート：VM レベル リソース アカウンティングの詳細のレポートは、表としてエクスポートできます。
- VM レベル チャージバックの詳細のエクスポート：チャージバック レポートは、表としてエクスポートできます。

## 今月のサマリーの表示

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[組織]>[チャージバック] の順に選択します。
  - ステップ 2** 左側のパネルから、表示するグループを選択します。
  - ステップ 3** [今月のサマリー] タブを選択して、このグループに属するすべての VM の今月のチャージバックの詳細を確認します。
- 

## 前月のサマリーの表示

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[組織]>[チャージバック] の順に選択します。
  - ステップ 2** 左側のパネルから、表示するグループを選択します。
  - ステップ 3** [前月のサマリー] タブを選択して、このグループに属するすべての VM の前月のチャージバックの詳細を確認します。
-

## 月間リソース アカウンティング情報の表示

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1**    メニュー バーで、[組織]>[チャージバック] の順に選択します。
  - ステップ 2**    左側のパネルから、表示するグループを選択します。
  - ステップ 3**    [リソースアカウンティング] タブを選択します。
- 

## VM レベルのリソース アカウンティングの詳細の表示

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1**    メニュー バーで、[組織]>[チャージバック] の順に選択します。
  - ステップ 2**    左側のパネルから、表示するグループを選択します。
  - ステップ 3**    [リソースアカウンティングの詳細] タブを選択して、各 VM リソースの使用率の詳細を表示します。
- 

## VM レベルのチャージバックの詳細の表示

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1**    メニュー バーで、[組織]>[チャージバック] の順に選択します。
  - ステップ 2**    左側のパネルから、表示するグループを選択します。
  - ステップ 3**    [チャージバック] タブを選択します。
-

## 月間リソース アカウンティングの詳細のエクスポート

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[組織]>[チャージバック] の順に選択します。
  - ステップ 2 [リソースアカウンティング] タブを選択します。
  - ステップ 3 ツールバーの右側にある[レポートのエクスポート]アイコンをクリックして、[レポートのエクスポート] ダイアログボックスを表示します。
  - ステップ 4 ドロップダウン リストから [PDF]、[CSV]、または [XLS] のいずれかの形式を選択します。
  - ステップ 5 [レポートの生成] をクリックします。
- 

## VM レベルのリソース アカウンティングの詳細のエクスポート

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[組織]>[チャージバック] の順に選択します。
  - ステップ 2 [リソースアカウンティングの詳細] タブを選択します。
  - ステップ 3 ツールバーの右側で、[レポートのエクスポート]アイコンをクリックします。[レポートのエクスポート] ダイアログボックスが表示されます。
  - ステップ 4 ドロップダウン リストから [PDF]、[CSV]、または [XLS] のいずれかの形式を選択します。
  - ステップ 5 [レポートの生成] をクリックします。
- 

## VM レベルのチャージバックの詳細のエクスポート

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。



### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[組織]>[チャージバック] の順に選択します。
- ステップ 2 [チャージバック] タブを選択します。
- ステップ 3 ツールバーの右側で、[レポートのエクスポート] アイコンをクリックします。[レポートのエクスポート] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4 ドロップダウン リストから [PDF]、[CSV]、または [XLS] のいずれかの形式を選択します。
- ステップ 5 [レポートの生成] をクリックします。

## 変更レコードについて

変更管理データベース (CMDB) 内の変更レコードを使用して、システムの変更を追跡および管理できます。通常、これらのレコードは、VM、サービス リクエスト、グループなどのあらゆるリソースに対するイベント タイプ (ADD、DELETE、および MODIFY) を示します。

変更レコードは、リソース タイプ (VM) に関する情報 (リソース名、変更タイプ、変更時刻、説明など) を表示します。VM のサイズ変更の場合、サイズ変更された VM のリソースに関する情報と、サイズ変更前とサイズ変更後のリソースの値に関する情報が示されます。

VM のサイズが変更された場合、変更が記録され、[レコードの変更] タブに表示されます。

## 変更レコードへのアクセス

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[統合] の順に選択します。
- ステップ 2 [レコードの変更] タブを選択します。

## チャージバックの計算

VM の総コストの計算には次のものが含まれます。

総コスト = アクティブな VM のコストまたは非アクティブな VM のコスト + 一括での支払いのコスト + CPU のコスト + メモリ コスト + ディスク コスト + CPU 予約コスト + メモリ予約コスト + CPU 使

用コスト+CPU コアのコスト+メモリ使用コスト+受信ネットワーク使用コスト+転送ネットワーク使用コスト+アプリケーション コスト

VM のコスト計算は1時間単位でのみ実行されます。各リソースのコストはコストモデルで定義されている値に基づいて計算されます。コスト計算は次のコストに基づいています。

コスト	コストの説明
アクティブな VM のコスト	アクティブな VM のコストのコストモデルで定義されている値。
非アクティブな VM のコスト	非アクティブな VM のコストのコストモデルで定義されている値。
一括での支払いのコスト	一括での支払いのコストのコストモデルで定義されている値。
CPU コスト	CPU 使用量（プロビジョニング済み） x プロビジョニング済み CPU コストのコストモデルで定義されているコスト。CPU のチャージユニットは GHz です。
メモリ コスト	メモリ 使用量（プロビジョニング済み） x プロビジョニング済みメモリ コストのコストモデルで定義されているコスト。メモリのチャージユニットは GB です。
ディスク コスト	コミット済みストレージ x コストモデルで定義されているコミット済みストレージコスト + コミットされていないストレージ x コストモデルで定義されているコミットされていないストレージのコスト ストレージのチャージユニットは GB です。
CPU 予約コスト	予約済み CPU x 予約済み CPU コストのコストモデルで定義されているコスト。1
メモリ予約コスト	予約済みメモリ x 予約済みメモリ コストのコストモデルで定義されているコスト。2
CPU 使用コスト	使用済み CPU x 使用済み CPU コストのコストモデルで定義されているコスト。1
CPU コア コスト	使用済み CPU コア x CPU コア コストのコストモデルで定義されているコスト。CPU のチャージユニットはコアです。

コスト	コストの説明
メモリ使用コスト	使用済みメモリ x 使用済みメモリ コストのコスト モデルで定義されているコスト。2
受信ネットワーク使用コスト	受信ネットワーク使用率 (KB) / (1024.0 x 1024.0) x 受信済みネットワーク データのコストのコスト モデルで定義されているコスト。 ネットワークのチャージユニットはGBです。
転送ネットワーク使用コスト	転送ネットワーク使用率 (KB) / (1024.0 x 1024.0) x 転送済みネットワーク データのコストのコスト モデルで定義されているコスト。5
アプリケーション コスト	アクティブな VM 時間 x アクティブな VM アプリケーションコストのカタログで定義されているコスト+非アクティブな VM 時間 x 非アクティブな VM アプリケーションコストのカタログで定義されているコスト。





## 第 14 章

# システムのモニタリングとレポート作成

---

この章は、次の内容で構成されています。

- [ダッシュボード, 227 ページ](#)
- [サマリー, 229 ページ](#)
- [インベントリ管理, 230 ページ](#)
- [リソース プール, 230 ページ](#)
- [クラスタ, 231 ページ](#)
- [イメージ, 231 ページ](#)
- [ホスト ノード, 232 ページ](#)
- [仮想マシン \(VM\) , 232 ページ](#)
- [トポロジ, 233 ページ](#)
- [アセスメント, 234 ページ](#)
- [レポート, 234 ページ](#)

## ダッシュボード

ダッシュボードは、ログインしたときに表示される最初のウィンドウです。アプリケーションのすべてのレポート ウィジェットをダッシュボードに追加できます。ダッシュボード（のトップレベルのメニュー）で、重要なまたはお気に入りのレポート ウィジェットの追加を有効にできます。

## ダッシュボードの有効化

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1 ウィンドウの右上で、[管理者] をクリックします。
  - ステップ 2 [ダッシュボード] タブを選択します。
  - ステップ 3 [ダッシュボードの有効化] チェックボックスをオンにします。
  - ステップ 4 [適用] をクリックします。
- 

## レポート ウィジェットの追加

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2 左側のパネルから、クラウドの名前を選択します。
  - ステップ 3 表示するレポート タイプのタブを選択します。
  - ステップ 4 レポートの右上で下矢印をクリックします。
  - ステップ 5 [ダッシュボードに追加] を選択します。
- 

## ウィジェット データの更新

レポート ウィジェット データの自動更新または手動更新を設定できます。自動更新の場合、自動更新の間隔を 5 分から最大 60 分までの間でカスタマイズできます。

時間を設定するには、ダッシュボードの [自動更新] ボタンを [オン] に設定する必要があります。

# サマリー

[サマリー] ウィンドウでシステムインベントリを管理することができます。このウィンドウではさまざまな表、図、およびマップレポートを利用できるほか、インベントリ ライフサイクル活動の管理に役立ちます。

各レポートは、ウィジェットとして表示され、カスタマイズによって非表示にできます。

## 仮想マシン、クラウド、およびシステムのサマリー情報

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- |               |                                     |
|---------------|-------------------------------------|
| <b>ステップ 1</b> | メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。 |
| <b>ステップ 2</b> | [サマリー] タブを選択します。                    |
- 

## サマリー レポート ウィジェットのカスタマイズ

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- |               |  |
|---------------|--|
| <b>ステップ 1</b> | メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。                        |
| <b>ステップ 2</b> | [サマリー] タブを選択します。   |
| <b>ステップ 3</b> | [カスタマイズ] アイコンをクリックして、使用可能なレポート ウィジェットを起動します。               |
| <b>ステップ 4</b> | ウィジェットをクリックし、ダッシュボードにドラッグします。                              |
| <b>ステップ 5</b> | レポートをダブルクリックしてビューを拡大するか、またはレポートの右上をクリックして、[ビューの展開] を選択します。 |
| <b>ステップ 6</b> | スライド バーを使用して、[ダッシュボード] に表示されるレポートのサイズを調整します。               |
-

# インベントリ管理

ダッシュボードを使用して、システム インベントリをモニタできます。物理インフラストラクチャに対するすべての変更がダッシュボードへ反映されます。ダッシュボードには、管理運営に対するシステム全体のレベルのインフラストラクチャ情報が表示されます。

## システム インベントリの詳細情報へのアクセス

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2 左側のパネルから、クラウドの名前を選択します。
  - ステップ 3 詳細情報を表示するタブを選択します。
- 

## リソース プール

[リソースプール] タブにはホスト ノードレベルでのリソースの詳細が表示されます。これらの詳細には、CPU 設定予約、CPU 制限値、使用済み CPU、使用済みメモリなどが含まれます。

## リソースの詳細情報へのアクセス

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2 左側のパネルから、クラウドの名前を選択するか、[すべてのクラウド] を選択します。
  - ステップ 3 [リソースプール] タブを選択します。
-



# クラスタ

[クラスタ] タブには、ポッドのすべてのクラスタとその詳細（存在する場合）が表示されます。

## クラスタへのアクセス

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- |        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| ステップ 1 | メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。 |
| ステップ 2 | [クラスタ] タブを選択します。                    |
- 

# イメージ

[イメージ] タブには、使用可能なすべてのイメージ ID、およびその詳細が表示されます。これらのイメージにはゲスト OS、CPU、メモリ、およびプロビジョニングされているストレージが含まれます。これらのイメージ ID を使用して、新しい仮想マシン（VM）をプロビジョニングできます。

## イメージへのアクセス

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- |        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| ステップ 1 | メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。 |
| ステップ 2 | [イメージ] タブを選択します。                    |
-

## ホストノード

[ホストノード] タブには、インフラストラクチャで利用できるすべての物理ホストノードが表示されます。インストールされている ESX/ESXi のバージョン、アクティブな VM、電源ステータスなどの詳細を見ることができます。

## ホストノードへのアクセス

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1**    メニューバーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2**    [ホストノード] タブを選択します。
  - ステップ 3**    ツールバーのドロップダウンリストから、[レポート] タイプを選択します。
- 

## 仮想マシン (VM)

[VM] タブには、選択したクラウドのすべての VM と各 VM の詳細が表示されます。

## VM へのアクセス

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1**    メニューバーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2**    [VM] タブを選択します。
-

## グループレベル VM へのアクセス

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- |        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| ステップ 1 | メニュー バーで、[組織] > [仮想リソース] を選択します。 |
| ステップ 2 | 左側のパネルから、グループを選択し、[VM] タブを選択します。 |
- 

## トポロジ

[トポロジ] タブには VMware クラウド トポロジが表示されます。表示モードタイプには、[階層]、[同心]、[円形]、および [強制の実行] の 4 つがあります。選択する表示モードによって、項目のスペース設定、距離、半径、厳密性、および強制距離を調整できます。

## トポロジタイプへのアクセス

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- |        |  |
|--------|--|
| ステップ 1 | メニュー バーで、[仮想] > [コンピューティング] の順に選択します。  |
| ステップ 2 | 左側のパネルから、クラウドの名前を選択します。  |
| ステップ 3 | [トポロジ] タブを選択します。   |
| ステップ 4 | トポロジタイプ ([Hostnode-Datastore Topology (Hostnode データストア トポロジ)] または [Hostnode-VM Topology (Hostnode VM トポロジ)] のいずれか) を選択します。 |
| ステップ 5 | ツールバーで [接続の表示] ボタンをクリックします。トポロジが新しいウィンドウに表示されます。<br>(注) すべてのトポロジタイプが表示されるわけではありません。  |
-

## アセスメント

[アセスメント] タブには、アセスメント レポート（クラウド対応状況、仮想化のベスト プラクティス、パフォーマンス最適化、容量、電源最適化など）が表示されます。

## 評価へのアクセス

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1    メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2    左側のパネルから、クラウドの名前を選択します。
  - ステップ 3    [評価] タブを選択します。
  - ステップ 4    [レポート] ドロップダウン リストから、レポート タイプを選択します。
- 

## レポート

Cisco UCS Director では、さまざまなレポートを表示して、仮想インフラストラクチャおよびシステムリソースをモニタできます。これらのレポートは、システムの詳細を理解するのに役立ち、システムの実行状況に関する情報を提供します。

以下にレポートのタイプを示します。

- システム情報に関する表形式のレポート。概要、ホスト ノード、新しい VM、および削除された VM が含まれます。
- 棒グラフおよび円グラフによる比較。アクティブな VM と非アクティブな VM、プロビジョニングされた CPU とキャパシティなどの比較が表示されます。
- システム リソースに関するトレンド グラフ。CPU のトレンド、メモリのトレンド、VM の追加および削除などが含まれます。
- その他のレポートには、グループ、VDC、ホスト ノード、および VM レベルの上位 5 つのレポートがあります。上位 5 つのレポートは、VM の数が最も多いグループ、CPU 使用率が最大のグループ、VM の数が最も多い VDC、CPU 使用率が最大のホスト ノードなどです。
- マップ レポートは、ヒート マップまたは色分けされたマップの形式でシステム リソース情報を表示します。

特定のアカウント（たとえば KVM アカウントなど）について、追加の傾向レポートを利用することもできます。傾向レポートには、選択した期間内のデータが表示されます。

## レポートへのアクセス

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1**    メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2**    左側のパネルから、クラウドの名前を選択します。
  - ステップ 3**    レポートのタイプ（[Map（マップ）]、[Top 5（上位 5）]、[その他のレポート]）のタブを選択します。
-





# 第 15 章

## ライフサイクルの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [VM の電源設定の管理, 237 ページ](#)
- [VM のサイズ変更, 238 ページ](#)
- [VM スナップショットの管理, 239 ページ](#)
- [仮想マシンのリース時間の設定, 243 ページ](#)
- [VM アクションの管理, 243 ページ](#)

## VM の電源設定の管理

はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウドの名前を選択します。
- ステップ 3** 仮想マシン（VM）アクションを実行するには、[VM] タブを選択し、VM を右クリックします（タイマーが動いている間待ちます）。
- ステップ 4** アクションを選択すると、[VM タスク] ダイアログボックスが開きます。最後の 2 つのフィールドに値を入力します。

名称	説明
[VM 名] フィールド（表示専用）	アクションの実行対象である VM の名前。
[電源オフ] フィールド（表示専用）	VM の電源をオフにするタスク。

名称	説明
[電源オン] フィールド (表示専用)	VM の電源をオンにするタスク。
[一時停止] フィールド (表示専用)	VM を一時停止状態にするタスク。
[ゲストのシャットダウン] フィールド (表示専用)	VM でゲスト OS をシャット ダウンするタスク。
[スタンバイ] フィールド (表示専用)	VM をスタンバイ状態にするタスク。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[リセット] フィールド (表示専用)	VM のハードリセットを実行するタスク。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[リブート] フィールド (表示専用)	VM のソフトリブートを実行するタスク。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[コメント] フィールド	コメント。
[アクションのスケジュール設定] オプションボタン	特定の日時にまたは今すぐ VM の電源をオンにするタスク。

**ステップ 5** [続行] をクリックします。

## VM のサイズ変更

### はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション] を有効にして、許可を与える必要もあります。

### 手順

- ステップ 1** [仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。
- ステップ 2** VM を右クリックして [VM のサイズ変更] を選択します。
- ステップ 3** [VM のサイズ変更] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。



名前	説明
[VM名] フィールド	選択した VM の名前。
[現在の割り当てCPU] フィールド	VM によって使用中の割り当て済み CPU の数。
[現在の割り当てメモリ(GB)] フィールド	VM に割り当てられているメモリ容量。
[新しいCPU数] ドロップダウンリスト	ドロップダウン リストから必要な CPU を選択します。
[新しいメモリ] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストから必要なメモリ容量を選択します。

**ステップ 4** [サイズ変更] をクリックします。

## VM スナップショットの管理

ここでは、次の作業について説明します。

- スナップショットの作成：すべての VM リソースの現在の状態のスナップショットを作成できます。スナップショットを作成すると、仮想マシンがクラッシュした際、元の状態に戻すことができます。
- スナップショットへの復帰：VM がクラッシュや誤作動（OS が破損）した場合、VM の最新スナップショットへ復帰することにより、VM を再稼働させることができます。VM のスナップショットが複数ある場合、特定のスナップショットに戻すことができます。
- ゴールドスナップショットとしてマーク付け：VM の特定のスナップショットをゴールドスナップショットとしてマークできます。この機能は、そのスナップショットが誤って削除されないよう保護します。
- スナップショットの削除：必要に応じてスナップショットを削除できます。ゴールドスナップショットを削除する場合は、あらかじめマークを外しておく必要があります。
- すべてのスナップショットの削除：VM のすべてのスナップショットを削除できます。ただし、ゴールドスナップショットが存在する場合、すべてのスナップショットの削除はできません。先にゴールドスナップショットのマークを外してから、すべてのスナップショットの削除を実行してください。

## VM スナップショットの作成

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウドの名前を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
- ステップ 5** ドロップダウン リストから、[スナップショットの作成] を選択します。
- ステップ 6** [仮想マシンのスナップショットの作成] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[スナップショット名] フィールド	スナップショットの名前。
[スナップショットの説明] フィールド	スナップショットの説明。
[スナップショットメモリ] チェックボックス	VMのメモリを組み込む場合にこのチェックボックスをオンにします。
[ゲストのファイルシステムを休止] チェックボックス	<p>休止モードでスナップショットを作成する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) ファイル システムを休止すると、物理または仮想マシンのディスク上のデータがバックアップに適した状態になります。このプロセスには、オペレーティング システムのメモリ内 キャッシュから、ディスクまたはその他の高レベルのアプリケーション固有のタスクにバッファをフラッシュするなどのアクションが含まれる場合があります。このオプションを使用するには、VMware ツールを VM にインストールする必要があります。</p>

- ステップ 7** [続行] をクリックします。

## スナップショットへの復帰

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- |               |  |
|---------------|--|
| <b>ステップ 1</b> | メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。  |
| <b>ステップ 2</b> | クラウドの名前を選択します。   |
| <b>ステップ 3</b> | [VM] タブを選択します。   |
| <b>ステップ 4</b> | VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。   |
| <b>ステップ 5</b> | ドロップダウン リストから、[スナップショットの復帰] を選択します。  |
| <b>ステップ 6</b> | [スナップショットタスクの復帰] ダイアログボックスで、スナップショット名の隣にあるチェックボックスをオンにしてリストからスナップショットを選択します。 |
| <b>ステップ 7</b> | [続行] をクリックします。   |
- 

## ゴールデン スナップショットのマーキング

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- |               |   |
|---------------|---|
| <b>ステップ 1</b> | メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。   |
| <b>ステップ 2</b> | クラウドの名前を選択します。  |
| <b>ステップ 3</b> | [VMs] タブを選択します。   |
| <b>ステップ 4</b> | VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。  |
| <b>ステップ 5</b> | ドロップダウン リストから、[ゴールデンスナップショットのマーキング] を選択します。                                       |
| <b>ステップ 6</b> | [ゴールデンスナップショットのマーキング] ダイアログボックスで、リストのスナップショット名の横にあるチェックボックスをオンにして、スナップショットを選択します。 |
| <b>ステップ 7</b> | [ゴールデンスナップショットとしてマーキング] チェックボックスをオンにします。  |
| <b>ステップ 8</b> | [続行] をクリックします。  |
-

## スナップショットの削除

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2 クラウド名を選択します。
  - ステップ 3 [VMs] タブを選択します。
  - ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
  - ステップ 5 ドロップダウン リストから [スナップショットの削除] を選択します。
  - ステップ 6 [スナップショットタスクの削除] ダイアログボックスで、スナップショット名の隣にあるチェックボックスをオンにして、リストからスナップショットを選択します。
  - ステップ 7 [子の削除] チェックボックスをオンにします。
  - ステップ 8 [続行] をクリックします。
- 

## すべてのスナップショットの削除

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2 クラウド名を選択します。
  - ステップ 3 [VMs] タブを選択します。
  - ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
  - ステップ 5 ドロップダウン リストから [すべてのスナップショットの削除] を選択します。
  - ステップ 6 [VMスナップショットタスク] ダイアログボックスに、任意でコメントを入力します。
  - ステップ 7 [続行] をクリックします。
-

## 仮想マシンのリース時間の設定

ユーザは、選択した仮想マシン（VM）のリース有効時間を設定できます。リース時間が期限切れになると、VM はシャットダウン（電源オフ）されます。リース時間の終了については、カレンダーで選択するため制限はありません。

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウドの名前を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択します。
- ステップ 5** ツールバーで、[リース時間の設定] ボタンをクリックします。
- ステップ 6** [リース時間の設定] ダイアログボックスで、[リース時間の設定] チェックボックスをオンにします。次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[VM名] フィールド	VM の名前。 このフィールドは編集できません。
[リース日時] のカレンダー、ドロップダウン リスト、オプション ボタン	VM のリースの日時。日付のカレンダー、時刻（時間および分）のドロップダウン リスト、AM と PM のオプション ボタンがあります。

- ステップ 7** [送信] をクリックします。

## VM アクションの管理

VM のその他のアクション メニューは、VM を右クリックすることで、短縮形のメニューが表示され、また、VM を選択してからツールバーの右側の下矢印をクリックすることで、フルメニューが表示されます。

他の VM アクションには次のものがあります。

- **View VM Details**（VM の詳細を表示）：個別の VM にアクセスして、サマリー レポート、vNIC、ディスク、スナップショットなどの詳細を表示できます。

- **スタック ビュー**：OS、ハイパーバイザ、インフラストラクチャ情報など、特定の VM についてさまざまな情報を参照できます。
- **Delete a VM (VM の削除)**：リストから VM を削除できます。電源がオフになっている VM のみ削除できます。
- **Create a VM Disk (VM ディスクの作成)**：カスタム サイズの追加ディスクを VM に追加できます。
- **Delete a VM Disk (VM ディスクの削除)**：ディスクを削除できます。
- **vNIC の追加**：VM に複数の vNIC を追加できます。また、VM 内で vNIC を追加、または交換するオプションもあります。vNIC のオプションは、VM に関連付けられた VDC にマップされているネットワーク ポリシーによって異なります。
- **VM クライアントの起動**：Web アクセス、リモート デスクトップ、または VNC コンソールのいずれかのプリファレンスを VM へ設定できます。
- **VM の割り当て**：VM をグループまたは VDC に割り当てたり、VM のカテゴリを変更したりできます。VM のプロビジョニング時間、終了時間、およびラベルを設定できます。
- **VM クレデンシャルにアクセス**：VM のログインクレデンシャルが Web またはリモートのデスクトップアクセスに対して設定されており、管理者が、その VM がプロビジョニングされているカタログ内の権限を提供している場合のみ、VM のログインクレデンシャルにアクセスできます。
- **VM のインベントリ収集のリクエスト**：1 つの VM を選択し、その VM に対してオンデマンドのインベントリ収集をリクエストできます。
- **VNC のテスト**：トラブルシューティングの目的のために、VNC の接続をテストします。
- **複製**：同じ、または類似のクオリティを持つ新しい VM を作成するために、既存の VM を複製したり、コピーを作成したりできます。
- **VM を VDC に移動**：VM を VDC に移動して、VDC システム ポリシー規則が VM 内で適用されるようにすることができます。
- **VM 再同期**：VM を Cisco UCS Director と定期的に再同期させる時間（分）を設定することができます。

## VM の詳細の表示

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2** クラウドの名前を選択します。
  - ステップ 3** [VMs] タブを選択します。
  - ステップ 4** リストから VM を選択します。
  - ステップ 5** ツールバーで、[詳細の表示] ボタンをクリックします。
- 

## スタック ビューの使用方法

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2** クラウド名を選択します。
  - ステップ 3** [VM] タブを選択します。
  - ステップ 4** ツールバーで、[スタックビュー] ボタンをクリックします。
- 

## VM の削除

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2** クラウド名を選択します。
  - ステップ 3** [VMs] タブを選択します。
  - ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
  - ステップ 5** ドロップダウン リストから、[VMの削除] を選択します。

**ステップ 6** [VMタスク] ダイアログボックスに必要な応じてコメントを入力し、すぐもしくは、あとで実行する操作をスケジュールします。

(注) [あとで実行] を選択した場合は、時間を指定します。

**ステップ 7** [続行] をクリックします。

## VM ディスクの作成

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

**ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。

**ステップ 2** クラウドの名前を選択します。

**ステップ 3** [VM] タブを選択します。

**ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。

**ステップ 5** ドロップダウン リストから、[VMディスクの作成] を選択します。

**ステップ 6** [VMディスクの作成] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[VM名] フィールド	VM の名前。 この名前は編集できません。
[新しいディスクサイズ(GB)] フィールド	VM のディスク サイズ (GB 単位) 。
[Choose a disk type (ディスク タイプの選択) ] ドロップダウン リスト	ディスク ラベルを選択します。
[Choose Datastore (データストアの選択) ] ドロップダウン リスト	データストアを選択します。  (注) 選択できるデータストアは、VM (VM の VDC) に関連付けられたストレージポリシーによって異なります。



名称	説明
[Thinプロビジョニング] チェックボックス	VMにシンプロビジョニングされたディスクを追加する場合に、このチェックボックスをオンにします。  (注) シンプロビジョニングは、物理ストレージ容量の動的割り当てをイネーブルにし、VMストレージの使用率が向上します。

**ステップ 7** [作成] をクリックします。

## VM ディスクの削除

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウド名を選択します。
- ステップ 3** [VMs] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
- ステップ 5** ドロップダウン リストから、[VMディスクの削除] を選択します。
- ステップ 6** [VMディスクの削除] ダイアログボックスで、ドロップダウン リストからディスク名を選択します。
- ステップ 7** [削除] をクリックします。

## vNIC の追加



- (注) vNIC VM を追加するときには、[ポートグループ名] と [アダプタのタイプ] の値のみが変更されます。選択されているポート グループで DHCP が有効な場合に限り、VM の IP アドレスが変更されます。ただし、IP アドレスがスタティック プール ポリシーの IP アドレスである場合は、変更されません。

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウドの名前を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
- ステップ 5** ドロップダウン リストから [vNICの追加] を選択します。
- ステップ 6** [VM vNICの追加] ウィンドウの [操作] ドロップダウン リストから [追加] を選択します。ネットワーク ポリシーで設定されている追加 vNIC の制限を超過する場合は、この操作は許可されません。
- ステップ 7** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 8** [VMネットワークへのエントリの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[NICエイリアス] ドロップダウン リスト	リストから NIC エイリアスを選択します。
[ポートグループタイプ] ドロップダウン リスト (表示専用)	リストからポート グループを選択します。
[ポートグループ名] ドロップダウン リスト	リストからポート グループ名を選択します。
[アダプタのタイプ] ドロップダウン リスト (表示専用)	アダプタ タイプを選択します。 この項目が選択可能であるのは、ネットワーク ポリシーでこの NIC エイリアスに対して [テンプレートからのアダプタのタイプのコピー] が選択されていない場合に限られます。
[DHCP] チェックボックス	オンにすると、IP は DHCP を使用して割り当てられます。 このフィールドは編集できません。

名前	説明
[静的IPプール] フィールド	スタティック IP アドレス プール。
[ネットワークマスク] フィールド	ネットワーク マスク。
[ゲートウェイIPアドレス] フィールド	ゲートウェイ IP アドレス。

(注) [NICエイリアス]、[ポートグループ名]、[アダプタのタイプ]、[DHCP]、および [静的IPプール] の各選択項目は、VM (VM の VDC) に関連付けられたネットワーク ポリシーの設定によって異なります。複数 NIC ネットワーク ポリシーの詳細については、[ポリシーの管理](#)、(115 ページ) を参照してください。

このアクションを実行するために VM の電源がオフになります。アクションが完了すると、VM の電源がオンになります。

**ステップ 9** [送信] をクリックします。

## vNIC の置換



(注) vNIC VM を置き換えると、[ポートグループ名] および [アダプタのタイプ] の値のみが変更されます。VM の IP アドレスは、選択されたポート グループで DHCP が有効な場合にのみ変更されます。ただし、IP アドレスがスタティック プール ポリシーから供給されている場合は変更されません。

### 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウドの名前を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
- ステップ 5** ドロップダウン リストから、[vNICの追加] を選択します。
- ステップ 6** [VM vNICの追加] ウィンドウで、[操作] ドロップダウン リストから [置換] を選択します。ネットワーク ポリシーに設定された vNIC の追加制限を超える場合、この操作は許可されません。
- ステップ 7** vNIC を選択します。
- ステップ 8** [vNICの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[NICエイリアス] ドロップダウン リスト	NIC エイリアスを選択します。 ネットワーク ポリシーに設定された vNIC のみが表示されます。
[ポートグループ名] ドロップダウン リスト	リストからポート グループ名を選択します。
[アダプタのタイプ] 表示専用ドロップダウン リスト	アダプタ タイプを選択します。 これを選択できるのは、ネットワーク ポリシーで [テンプレートからのアダプタのタイプのコピー] が選択されていない NIC エイリアスを選択した場合のみです。
[DHCP] チェックボックス	DHCP を使用して割り当てられた IP が必要な場合は、このチェックボックスをオンにします。
[静的IPプール] フィールド	固定 IP アドレス プール。
[ネットワークマスク] フィールド	ネットワーク マスク。
[ゲートウェイIPアドレス] フィールド	ゲートウェイ IP アドレス。

### ステップ 9 [送信] をクリックします。

(注) このアクションを実行するために VM の電源がオフになります。 アクションが完了すると、VM の電源が投入されます。 [置換] 操作は、VM から既存の vNIC をすべて削除し、追加された vNIC に置き換えます。 ネットワーク ポリシーに設定された vNIC の追加制限を超える場合、この操作は許可されません。

[NICエイリアス]、[ポートグループ名]、[アダプタのタイプ]、[DHCP]、および [静的IPプール] の選択は、VM (VM VDC) に関連付けられたネットワーク ポリシーの設定によって異なります。 複数の NIC ネットワーク ポリシーの詳細については、[ポリシーの管理](#)、(115 ページ) を参照してください。

## vNIC の削除

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

## 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウド名を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
- ステップ 5** ドロップダウン リストから、[vNICの削除] を選択します。
- ステップ 6** [VM vNICの削除] ダイアログボックスの [選択] ボタンをクリックします。
- ステップ 7** [項目の選択] ダイアログボックスで、削除する vNIC の隣にあるチェックボックスをオンにします。  
[すべてオン] を選択すると、すべての vNIC を削除できます。
- ステップ 8** [選択] をクリックします。
- ステップ 9** [削除] をクリックします。
- 

## VM クライアントの起動

## はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

## 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウドの名前を選択します。
- ステップ 3** [VMs] タブを選択します。
- ステップ 4** リストから VM を選択します。
- ステップ 5** ツールバーで、[VMクライアントの起動] を選択します。
- ステップ 6** [VMクライアントの起動] ダイアログボックスで、VM クライアントのアクセス方式を選択します。  
[リモートデスクトップ]、[Web アクセス]、または [VNC コンソール] を選択できます。
- (注) VNC コンソールは、VM にアクセスできる Ajax ベースのコンソールです。コンソールウィンドウは、あらゆるスタンドアロン Web ブラウザを使用して起動できます。専用のブラウザプラグインを必要とせず、包括的な VM コントロール機能を備えています。
- ステップ 7** [続行] をクリックします。
-

## VM の VNC コンソールの有効化

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1    メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2    クラウド名を選択します。
  - ステップ 3    [VMs] タブを選択します。
  - ステップ 4    VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
  - ステップ 5    ドロップダウンリストから、[VNCの設定] を選択します。
  - ステップ 6    [送信] をクリックします。
  - ステップ 7    [OK] をクリックします。  
要求が送信されると、Cisco UCS Director は VM への VNC コンソール アクセスを自動的に設定します。
- 

## VM の VNC コンソール ウィンドウへのアクセス

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1    メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2    クラウドの名前を選択します。
  - ステップ 3    [VMs (VM) ] タブを選択します。
  - ステップ 4    リストから VM を選択します。
  - ステップ 5    ツールバーで、[VMクライアントの起動] を選択します。
  - ステップ 6    [クライアントの起動] ダイアログボックスで、アクセススキーマとして [VNCコンソール] を選択します。
  - ステップ 7    [Proceed (続行) ] をクリックします。  
(注)    ESX/ESXi サーバの VNC ポート (5900 ~ 5964) は、VM VNC のコンソール アクセス用ハイパーバイザで開く必要があります。  
(注)    Cisco UCS Director は VM に VNC コンソールの自動設定を提供します。設定するには、ハイパーバイザの必須ポートを開く必要があります。

(注) ESX 4.X および ESXi 5.0 のハイパーバイザは VNC コンソール アクセスの設定をサポートしています。

## VM の割り当て

ユーザ グループにはリソースまたは VM を割り当てることができます。リソースまたは VM が VMWare クラウドにある場合は、それを Cisco UCS Director 内の特定のエンド ユーザに割り当てることもできます。

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング]の順に選択します。
- ステップ 2 クラウドの名前を選択します。
- ステップ 3 [VM] タブをクリックします。
- ステップ 4 リストから VM を選択します。
- ステップ 5 ツールバーで、[VMの割り当て] ボタンをクリックします。
- ステップ 6 [VM の割り当て] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[VM名] フィールド	VM の名前。
[ユーザ グループ] ドロップダウン リスト	ユーザ グループを選択します。
[ユーザに割り当て] チェックボックス	特定のユーザに VM を割り当てる場合は、このチェックボックスをオンにします。  このオプションは、選択したユーザグループに適用されるグループ共有ポリシーについて、エンドユーザに対するリソースの割り当てが有効である場合のみ表示されます。グループ共有ポリシーの作成の詳細については、 <a href="#">グループ共有ポリシーの作成</a> 、(121 ページ) を参照してください。

名称	説明
[ユーザ] ドロップダウン リスト	この VM を割り当てる必要があるユーザを選択します。  (注) 現在、特定のエンドユーザに割り当てることできるのは、VMWare クラウド内の VM だけです。
[VDC] ドロップダウン リスト	VDC を選択します。
[カテゴリ] ドロップダウン リスト	VM のカテゴリを選択します。
[VM ユーザ ラベル] フィールド	VM ラベル（必要な場合）。
[プロビジョニング時間の設定] チェックボックス	VM のプロビジョニング時間を設定するには、このチェックボックスをオンにします。
[プロビジョニング日時] カレンダー、ドロップダウン リスト、オプション ボタン	VM プロビジョニングを実行する日時。日付のカレンダー、時刻（時間および分）のドロップダウン リスト、AM と PM のオプション ボタンがあります。  このオプションは、[プロビジョニング時間の設定] をオンにした場合にのみ表示されます。
[終了時間の設定] チェックボックス	VM の終了時間を設定するには、このチェックボックスをオンにします。
[終了日時] カレンダー、ドロップダウン リスト、オプション ボタン	VM の終了日時。日付のカレンダー、時刻（時間および分）のドロップダウン リスト、AM と PM のオプション ボタンがあります。  このオプションは、[終了時間の設定] をオンにした場合にのみ表示されます。
[コメント] フィールド	必要に応じて、コメントを入力します。

**ステップ 7** [割り当て] をクリックします。

**ステップ 8** [OK] をクリックします。



## VM クレデンシャル

VM に対する Web またはリモート アクセスのログイン クレデンシャルは、管理者が VM がプロビジョニングされるカタログに必要な権限を提供した場合にだけ表示されます。

### VM クレデンシャルの表示

#### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

#### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2 クラウドの名前を選択します。
  - ステップ 3 [VMs] タブを選択します。
  - ステップ 4 リストから VM を選択します。
  - ステップ 5 ツールバーで、[VM クレデンシャルにアクセス] ボタンをクリックします。
- 

## VM のインベントリ収集のリクエストの使用方法

#### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

#### 手順

- 
- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2 クラウド名を選択します。
  - ステップ 3 [VM] タブを選択します。
  - ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
  - ステップ 5 ドロップダウン リストから、[インベントリ収集] を選択します。
  - ステップ 6 [送信] をクリックします。
-

## VNC 接続のテスト

VNC 接続のテストは、トラブルシューティングのために使用します。VNC 接続のテストが成功すると、ホストノードの IP アドレスと VNC ポート番号が表示されます。例：「VNC connectivity intact at 172.29.110.75:5921 (VNC は 172.29.110.75:5921 で接続されています)」。

ただし、接続が失敗すると、エラーメッセージが表示されます。例：「VM is not configured for VNC yet. (VM がまだ VNC に設定されていません)」。

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニューバーで、[仮想]>[コンピューティング]の順に選択します。
  - ステップ 2 クラウドの名前を選択します。
  - ステップ 3 [VM] タブを選択します。
  - ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
  - ステップ 5 ドロップダウンリストから、[VNCのテスト]を選択します。
  - ステップ 6 [VNC接続のテスト]ダイアログボックスで、[送信]をクリックします。
  - ステップ 7 結果を使用して、VNC 接続をトラブルシューティングします。  
(注) 接続に失敗した場合は、VM の IP アドレスに VNC ポートが割り当てられていません。  
詳細については、[VM の VNC コンソールの有効化](#)、(252 ページ) を参照してください。
- 

## VM の複製

VM の複製は、類似する性質を持つ新しい VM を作成する目的で既存の VM をコピーする操作と同じです。複製では、新しい VM に必要な調整を行い、かつ複製元の VM の必要なパラメータを維持することで、時間を節約できます。複製に指定される新しい名前は、システムポリシーで定義されます。

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

## 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウドの名前を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
- ステップ 5** ドロップダウン リストから [複製] を選択します。
- ステップ 6** [VMの複製] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[グループの選択] ドロップダウン リスト	複製する定義済みのグループを選択します。デフォルトでは[デフォルトグループ]が選択されています。
[ユーザに割り当て] チェックボックス	特定のユーザにVMを割り当てる場合は、このチェックボックスをオンにします。  このオプションは、選択したユーザグループに適用されるグループ共有ポリシーについて、エンドユーザに対するリソースの割り当てが有効である場合のみ表示されます。グループ共有ポリシーの作成の詳細については、 <a href="#">グループ共有ポリシーの作成</a> 、(121 ページ) を参照してください。
[ユーザ] ドロップダウン リスト	このVMを割り当てる必要があるユーザを選択します。  (注) 現在、特定のエンドユーザに割り当てることができるのは、VMWare クラウド内の VM だけです。
[Use Linked Clone (リンクされた複製の使用)] チェックボックス	リンクされた複製からVMを複製するには、このチェックボックスをオンにします。  (注) リンクされた複製とは、親VMと仮想ディスクを共有する仮想マシンのコピーです。リンクされた複製は、親VMのスナップショットから作成されます。リンクされた複製は親VMにアクセスする必要があります。親VMにアクセスできない場合、リンクされた複製は無効化されます。

名称	説明
[Snapshot Type (スナップショット タイプ) ] ドロップダウン リスト	<p>リンクされた複製に関連付けられているスナップショットを選択します。</p> <p>次のいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Existing Snapshot (既存のスナップショット) ]</li> <li>• [New Snapshot (新しいスナップショット) ]</li> </ul>
[Select Existing Snapshot (既存のスナップショットの選択) ] フィールド	<p>[選択] をクリックして、既存のスナップショットのリストを表示します。</p> <p>スナップショットをリストから選択し、[選択] をクリックします。</p> <p>(注) このフィールドは、[Existing Snapshot (既存のスナップショット) ] を選択した場合にだけ表示されます。</p>
[スナップショット名] フィールド	<p>スナップショットの名前を指定します。</p> <p>(注) このフィールドは、[New Snapshot (新しいスナップショット) ] を選択した場合にだけ表示されます。</p>

**ステップ 7** [次へ] をクリックします。

**ステップ 8** [Customization Options (カスタマイズ オプション) ] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[カテゴリ] ドロップダウン リスト	必要な VM カテゴリを選択します。
[クレデンシャルオプション] ドロップダウン リスト	<p>ユーザに対し、VM アクセス クレデンシャル (共有) の取得を許可するか、または禁止するかを選択します。</p> <p>管理者が Cisco UCS Director 外部の別のユーザにクレデンシャルをプライベートに送信する場合は、[共有しないでください] オプションを選択します。</p>
[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] チェックボックス	以前に設定した単一データストアに含まれているすべての VM ディスクをプロビジョニングするには、このチェックボックスをオンにします。

名称	説明
[ユーザID] フィールド	ユーザ ID。 このオプションは、[クレデンシャルオプション]の下でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。 このオプションは、[クレデンシャルオプション]の下でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。
[自動ゲストカスタマイズ] チェックボックス	[有効化] チェックボックスがオンになっています。
[プロビジョニング後のカスタムアクション] チェックボックス	ワークフローを付加するには、[有効化] をクリックします。[ワークフロー] ドロップダウンリストに、選択できるワークフローのリストが表示されます。プロビジョニングの開始時に、選択されたワークフローが開始します。
[VMアプリケーションの請求間隔] ドロップダウン リスト	[毎時間] または [毎月] を選択します。
[アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	テンプレートに含まれているアプリケーションのコスト。
[非アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	時間あたりまたは月あたりの非アクティブ状態の VM のこのカタログにかかるコスト。

**ステップ 9** [次へ] をクリックします。

**ステップ 10** [導入設定] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[VDCの選択] ドロップダウン リスト	VM に設定するポリシーを含む VDC を選択します。
[コメント] フィールド	任意で、VDC の説明を入力します。

名称	説明
[プロビジョニング] ドロップダウン リスト	VDC を今すぐプロビジョニングするには [今すぐ] を選択し、VDC を後でプロビジョニングするには [あとで] を選択します。  [あとで] を選択すると、日付と時刻を指定するためのフィールドが表示されます。
[リース時間] チェックボックス	リースの有効期間を設定するには、このチェックボックスをオンにします。
[日数] フィールド	リース期間の日数を指定します。  (注) このフィールドは、[リース時間] チェックボックスをオンにした場合にだけ表示されます。
[時間] フィールド	リース期間の時間数を指定します。  (注) このフィールドは、[リース時間] チェックボックスをオンにした場合にだけ表示されます。

**ステップ 11** [次へ] をクリックします。

**ステップ 12** [カスタム仕様] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[CPUコア] ドロップダウン リスト	プロビジョニングする VM の CPU コアを選択します。
[メモリ] ドロップダウン リスト	プロビジョニングする VM のメモリ容量を選択します。

**ステップ 13** [次へ] をクリックします。

**ステップ 14** [データストアの選択] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[VMディスク] 鉛筆アイコン	ディスクにデータストアを割り当てるには、[VMディスク] 鉛筆アイコンをクリックします (ディスクが使用可能な場合)。

- ステップ 15** [Edit VM Disks Entry (VM ディスク エントリの編集)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
ディスク名	データストアが割り当てられている VM ディスクの名前。
[ディスクの種類]	VM ディスクの種類を選択します。例：システム。
[Selected Datastores (選択したデータストア)]	この VM ディスクに割り当てるデータストアを選択します。表示されるデータストア選択項目は、VDC に付加されているデータ ストレージ ポリシーから取り込まれます。

- ステップ 16** [送信] をクリックします。

- ステップ 17** [次へ] をクリックします。

- ステップ 18** [Select VM Networks (VM ネットワークの選択)] パネルで、次のフィールドから選択します。

名称	説明
[VM ディスク] 鉛筆アイコン	VM ネットワークを編集するには、このアイコンをクリックします。

(注) ネットワークポリシーの[エンドユーザにオプションのNICの選択を許可]チェックボックスがオフの場合、[Select VM Networks (VM ネットワークの選択)] パネルは空です。

- ステップ 19** [選択] ダイアログボックスで、VM に関連付けるクラウドを選択します。

- ステップ 20** [送信] をクリックします。

- ステップ 21** [サマリー] パネルで複製 VM の情報を確認します。

- ステップ 22** [Submit (送信)] をクリックします。  
複製 VM の新しい名前は、VDC のポリシーから取得されます。

## VM の VDC への移動

VM を VDC に移動すると、VDC システム ポリシーのルールが VM で採用されます。既存の VM は、VDC に移動されたものに置き換えられます。



(注) 古い VM は削除されます。新しい VM 名が、システム ポリシーに従って割り当てられます。

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング]の順に選択します。
- ステップ 2 クラウドの名前を選択します。
- ステップ 3 [VM] タブを選択します。
- ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
- ステップ 5 ドロップダウン リストから、[VMをVDCに移動]を選択します。
- ステップ 6 [VMをVDCに移動] ダイアログ ボックスでは、VDC を複製するときと同じ方法で、移動する VM を変更できます。詳細については、[VM の複製](#)、(256 ページ) を参照してください。

## VM の再同期

### はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング]の順に選択します。
- ステップ 2 クラウドの名前を選択します。
- ステップ 3 [VM] タブを選択します。
- ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
- ステップ 5 ドロップダウン リストから [再同期VM]を選択します。
- ステップ 6 [再同期VM] ダイアログ ボックスの [最大待機時間] ドロップダウン リストで、0 ～ 30 の分単位の数値を選択します。
- ステップ 7 [送信] をクリックします。





## 第 16 章

# CloudSense 分析の管理

---

この章は、次の内容で構成されています。

- [CloudSense Analytics](#) について, 263 ページ
- [レポートの生成](#), 264 ページ
- [アセスメントの生成](#), 264 ページ

## CloudSense Analytics について

Cisco UCS Director の CloudSense Analytics は、インフラストラクチャ リソースの使用率、IT インフラストラクチャスタック全体にわたる重要なパフォーマンスメトリック、およびリアルタイムのキャパシティを可視化します。CloudSense は、仮想インフラストラクチャおよびクラウドインフラストラクチャのキャパシティのトレンド、予測、レポート、プランニングの性能を大きく改善します。

CloudSense を使用して次のレポートを生成できます。

- 顧客の課金レポート
- EMC のストレージ インベントリ レポート
- NetApp のストレージ インベントリ レポート
- グループごとの NetApp ストレージ節約量
- NetApp ストレージ節約量レポート
- ネットワークのインパクト アセスメント レポート
- 仮想コンピューティング インフラストラクチャの組織使用状況
- PNSC アカountの要約レポート
- グループの物理インフラストラクチャのインベントリ レポート
- ストレージの重複除外状況レポート

- グループのストレージ インベントリ レポート
- シン プロビジョニングされた領域レポート
- UCS データセンターのインベントリ レポート
- グループごとの VM アクティビティ レポート
- VMware ホストのパフォーマンス サマリー
- 仮想インフラストラクチャおよびアセット レポート

## レポートの生成

### はじめる前に

このタスクを実行する前に、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[CloudSense]>[レポート] を選択します。
- ステップ 2** 左側のパネルからレポートを選択します。
- ステップ 3** [レポートの生成] をクリックします。  
このステップにより、新しいインスタント レポートが HTML 形式または PDF 形式で生成されます。
- 

## アセスメントの生成

### はじめる前に

このタスクを実行する前に、アプライアンスにログインする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[CloudSense]>[アセスメント] の順に選択します。
- ステップ 2** [Virtual Infrastructure Assessment Report(仮想インフラストラクチャ アセスメント レポート) ] をクリックします。
- ステップ 3** [レポートの生成] をクリックします。  
このステップにより、新しいインスタント レポートが HTML 形式または PDF 形式で生成されます。
-







付 録

# A

## 付 録

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [ESX サーバでの VNC コンソールの設定, 267 ページ](#)

## ESX サーバでの VNC コンソールの設定

はじめる前に

VM の VNC コンソールにアクセスするには、ハイパーバイザで ESX/ESXi サーバの VNC ポート (5900 ~ 5964) を開きます。Cisco UCS Director では、VM の VNC コンソールを自動的に設定できます。



(注)

現在、VNC コンソールのアクセス設定では、ESX 4.X および ESXi 5.0 バージョンを搭載したハイパーバイザがサポートされています。

---

手順

---

- ステップ 1** ESXi5.x ホストにログインします。
- ステップ 2** シェルを使用して次のコマンドを実行し、ファイアウォールの設定を無効化します。  
**# cat /etc/vmware/firewall/vnc.xml**
- ステップ 3** XML 設定をコピーして vnc.xml ファイルに貼り付けます。

```
<!-- Firewall configuration information for VNC -->
<ConfigRoot>
  <service>
    <id>VNC</id>
    <rule id='0000'>
      <direction>inbound</direction>
      <protocol>tcp</protocol>
      <porttype>dst</porttype>
```

```

    <port>
    <begin>5901</begin>
    <end>6000</end>
  </port>
</rule>
<rule id='0001'>
  <direction>outbound</direction>
  <protocol>tcp</protocol>
  <porttype>dst</porttype>
  <port>
    <begin>0</begin>
    <end>65535</end>
  </port>
</rule>
<enabled>true</enabled>
<required>false</required>
</service>
</ConfigRoot>

```

**ステップ 4** ファイアウォール ルールを更新し、新しい設定が正確にロードされたことを確認します。

```

~ # esxcli network firewall refresh
~ # esxcli network firewall ruleset list | grep VNC
VNC    true #*****

```

---